

平戸市
総合戦略等の策定に係る
アンケート調査報告書

平成 27 年 10 月
長崎県 平戸市

～ 目 次 ～

第1章 調査概要.....	1
I 調査の目的.....	3
II 調査の設計.....	3
III 調査結果利用上の注意.....	3
IV マトリックス分析について.....	4
V 調査回答者の属性.....	5
第2章 調査結果概要.....	7
I 国との比較.....	9
II 平戸市に求められている施策.....	12
第3章 調査結果.....	17
I 仕事について.....	19
II 高校生の進路希望について.....	24
III 結婚・出産・子育てについて.....	28
IV 観光について.....	37
V 平戸市への定住・移住について.....	39
VI 自由記述について.....	45

第 1 章 調査概要

I 調査の目的

平戸市総合戦略を策定するにあたり、総合戦略策定のための基礎資料にすることを目的とする。

II 調査の設計

調査は、平成27年7月～8月に実施し、調査方法等は下表の通りである。

調査種類	市民 アンケート	15～18歳 アンケート
調査対象	平戸市在住の方 住民基本台帳から 無作為抽出（20～59歳）	平戸市在住の方 住民基本台帳から 無作為抽出（15～18歳）
調査方法	郵送法	郵送法
配布数	2,500件	500件
有効回答数	607件	183件
有効回答率	24.3%	36.6%

III 調査結果利用上の注意

- ・回答率は百分比の小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率を合計しても原則として100%に一致しない。
- ・数表、図表は、スペースの都合上、文言を省略している場合がある。

IV マトリックス分析について

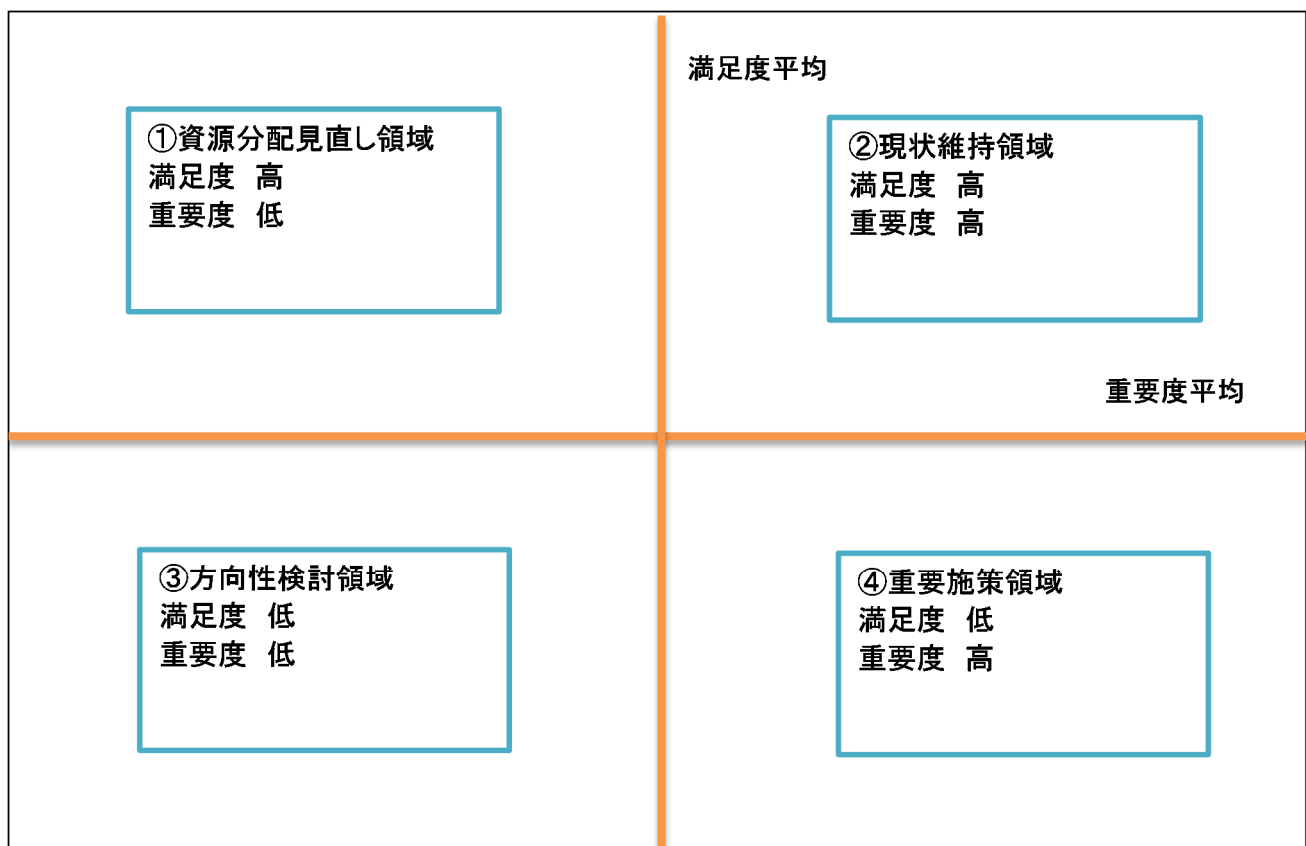
施策への満足度や重要度の評価に関する設問においては、各施策への回答を-2、-1、1、2点（低→高）として数値化を行い、分析を行った。

全施策の平均値を基準に、4つの領域に分けた。

①満足度が平均値を下回っている

②重要度が平均値を上回っている

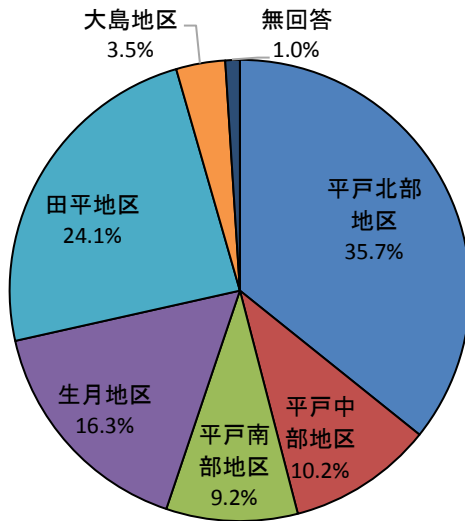
のどちらにも該当する施策を重点的に取り組む必要がある施策（重点施策領域）とした。



V 調査回答者の属性

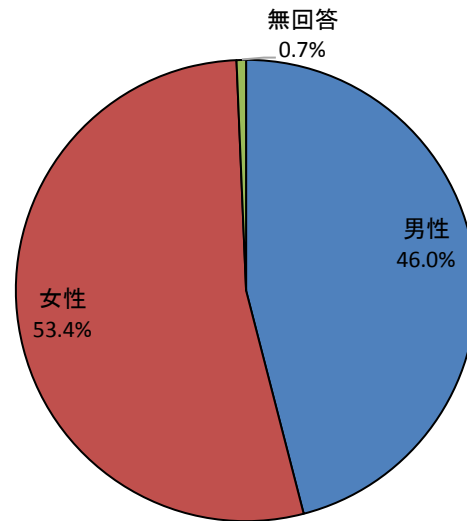
1. 町民アンケート

・居住地



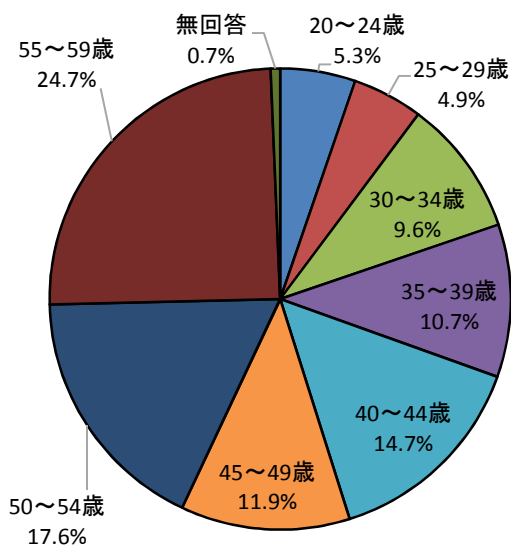
N=607

・性別

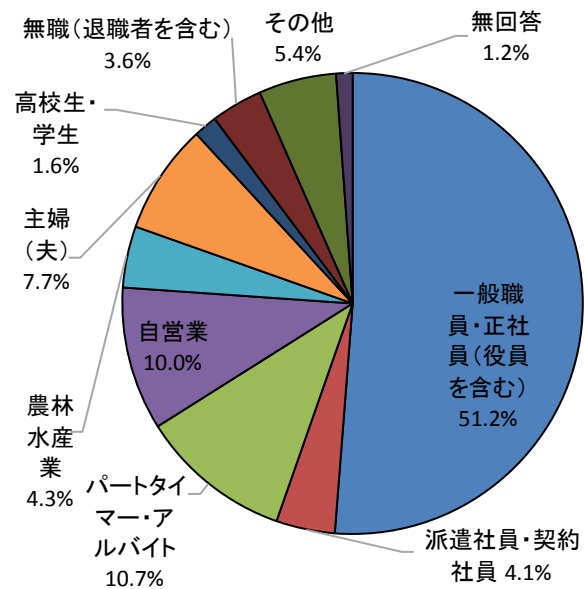


N=607

・年齢



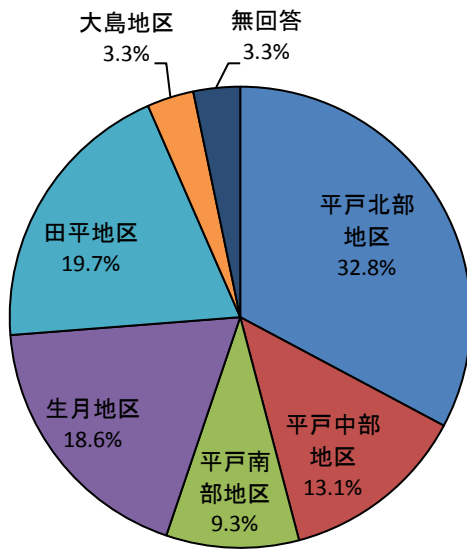
・職業



N=607

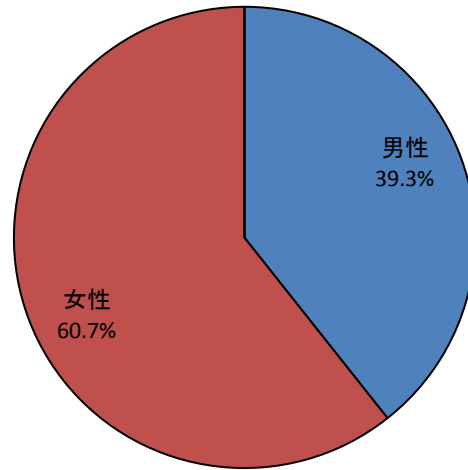
2. 15~18歳アンケート

・居住地



N=183

・性別



N=183

第 2 章 調查結果概要

I 国との比較

1. まち・ひと・しごと創生総合戦略との比較

今回の調査結果より、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略において設定したK P I（評価指標）と比較可能な数値について、国の現状値との比較を行った。

結果は以下のとおりである。

※国の現状値は国のまち・ひと・しごと創生総合戦略より

指標	平戸市	国	
		現状値	目標
◎安心して結婚・妊娠・出産・子育てできるような社会を達成していると考えている人の割合※1 ※2	20～59 歳 24.5%	20～59 歳 19.4%(H25)	40%以上
◎第1子出産前後の女性の継続就業率※3	70.6%	38%(H22)	55%
理想の子供数を持たない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を挙げる人の割合	45.9% ※4	60.4%(H22) ※5	低下させる
週労働時間 60 時間以上の雇用者の割合	10.9%	8.8%(H25)	5%
年次有給休暇取得率※6	30.9%	48.8%(H25)	70%
子育てにかかる経済的負担として大きいと思われるものとして「保育所・幼稚園・認定こども園にかかる費用」を挙げる人の割合	20～59 歳 56.1%	20～59 歳 39.1%(H24)	低下させる

※1 ◎は国の基本目標において設定されたK P Iを示す。(以下同じ)

※2 「安心して妊娠・出産できるような社会」の達成度について、「そう思う」「ややそう思う」と回答した人の割合

※3 第1子妊娠時に就業していた人のうち、第1子1歳時に「就業していた」もしくは「育児休暇を取得していた」人の割合（平成22～26年出生児の母親を対象）

※4 50歳未満の夫婦を対象に算出

※5 初婚同士の夫婦の50歳未満女性が対象

※6 取得日数／付与日数

2. まち・ひと・しごと創生長期ビジョンとの比較

今回の調査結果より、国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョン<参考資料集>において示された指標と比較可能な数値について、国との比較を行った。

結果は以下のとおりである。

※国の現状値は国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョン<参考資料集>より

(1) 未婚者の結婚の意思等、夫婦の理想・予定子ども数

指標	平戸市	国
未婚者の結婚の意志	20～34 歳	18～34 歳
	男性	男性
	76.7%	86.3%(H22)
	女性	女性
	78.1%	89.4%(H22)
未婚者の希望子ども数	20～34 歳	18～34 歳
	男性	男性
	2.40 人	2.04 人(H22)
	女性	女性
	2.52 人	2.12 人(H22)
夫婦の理想子ども数	夫婦の 50 歳	夫婦の 50 歳
	未満女性	未満女性
	3.24 人	2.42 人(H22)
夫婦の予定子ども数	夫婦の 50 歳	夫婦の 50 歳
	未満女性	未満女性
	2.55 人	2.07 人(H22)

(2) 男性の育児・家事への参加

指標	平戸市	国
6 歳未満児をもつ男性の家事・育児時間	家事・育児	家事・育児
	184 分	67 分(H23)
	うち育児	うち育児
	130 分	39 分(H23)

※国と

(3) 希望出生率

希望出生率の算出		平戸市	国
有配偶者割合	国勢調査	44.6%	34%
		×	×
夫婦の予定子ども数	アンケート調査	2.55人	2.07人
		×	×
離死別等の影響	社人研による試算	93.8%	93.8%
		+	+
独身者割合	国勢調査	55.4%	66%
		×	×
独身者のうち結婚を希望する者の割合	アンケート調査	78.1%	89.0%
		×	×
結婚を希望する独身者の希望子ども数	アンケート調査	2.52人	2.12人
		×	×
離死別等の影響	社人研による試算	93.8%	93.8%
		=	=
	希望出生率	2.09人	1.83人

【参考】出生を阻む要因の比較

理想の子ども数を持ってない理由			
平戸市	1位	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	45.9%
	2位	高年齢で生むのはいやだから	22.9%
	3位	欲しいけれどもできないから	21.0%
国	1位	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	60.4%
	2位	高年齢で生むのはいやだから	35.1%
	3位	欲しいけれどもできないから	19.3%

※国の数値は出生動向基本調査より

子育てにかかる経済的負担として大きいと思われるもの			
平戸市	1位	学校教育費（大学・短大・専門学校など）	73.7%
	2位	保育所・幼稚園・認定こども園にかかる費用	56.1%
	3位	学校教育費（小学校・中学校・高校）	50.6%
国	1位	学校教育費（大学・短大・専門学校など）	55.8%
	2位	学習塾など学校以外の教育費	47.0%
	3位	保育所・幼稚園・認定こども園にかかる費用	39.1%

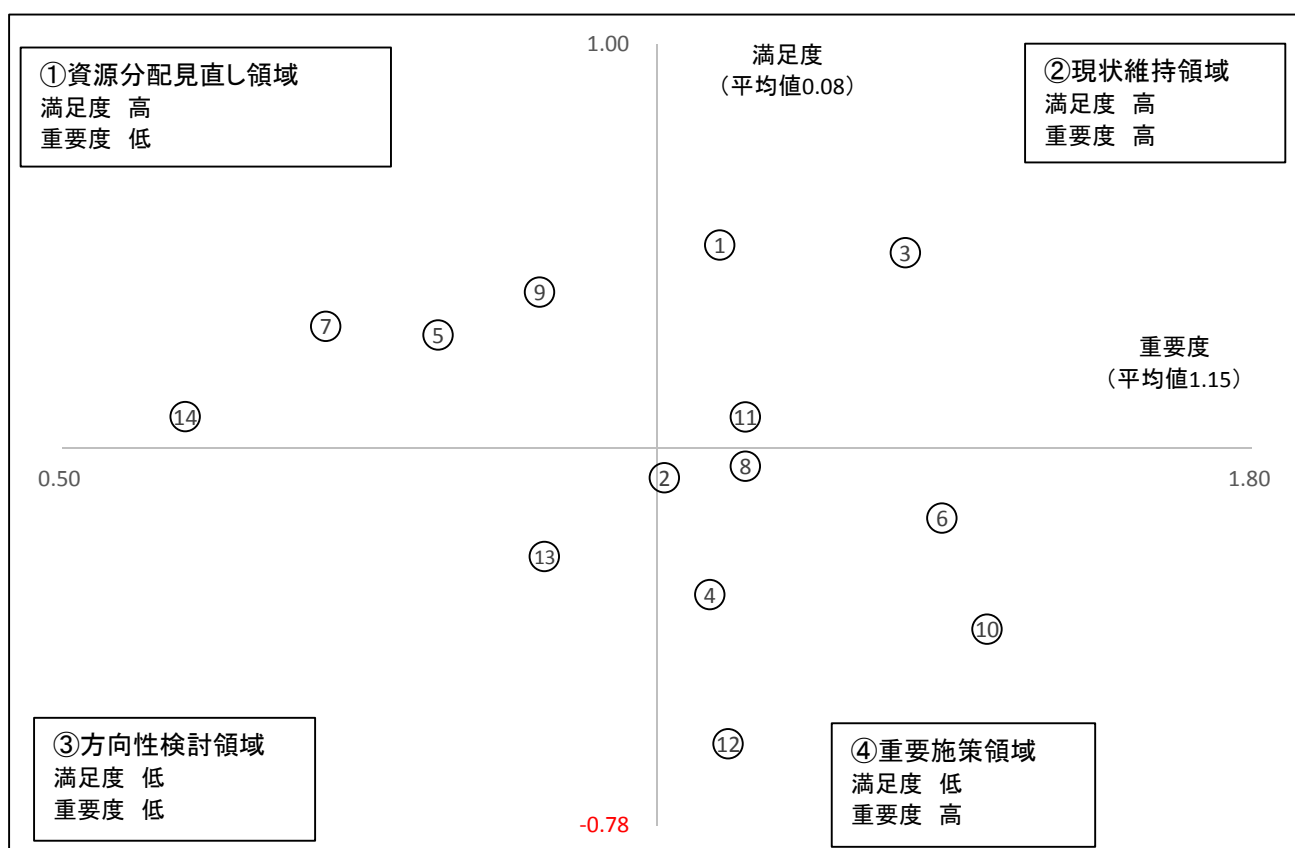
※国の数値は子ども・子育てビジョンに係る点検・評価のための指標調査より

II 平戸市に求められている施策

「平戸市に住みたい・住み続けたいまちづくり」という観点から、平戸市に求められている施策の抽出を行った。

1. 市民

「快適な生活環境の充実」、「まちを支えるネットワークの充実」、「ともに支えあう福祉の充実」、「生きがい輝く生涯学習の推進」、「次代を見据えた地域産業の振興」、「新たな産業の創造」は重要度が高く、満足度が低い、重要施策となっている。

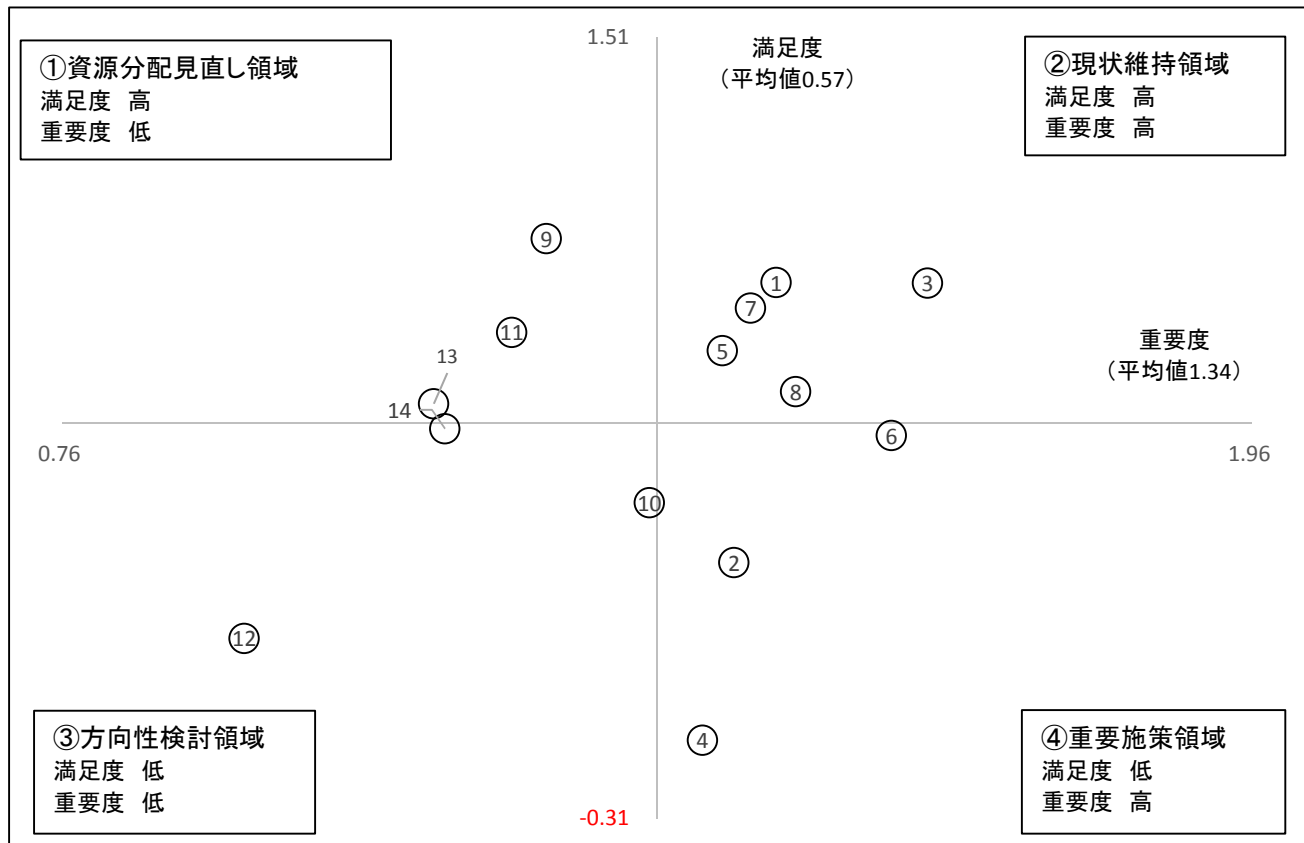


		重要度	満足度
1	美しい自然環境の保全・継承 (環境保全対策の推進など)	1.22	0.54
2	快適な生活環境の充実 (魅力ある居住空間の形成など)	1.16	0.01
3	安全・安心なまちづくりの推進 (総合的な防災対策の推進など)	1.42	0.52
4	まちを支えるネットワークの充実 (交通ネットワークの基盤の整備など)	1.21	-0.25
5	笑顔いっぱいのまちづくり (健康づくりの推進など)	0.91	0.34
6	ともに支えあう福祉の充実 (子育て支援、高齢者福祉の充実など)	1.46	-0.08
7	人権・平和意識の確立 (人権教育の充実など)	0.79	0.36
8	生きがい輝く生涯学習の推進 (幼児教育、学校教育の充実など)	1.25	0.04
9	地域固有の文化の継承と創造 (歴史・伝統文化の保存・継承・活用)	1.02	0.43
10	次代を見据えた地域産業の振興 (農林業・水産業・商工業の振興など)	1.51	-0.33
11	平戸ブランドの確立 (特産品の振興)	1.25	0.15
12	新たな産業の創造 (新たな産業を生み出す環境づくり)	1.23	-0.59
13	宝を活かした観光の推進 (テーマ観光の推進など)	1.03	-0.17
14	地域・国際交流の推進 (市民の交流活動の支援など)	0.63	0.15
	平均値	1.15	0.08

※平均を超えるものは青、平均未満のものは赤で網掛けしている。

2. 高校生

「美しい自然環境の保全・継承」、「まちを支えるネットワークの充実」、「ともに支えあう福祉の充実」、「次代を見据えた地域産業の振興」は重要度が高く、満足度が低い、重要施策となっている。



		重要度	満足度
1	美しい自然環境の保全・継承 (環境保全対策の推進など)	1.48	0.94
2	快適な生活環境の充実 (魅力ある居住空間の形成など)	1.44	0.29
3	安全・安心なまちづくりの推進 (総合的な防災対策の推進など)	1.63	0.94
4	まちを支えるネットワークの充実 (交通ネットワークの基盤の整備など)	1.41	-0.13
5	笑顔いっぱいのまちづくり (健康づくりの推進など)	1.43	0.78
6	ともに支えあう福祉の充実 (子育て支援、高齢者福祉の充実など)	1.60	0.58
7	人権・平和意識の確立 (人権教育の充実など)	1.45	0.88
8	生きがい輝く生涯学習の推進 (幼児教育、学校教育の充実など)	1.50	0.68
9	地域固有の文化の継承と創造 (歴史・伝統文化の保存・継承・活用)	1.25	1.04
10	次代を見据えた地域産業の振興 (農林業・水産業・商工業の振興など)	1.35	0.43
11	平戸ブランドの確立 (特産品の振興)	1.21	0.82
12	新たな産業の創造 (新たな産業を生み出す環境づくり)	0.94	0.11
13	宝を活かした観光の推進 (テーマ観光の推進など)	1.13	0.66
14	地域・国際交流の推進 (市民の交流活動の支援など)	1.15	0.60
平均値		1.36	0.61

※平均を超えるものは青、平均未満のものは赤で網掛けしている。

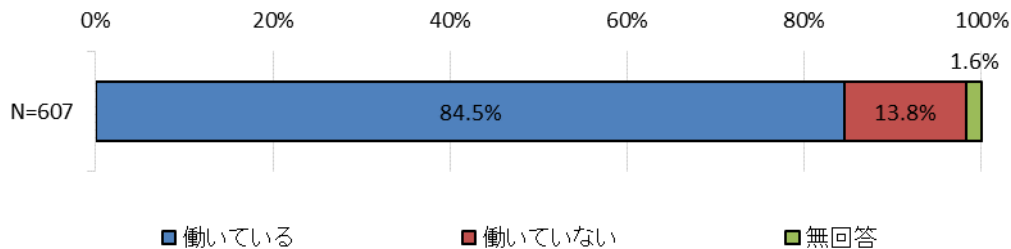
第 3 章 調査結果

I 仕事について

1. 現在の状況

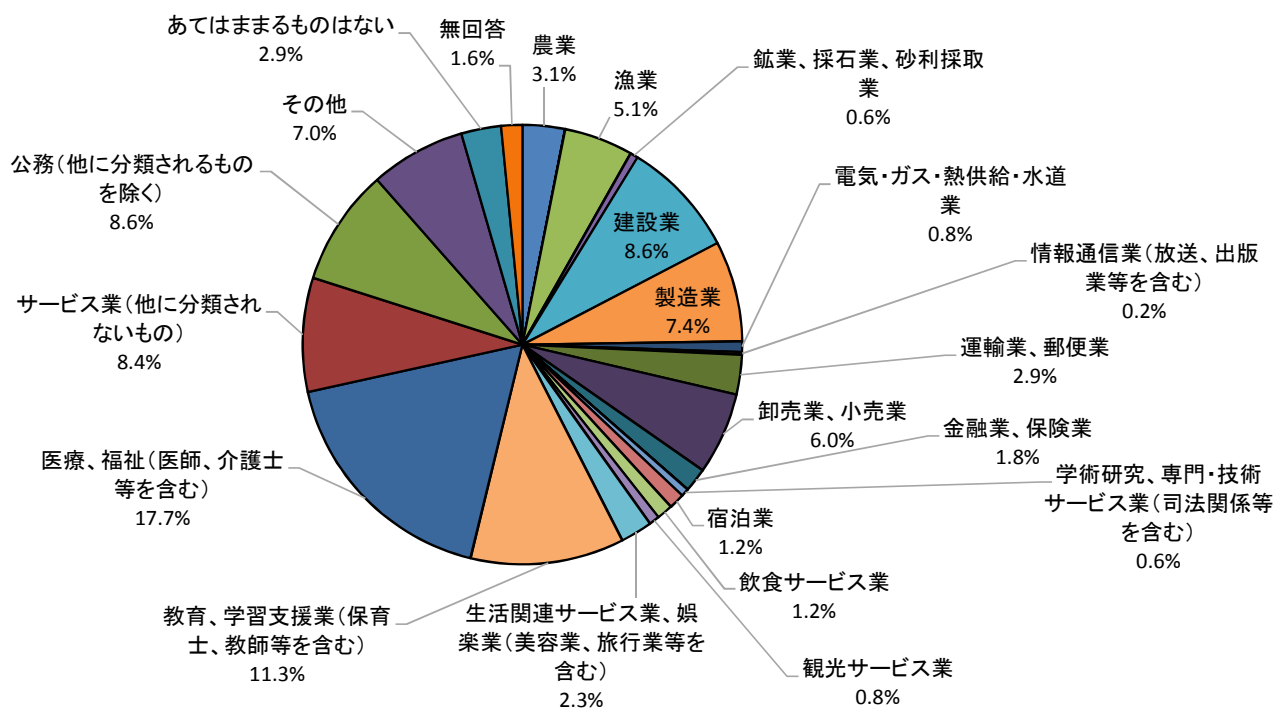
(1) 現在働いていますか。(市民)

「働いている」が84.5%、「働いていない」が13.8%となっている。



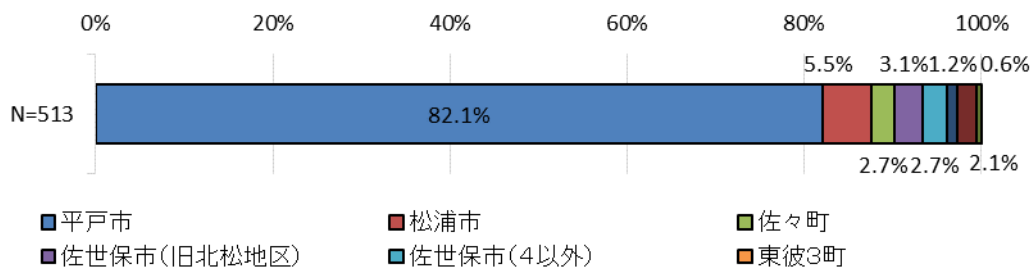
(2) 現在の職業(市民)

「医療、福祉(医師、介護士等を含む)」が17.7%と最も多く、次いで、「教育、学習支援業(保育士、教師等を含む)」の11.3%、「公務(他に分類されるものを除く)」の8.6%の順となっている。



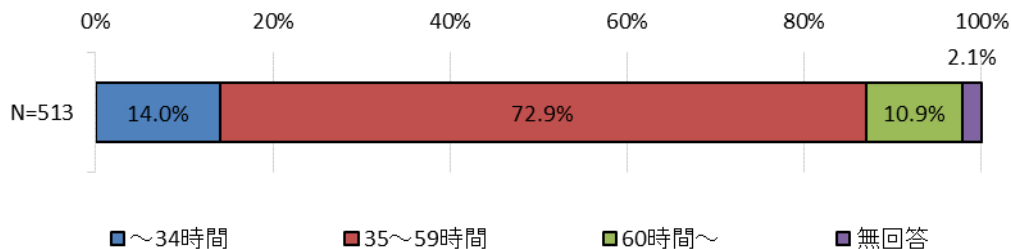
(3) 勤務場所（市民）

「平戸市」が82.1%と最も多く、次いで、「松浦市」の5.5%、「佐世保市（旧北松地区）」の3.1%の順となっている。



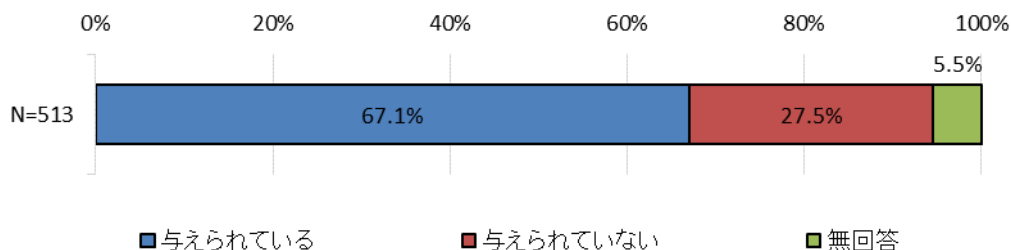
(4) 1週間あたりの労働時間（市民）

「35～59時間」が72.9%と最も多く、次いで、「～34時間」の14.0%、「60時間～」の10.9%の順となっている。



(5) 有給休暇の有無（市民）

「与えられている」が67.1%、「与えられていない」が27.5%となっている。

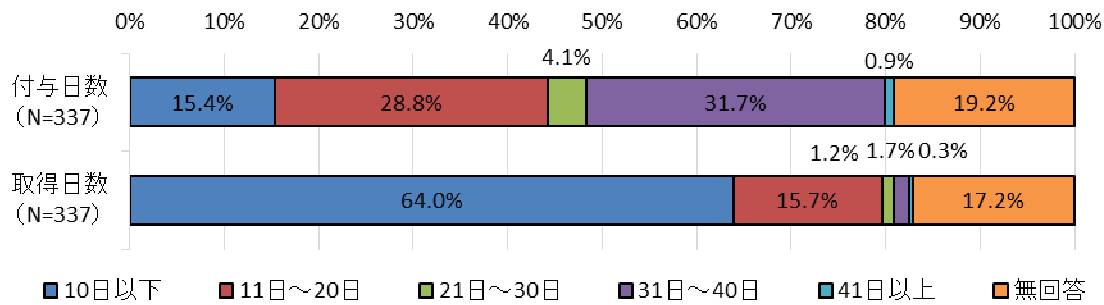


(6) 有給休暇の付与日数と取得日数（市民）

付与日数においては、「31～40日」が31.7%と最も多くなっている。

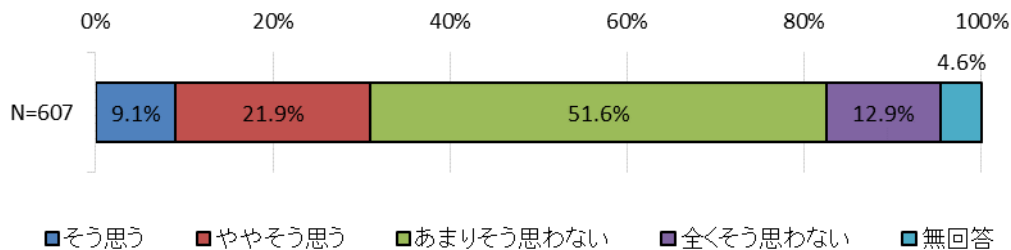
取得日数においては、「10日以下」が64.0%と最も多くなっている。

付与日数に対する取得日数の割合は、30.9%となっており、全国値（48.8%）を下回っている。



(7) 現在の平戸市は働き続けることができる環境にあると思いますか。（市民）

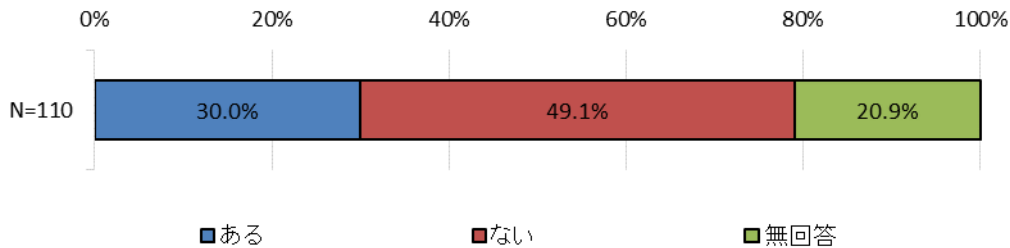
「あまりそう思わない」が51.6%と最も多く、次いで、「ややそう思う」の21.9%、「全くそう思わない」の12.9%の順となっており、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合は31.0%にとどまっている。



2. 今後の希望

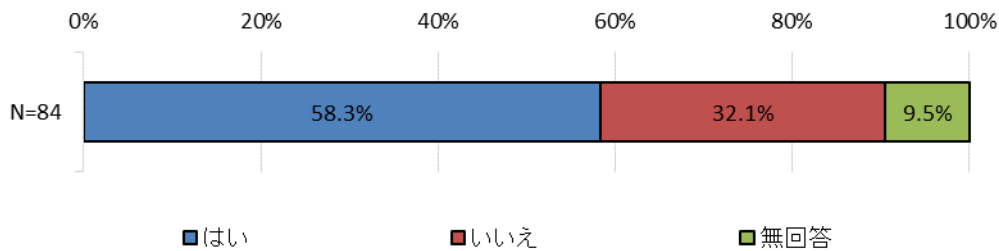
(1) (現在、派遣社員・契約社員、パート・アルバイトの方) 一般職員・正社員等での雇用希望 (市民)

「ない」が49.1%、「ある」が30.0%となっている。



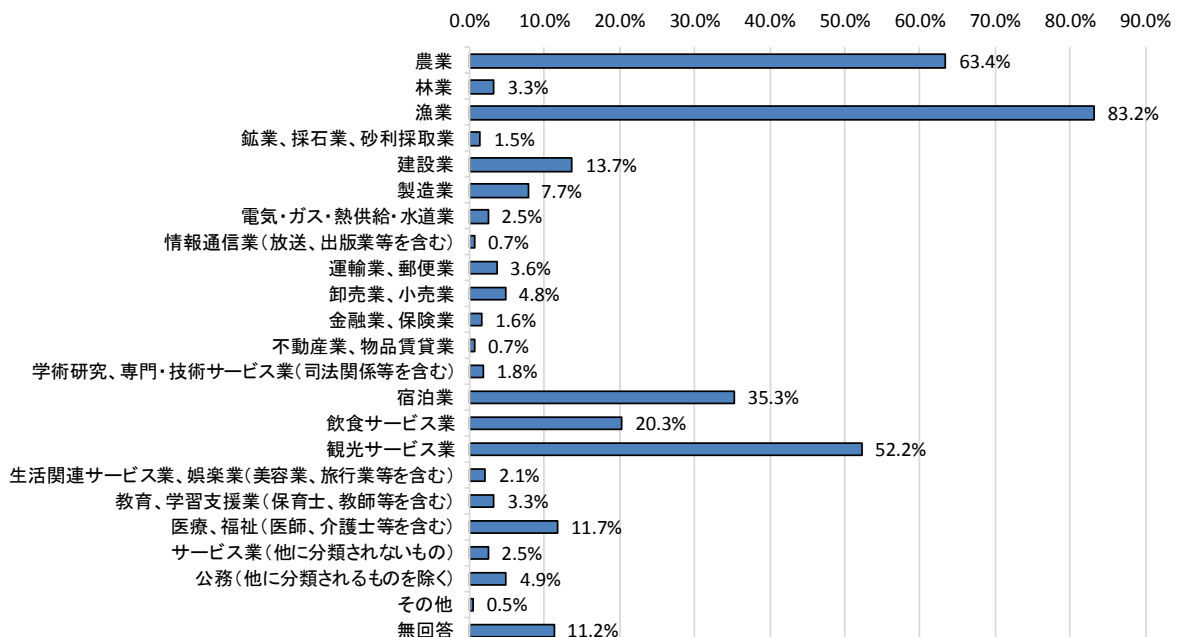
(2) (現在、働いていない方) 今後働くことを希望しますか。(市民)

「はい」が58.3%、「いいえ」が32.1%となっている。



(3) 平戸市の特徴だといえる産業 (市民)

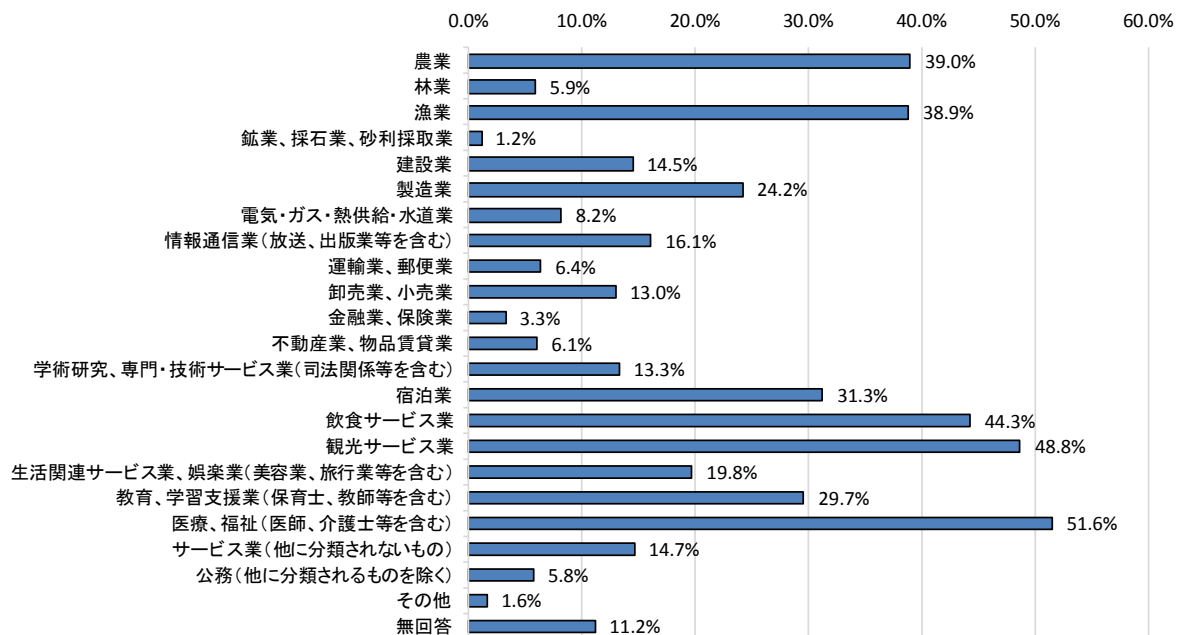
「漁業」が83.2%と最も多く、次いで、「農業」の63.4%、「観光サービス業」の52.2%の順となっている。



N=607

(4) 平戸市に充実してほしい産業（市民）

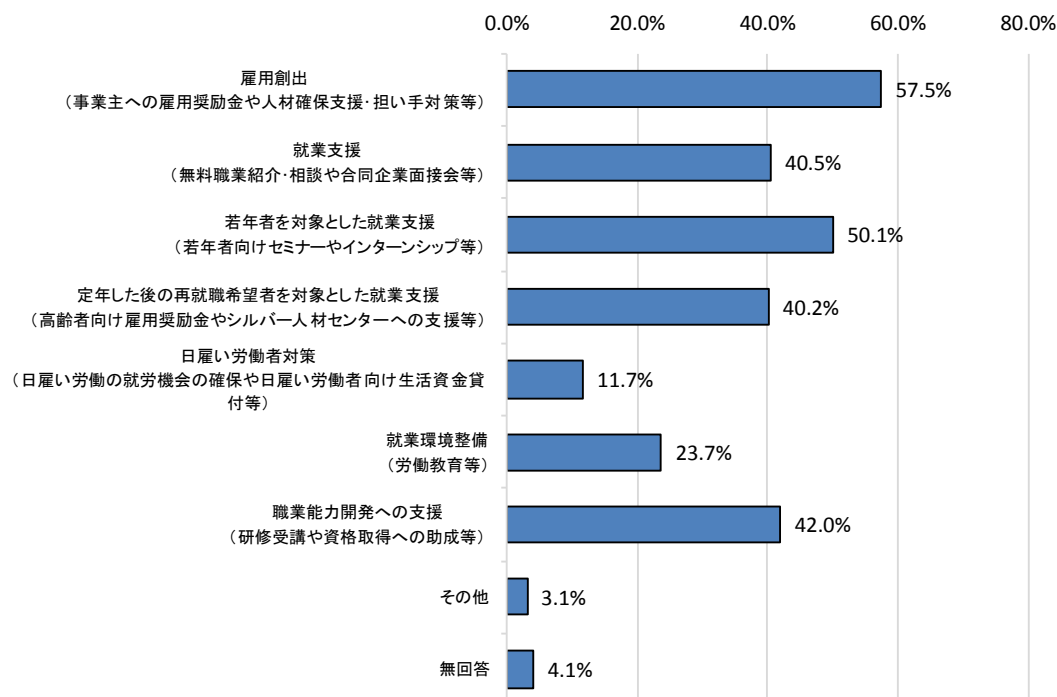
「医療、福祉（医師、介護士等を含む）」が51.6%と最も多く、次いで、「観光サービス業」の48.8%、「飲食サービス業」の44.3%の順となっている。



N=607

(5) 平戸市の雇用を安定・充実させるためにどのような支援策を実施すれば良いと思いますか。（市民）

「雇用創出」が57.5%と最も多く、次いで、「若年者を対象とした就業支援」の50.1%、「職業能力開発への支援」の42.0%の順となっている。



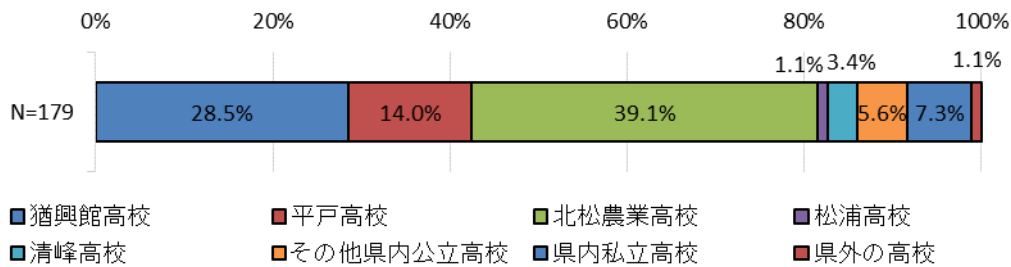
N=607

II 高校生の進路希望について

1. 就学状況

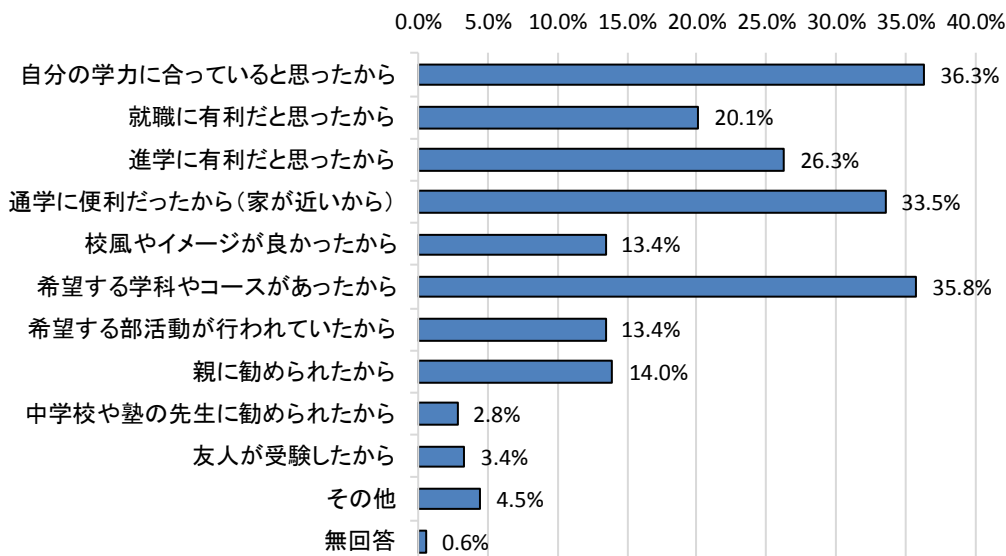
(1) 高校名（高校生）

「北松農業高校」が39.1%と最も多く、次いで、「猶興館高校」の28.5%の順となっている。



(2) 高校を選んだ理由（高校生）

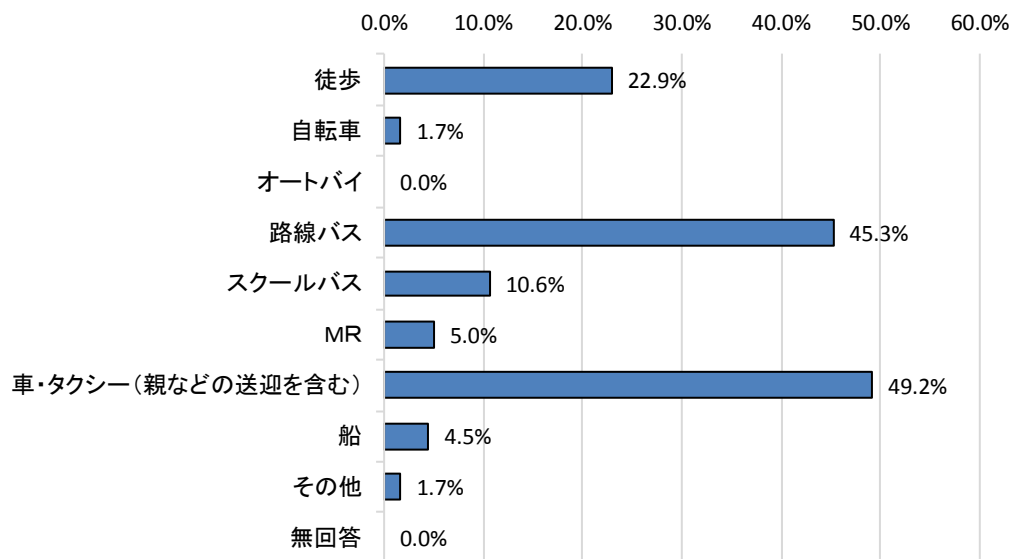
「自分の学力に合っていると思ったから」が36.3%と最も多く、次いで、「希望する学科やコースがあったから」の35.8%、「通学に便利だったから（家が近いから）」の33.5%の順となっている。



N=179

(3) 通学方法（高校生）

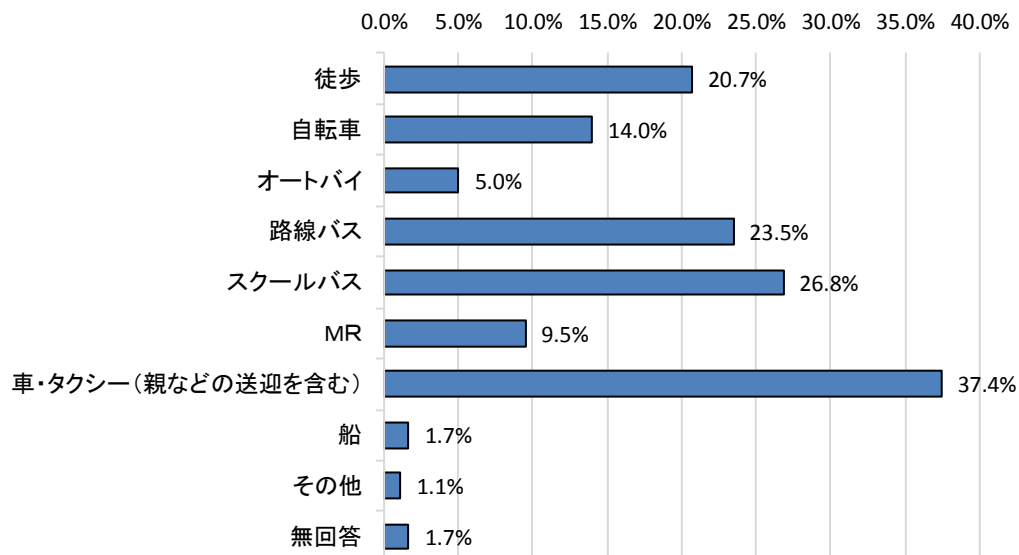
「車・タクシー（親などの送迎を含む）」が49.2%と最も多く、次いで、「路線バス」の45.3%、「徒歩」の22.9%の順となっている。



N=179

(4) 希望する通学方法（高校生）

「車・タクシー（親などの送迎を含む）」が37.4%と最も多く、次いで、「スクールバス」の26.8%、「路線バス」の23.5%の順となっている。

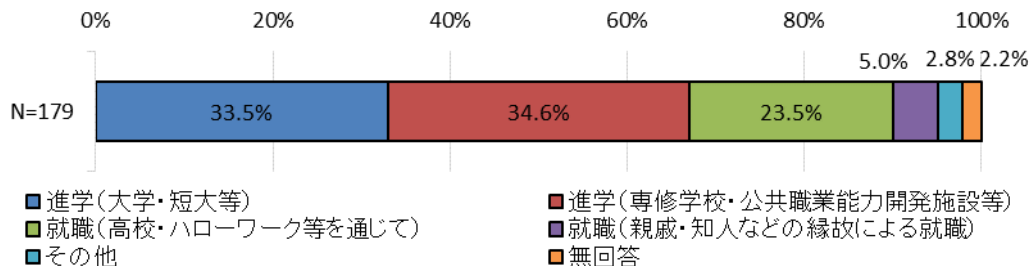


N=179

2. 高校卒業後の進路希望

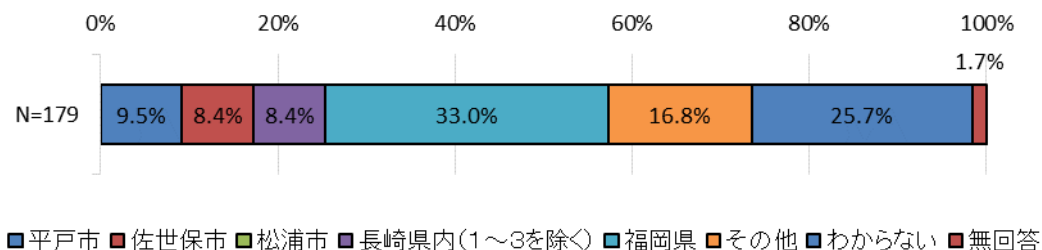
(1) 高校卒業後の進路について 希望するもの（高校生）

「進学（専修学校・公共職業能力開発施設等）」が34.6%と最も多く、次いで、「進学（大学・短大等）」の33.5%、「就職（高校・ハローワーク等を通じて）」の23.5%の順となっている。



(2) 高校卒業後に住む場所について 希望した進路に進んだ場合（高校生）

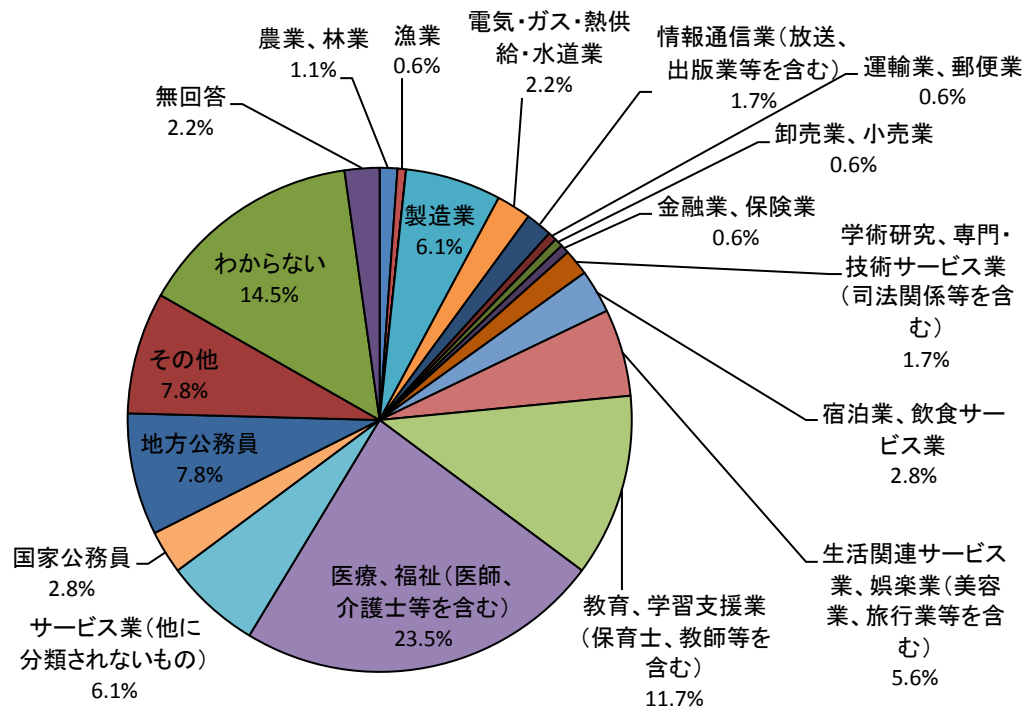
「福岡」が33.0%と最も多く、次いで、「わからない」の25.7%、「その他」の16.8%の順となっている。



3. 将来希望する職業

(1) 将来就きたい職業（高校生）

「医療、福祉(医師、介護士を含む)」が23.5%と最も多く、次いで、「わからない」の14.5%、「教育、学習支援業(保育士、教師等を含む)」の11.7%の順となっている。



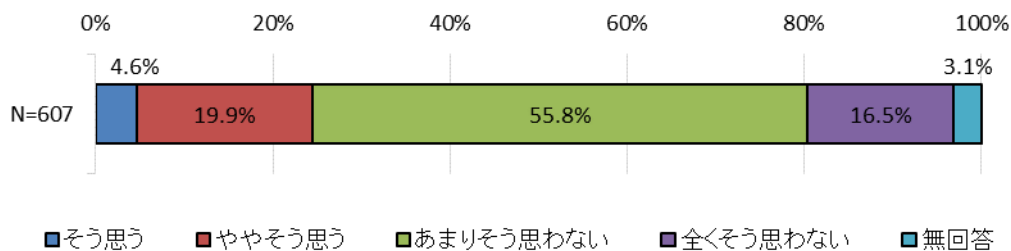
N=179

III 結婚・出産・子育てについて

1. 結婚・出産・子育ての状況

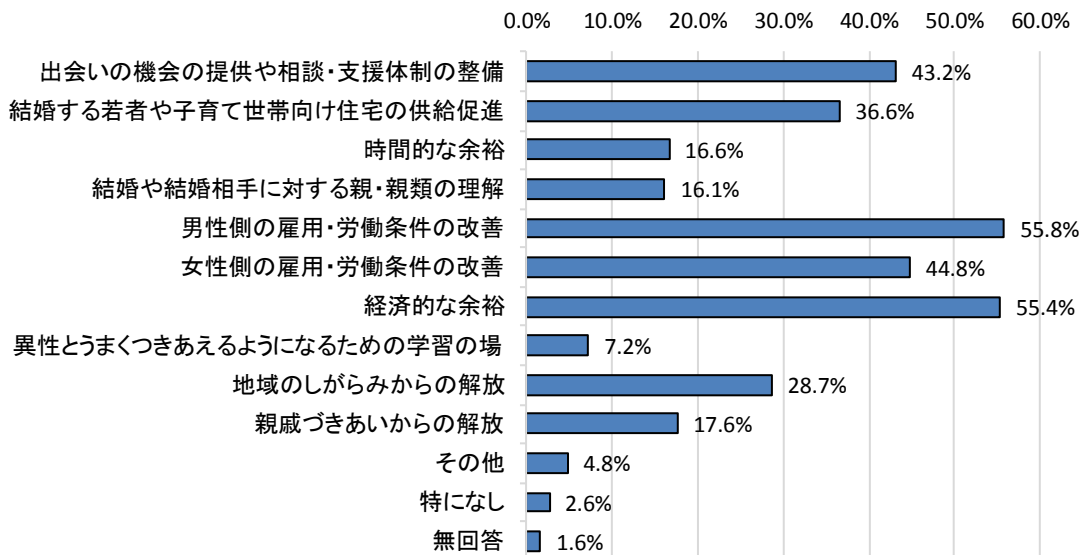
(1) 現在、平戸市は安心して妊娠・出産できるような環境・社会であると思いますか
(市民)

「あまりそう思わない」が55.8%と最も多く、次いで、「ややそう思う」の19.9%、「全くそう思わない」の16.5%の順となっており、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合は24.5%にとどまっている。



(2) 平戸市に住んでいる人が結婚するために必要な環境はどのようなことだと思いますか。(市民)

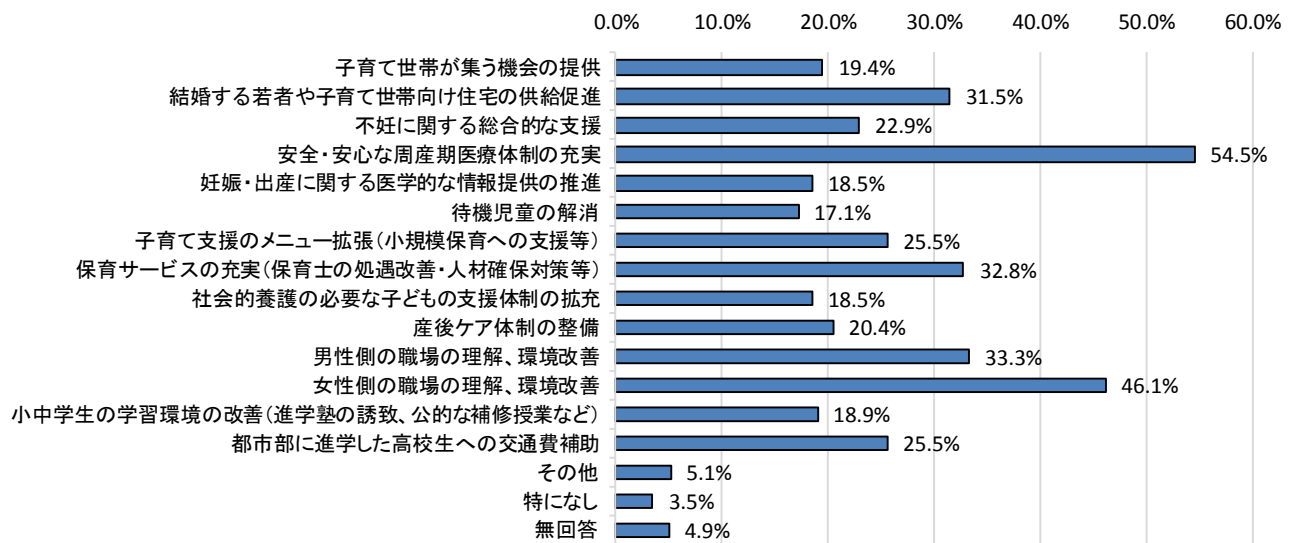
「男性側の雇用・労働条件の改善」が55.8%と最も多く、次いで、「経済的な余裕」の55.4%、「女性側の雇用・労働条件の改善」の44.8%の順となっている。



N=607

(3) 平戸市に住んでいる人が妊娠・出産するために必要な環境はどのようなことだと思いますか。(市民)

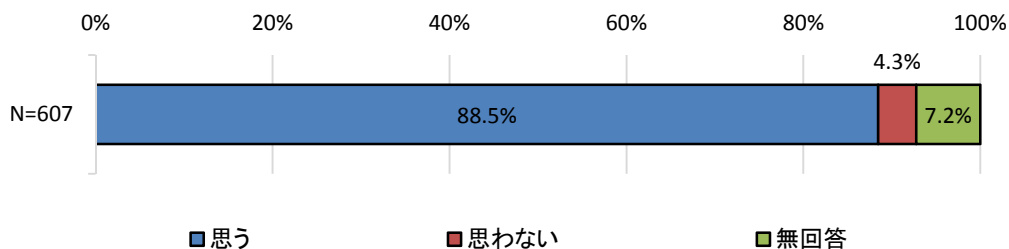
「安全・安心な周産期医療体制の充実」が54.5%と最も多く、次いで、「女性側の職場の理解、環境改善」の46.1%、「男性側の職場の理解、環境改善」の33.3%の順となっている。



N=607

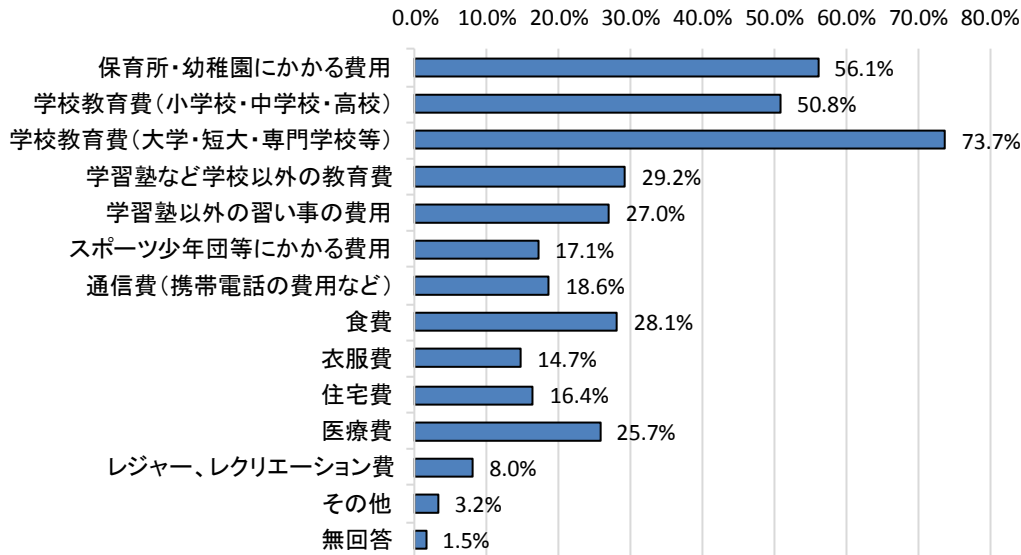
(4) 子育てをしていく上で経済的負担は大きいと思いますか。(市民)

「思う」が88.5%、「思わない」が4.3%となっている。



(5) 負担として大きいと思われるものは次のどれですか。(市民)

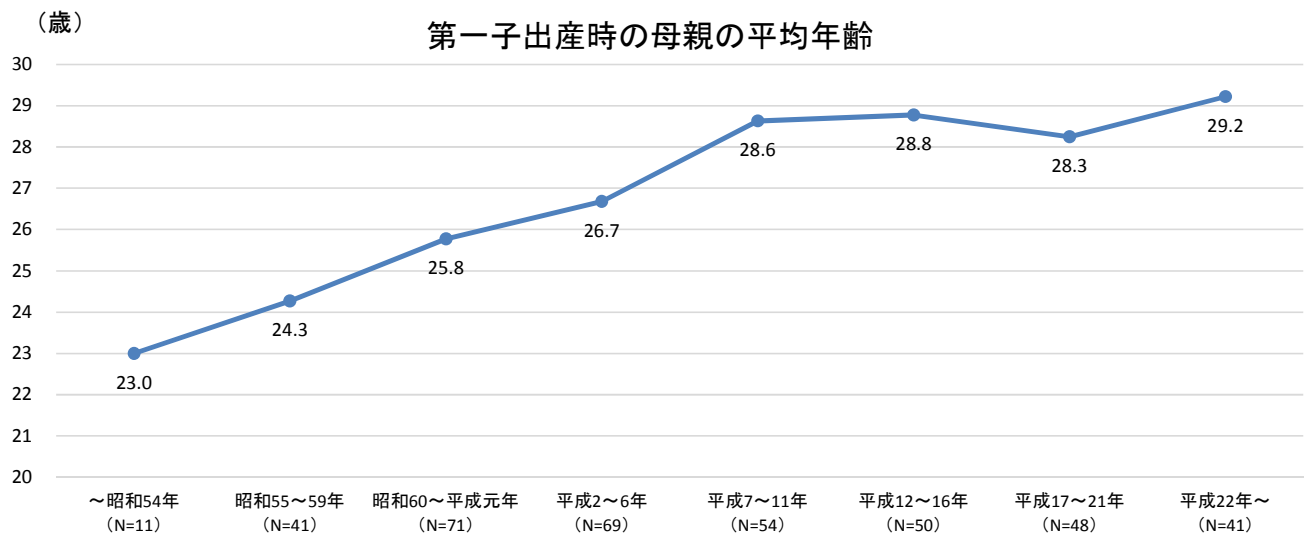
「学校教育費（大学・短大・専門学校等）」が73.7%と最も多く、次いで、「保育所・幼稚園にかかる費用」の56.1%、「学校教育費（小学校・中学校・高校）」の50.8%の順となっている。



N=537

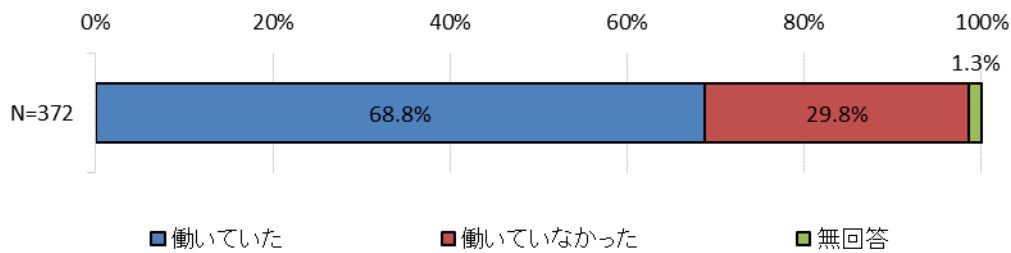
(6) 第一子出産時の母親の年齢(市民)

第一子を「いつ」「何歳の時に」出産をしたかを年代別にみると、上昇傾向となっており、平成22年以降に第一子を出産した母親の平均年齢は29.2歳となっている。



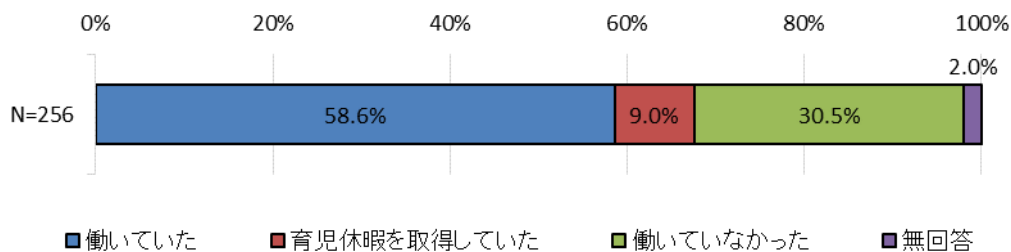
(7) 第一子妊娠時の母親の就業の有無（市民）

「働いていた」が68.8%、「働いていなかった」が29.8%となっている。



(8) (第一子妊娠時に働いていた母親) 第一子1歳時の母親の就業の状況（市民）

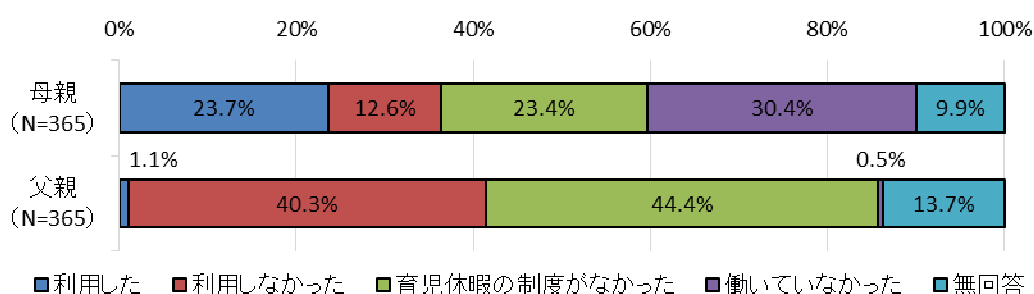
「働いていた」が58.6%、「働いていなかった」が30.5%、「育児休暇を取得していた」が9.0%となっている。



(9) 第一子出生後の育児休暇の取得の有無（市民）

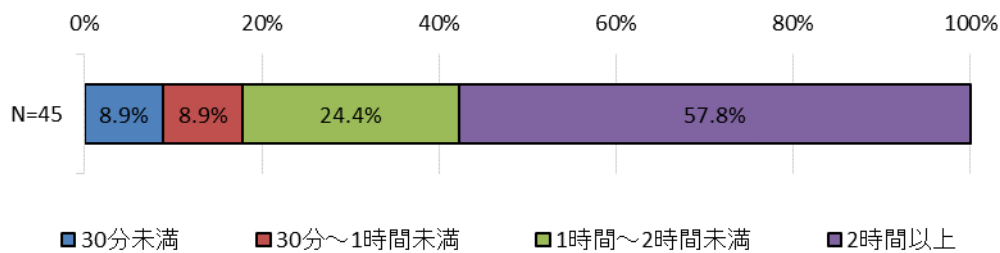
母親においては、「働いていなかった」が30.4%と最も多く、次いで、「利用した」が23.7%、「育児休暇の制度がなかった」が23.4%、「利用しなかった」が12.6%の順となっている。

父親においては、「育児休暇の制度がなかった」が44.4%と最も多く、次いで、「利用しなかった」の40.3%の順となっており、「利用した」は1.1%にとどまっている。



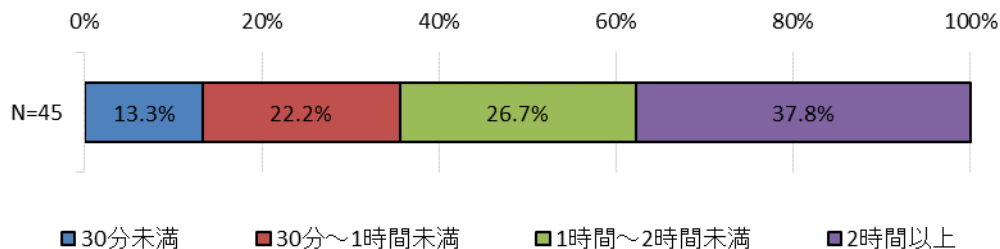
(10) (未就学児を持つ父親) 1日あたりの家事や育児に携わる時間 (市民)

「2時間以上」が57.8%と最も多く、次いで、「1時間～2時間未満」の24.4%、「30分未満」、「30分～1時間未満」の8.9%の順となっている。



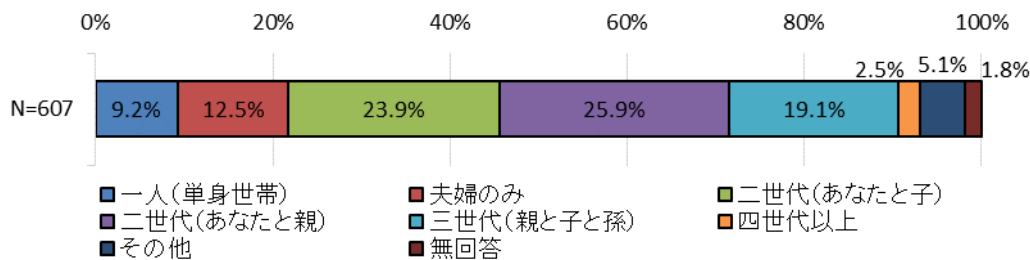
(11) (未就学児を持つ父親) 1日あたりの育児に携わる時間 (市民)

「2時間以上」が37.8%と最も多く、次いで、「1時間～2時間未満」の26.7%、「30分～1時間未満」の22.2%の順となっている。



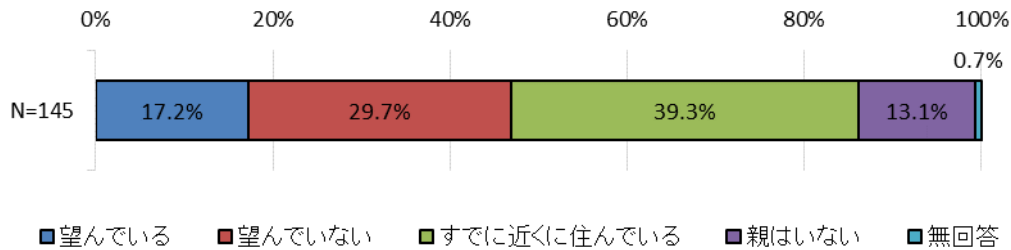
(12) 世帯構成 (市民)

「二世代 (あなたと親)」が25.9%と最も多く、次いで、「二世代 (あなたと子)」の23.9%、「三世代 (親と子と孫)」の19.1%の順となっている。



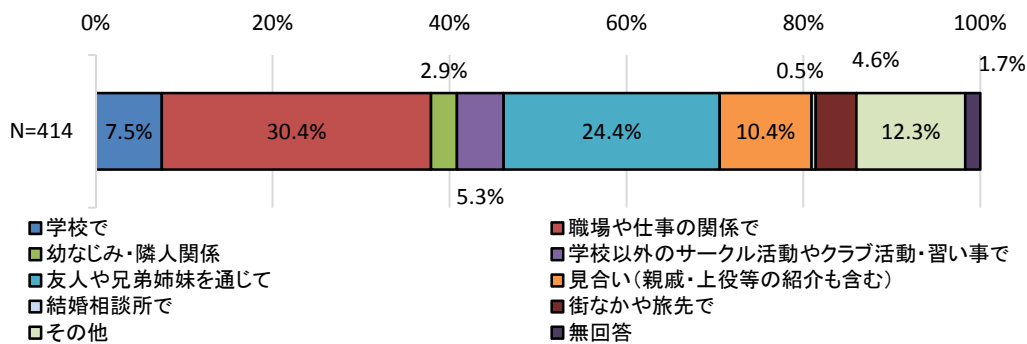
(13) (世帯構成が二世帯(あなたと子)の方)自分または配偶者の親との同居・近居の希望の有無(市民)

「すでに近くに住んでいる」が39.3%と最も多く、次いで、「望んでいない」の29.7%、「望んでいる」の17.2%の順となっている。



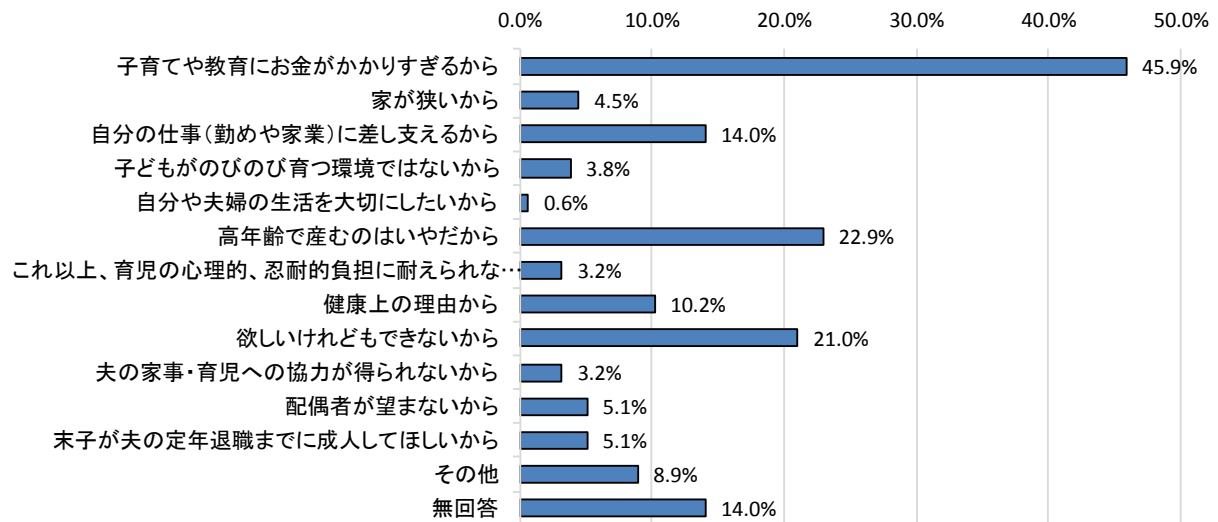
(14) 配偶者と知り合ったきっかけ(市民)

「職場や仕事の関係で」が30.4%と最も多く、次いで、「友人や兄弟姉妹を通じて」の24.4%の順となっている。



(15) (最終的な予定子ども数が希望子ども数より少ない方) 持ちたいと考えるお子さんの数が、理想とするお子さんの数より少ないのはどうしてですか。
(市民)

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が45.9%と最も多く、次いで、「高年齢で産むのはいやだから」の22.9%、「欲しいけれどもできないから」の21.0%の順となっている。

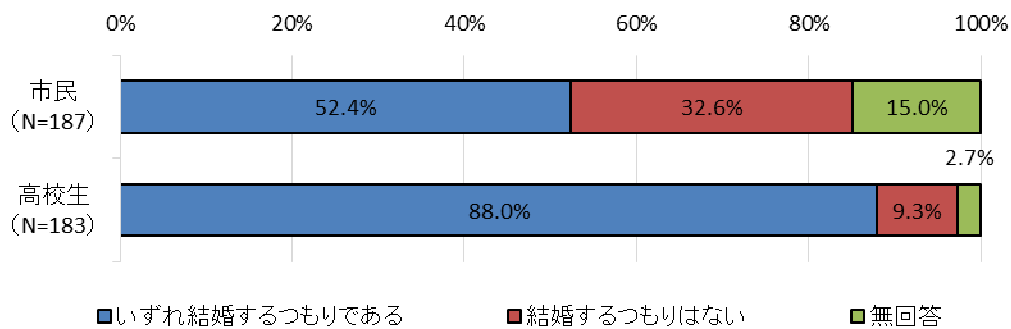


N=157

2. 独身者の結婚・出生希望

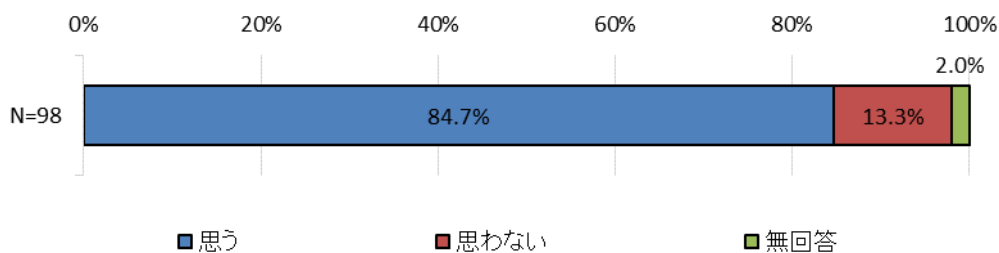
(1) 自分の今後の人生を考えた場合、結婚したいと思いますか。(市民・高校生)

市民においては、「いずれ結婚するつもりである」が52.4%となっている。
高校生においては、「いずれ結婚するつもりである」が88.0%となっている。



(2) (結婚したい方) 5年以内に結婚したいと思いますか。(市民)

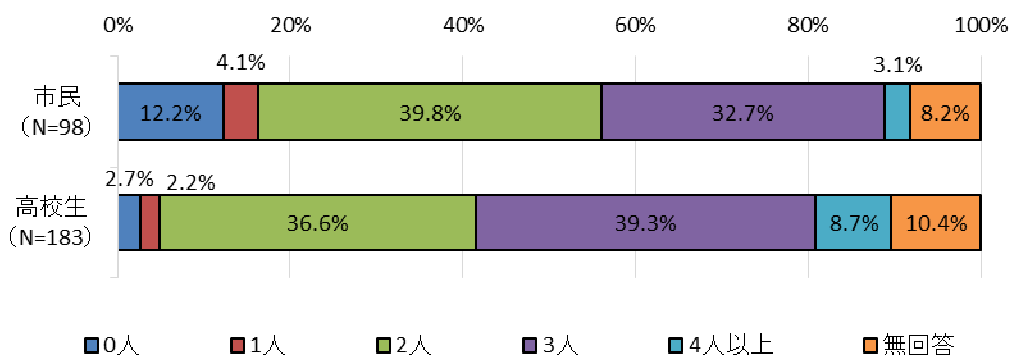
「思う」が84.7%、「思わない」が13.3%となっている。



(3) (結婚したい方) 希望子ども数 (市民・高校生)

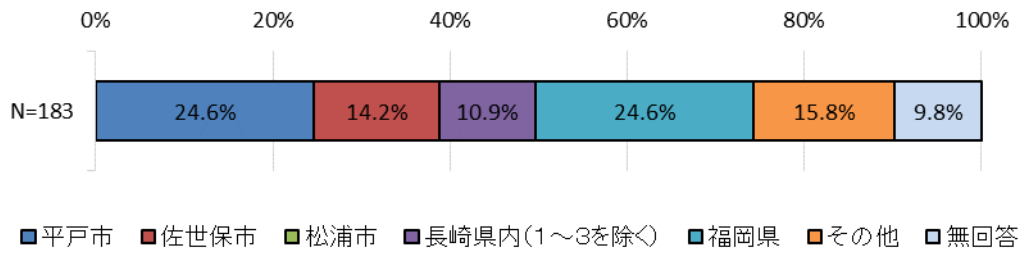
市民においては、「2人」が39.8%と最も多く、次いで、「3人」の32.7%の順となっている。

高校生においては、「3人」が39.3%と最も多く、次いで、「2人」の36.6%の順となっている。



(4) (結婚したい方) 結婚した場合の生活場所 (高校生)

「福岡県」、「平戸市」が24.6%と最も多く、次いで「その他」の15.4%、「佐世保市」の14.2%の順となっている。

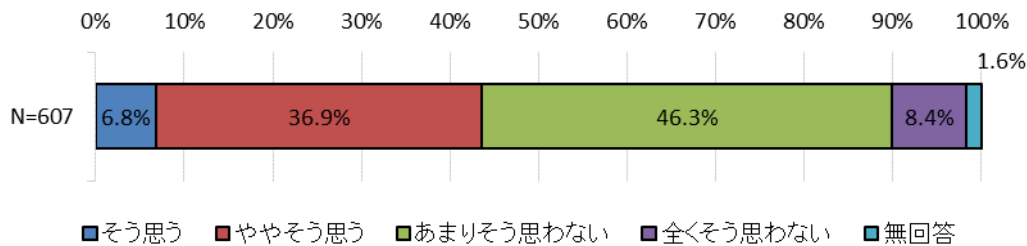


IV 観光について

1. 観光の状況

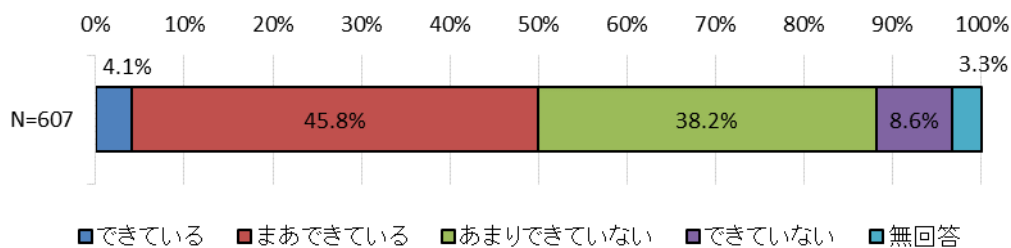
(1) 平戸市は観光客の数が多いと思いますか。(市民)

「あまりそう思わない」が46.3%と最も多く、次いで、「ややそう思う」の36.9%、「全くそう思わない」の8.4%の順となっている。



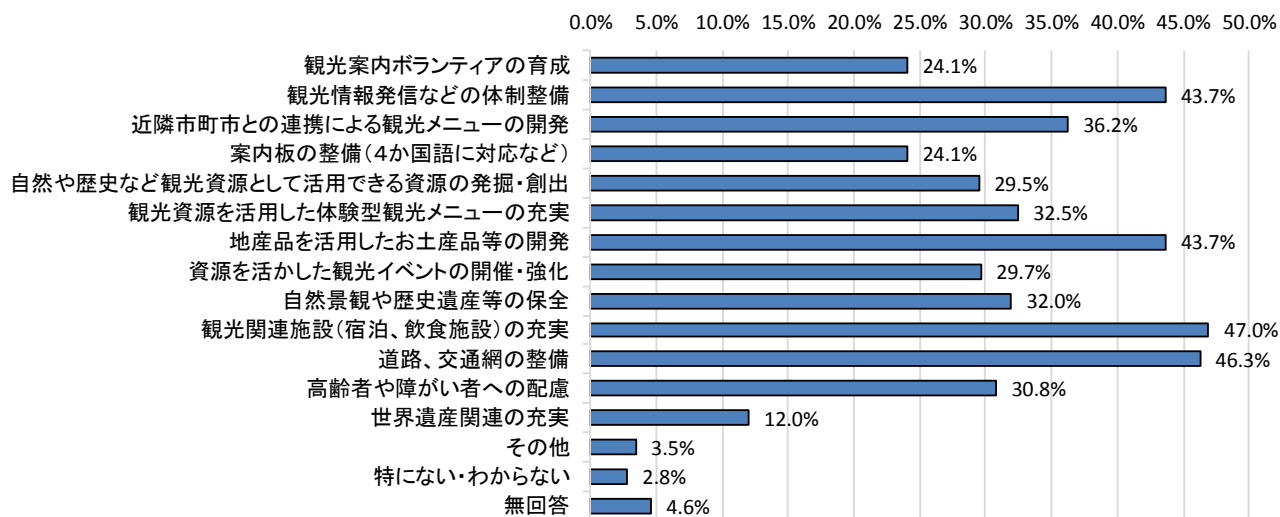
(2) 平戸市は、現在、観光振興が図れていると思いますか。(市民)

「まあできている」が45.8%と最も多く、次いで、「あまりできていない」の38.2%、「できていない」の8.6%の順となっている。



(3) 平戸市の観光振興を図る上で、重要だと思う施策は次のうちどれですか。(市民)

「観光関連施設（宿泊、飲食施設）の充実」が47.0%と最も多く、次いで、「道路、交通網の整備」の46.3%、「観光情報発信などの体制整備」、「観光情報発信などの体制整備」、「地産品を活用したお土産品等の開発」の43.7%の順となっている。



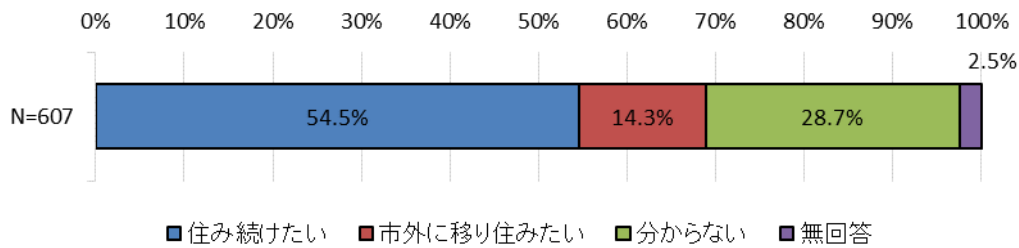
N=607

V 平戸市への定住・移住について

1. 定住・移住意向

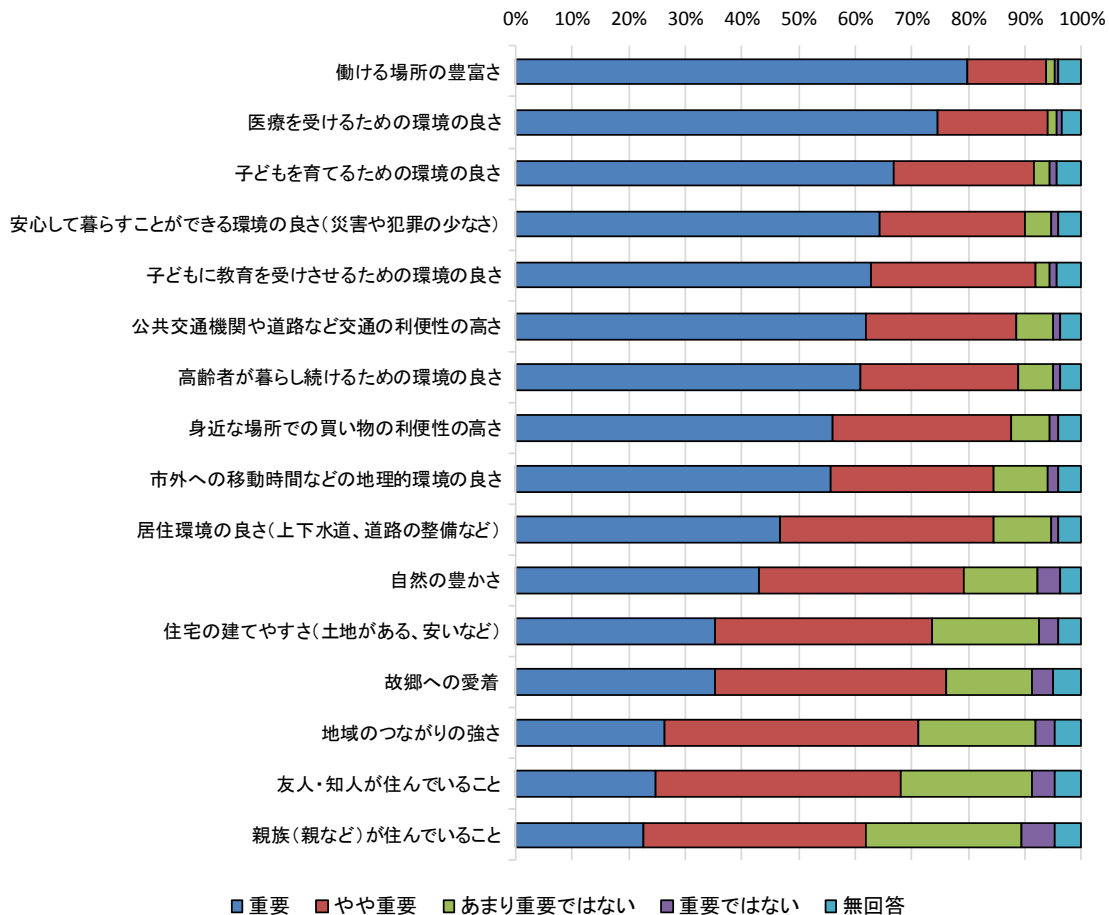
(1) 平戸市への定住・移住意向（市民）

平戸市への今後の定住・移住意向について、54.5%が今後も平戸市に住み続けたいと回答している一方、43.0%が市外に移り住みたい、または分からないと回答している。



(2) 住みたい・住み続けたいと実感できる市となるために、以下の項目はどの程度重要とご感想ですか。(市民・高校生)

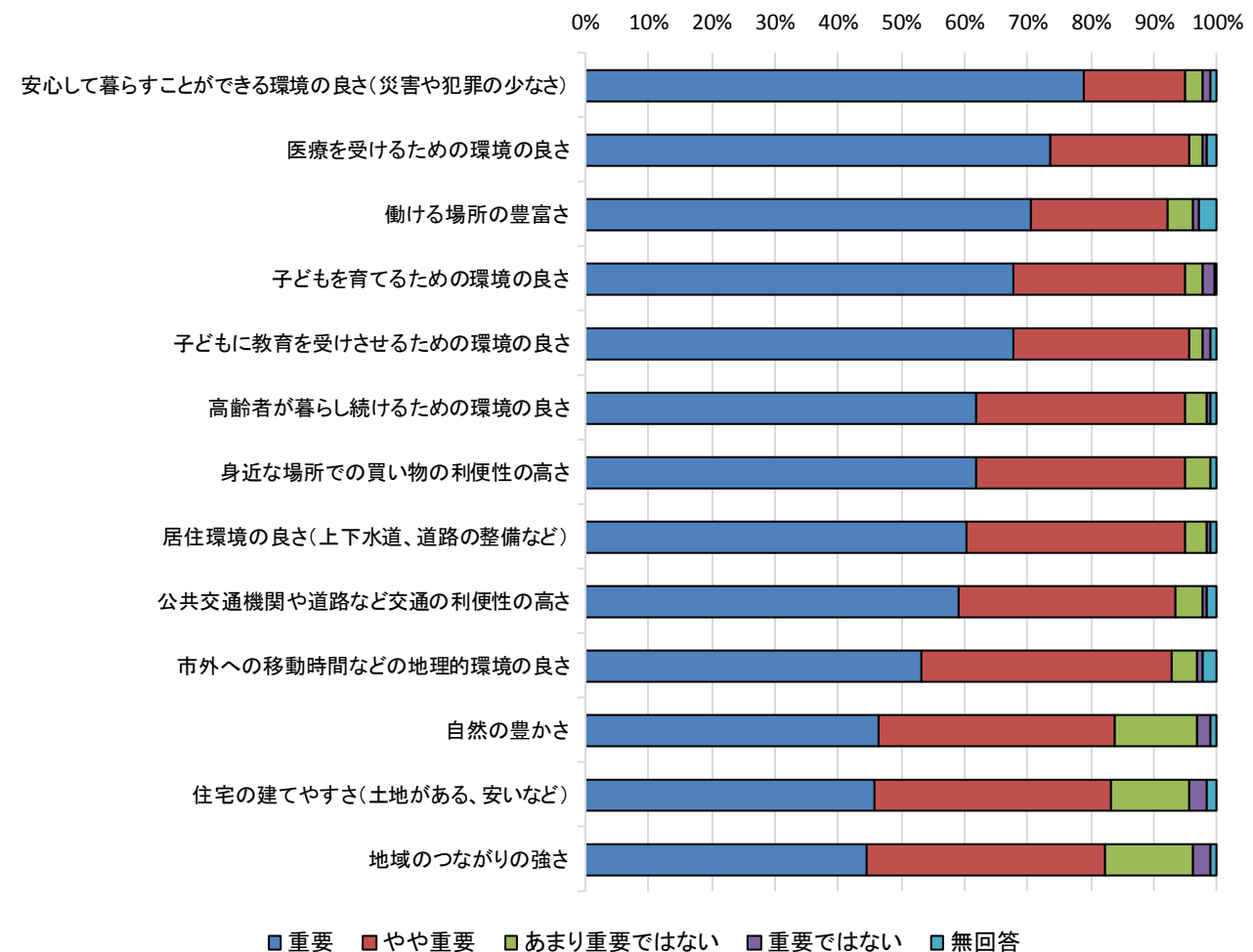
市民において「重要」と回答した割合は、「働ける場所の豊富さ」が79.9%と最も多く、次いで、「医療を受けるための環境の良さ」の74.5%、「子どもを育てるための環境の良さ」の66.7%の順となっている。



市民 (N=596)

	重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	無回答
働ける場所の豊富さ	79.9%	13.8%	1.5%	0.7%	4.1%
医療を受けるための環境の良さ	74.5%	19.4%	1.6%	0.8%	3.6%
子どもを育てるための環境の良さ	66.7%	24.7%	3.0%	1.2%	4.4%
安心して暮らすことができる環境の良さ(災害や犯罪の少なさ)	64.4%	25.7%	4.6%	1.2%	4.1%
子どもに教育を受けさせるための環境の良さ	62.9%	29.0%	2.5%	1.2%	4.4%
公共交通機関や道路など交通の利便性の高さ	61.9%	26.5%	6.4%	1.2%	4.0%
高齢者が暮らし続けるための環境の良さ	60.8%	27.8%	6.4%	1.0%	4.0%
身近な場所での買い物の利便性の高さ	56.0%	31.6%	6.8%	1.3%	4.3%
市外への移動時間などの地理的環境の良さ	55.7%	28.8%	9.4%	1.8%	4.3%
居住環境の良さ(上下水道、道路の整備など)	46.8%	37.6%	10.2%	1.2%	4.3%
自然の豊かさ	43.2%	36.1%	13.0%	3.8%	4.0%
住宅の建てやすさ(土地がある、安いなど)	35.4%	38.1%	19.1%	3.1%	4.3%
故郷への愛着	35.4%	40.7%	15.2%	3.6%	5.1%
地域のつながりの強さ	26.2%	44.8%	20.9%	3.5%	4.6%
友人・知人が住んでいること	24.9%	43.2%	23.2%	4.0%	4.8%
親族(親など)が住んでいること	22.6%	39.4%	27.5%	5.9%	4.6%

高校生において「重要」と回答した割合は、「安心して暮らすことができる環境の良さ」が78.8%と最も多く、次いで、「医療を受けるための環境の良さ」の73.7%、「働ける場所の豊富さ」の70.4%の順となっている。

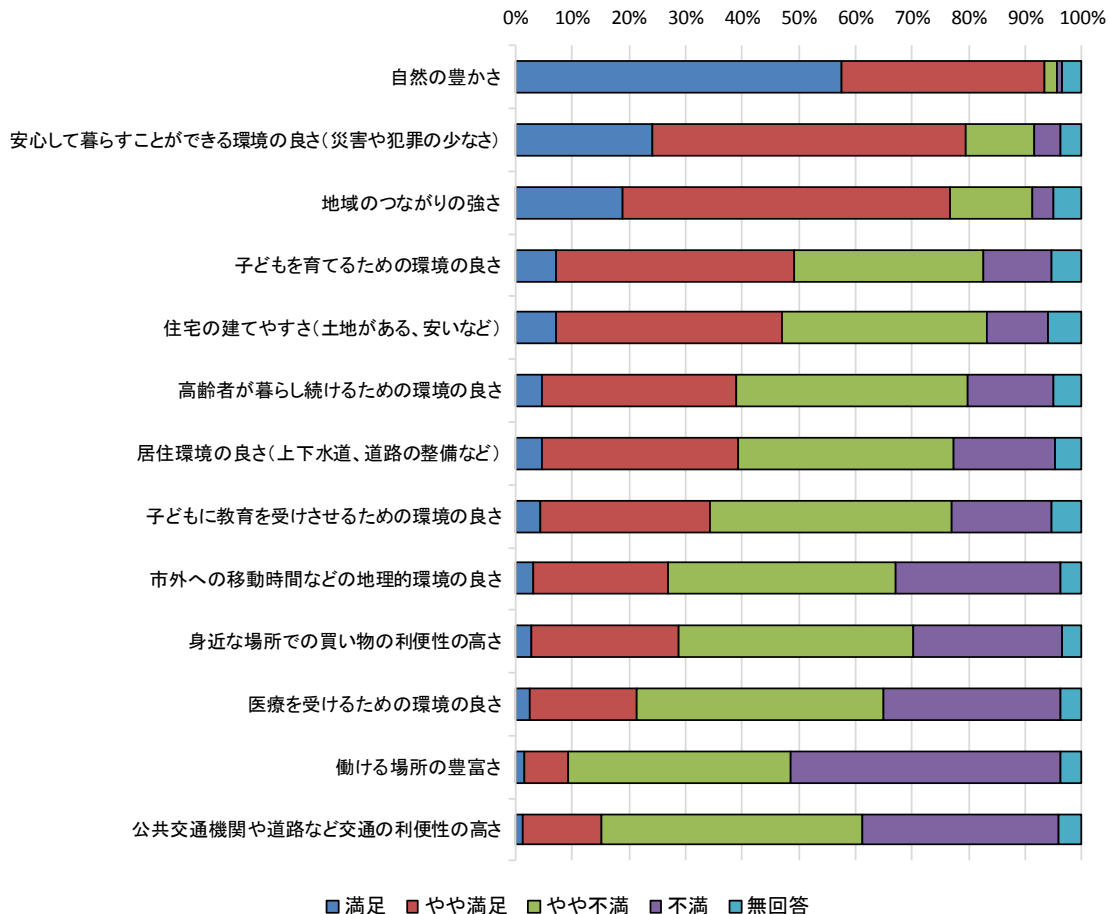


高校生 (N=179)

	重要	やや重要	はあまり重要で	重要ではない	無回答
安心して暮らすことができる環境の良さ(災害や犯罪の少なさ)	78.8%	16.2%	2.8%	1.1%	1.1%
医療を受けるための環境の良さ	73.7%	21.8%	2.2%	0.6%	1.7%
働ける場所の豊富さ	70.4%	21.8%	3.9%	1.1%	2.8%
子どもを育てるための環境の良さ	67.6%	27.4%	2.8%	1.7%	0.6%
子どもに教育を受けさせるための環境の良さ	67.6%	27.9%	2.2%	1.1%	1.1%
高齢者が暮らし続けるための環境の良さ	62.0%	33.0%	3.4%	0.6%	1.1%
身近な場所での買い物の利便性の高さ	62.0%	33.0%	3.9%	0.0%	1.1%
居住環境の良さ(上下水道、道路の整備など)	60.3%	34.6%	3.4%	0.6%	1.1%
公共交通機関や道路など交通の利便性の高さ	59.2%	34.1%	4.5%	0.6%	1.7%
市外への移動時間などの地理的環境の良さ	53.1%	39.7%	3.9%	1.1%	2.2%
自然の豊かさ	46.4%	37.4%	12.8%	2.2%	1.1%
住宅の建てやすさ(土地がある、安いなど)	45.8%	37.4%	12.3%	2.8%	1.7%
地域のつながりの強さ	44.7%	37.4%	14.0%	2.8%	1.1%

**(3) 現在の平戸市において、以下の項目にどの程度満足していますか。
(市民・高校生)**

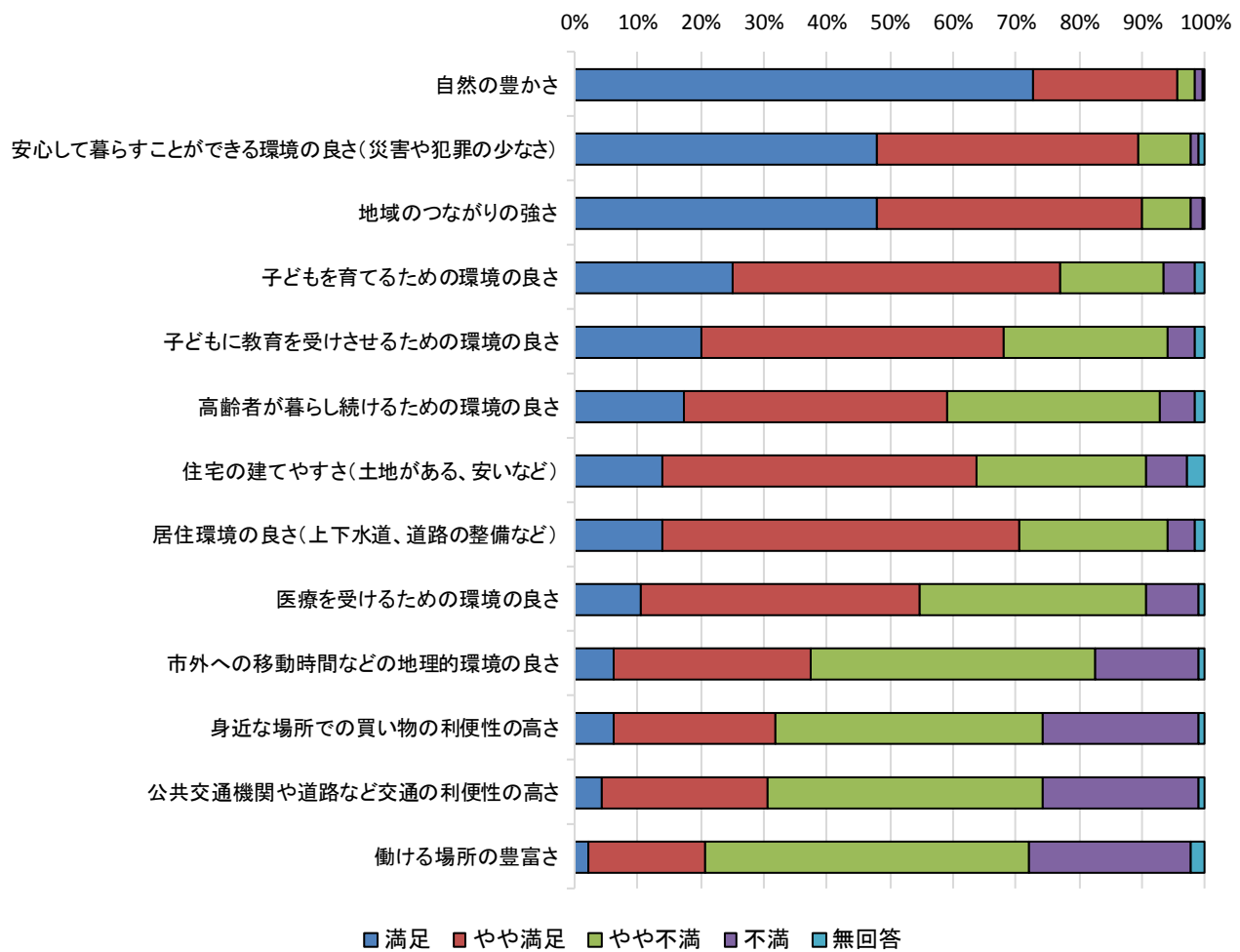
市民において「満足」と回答した割合は、「自然の豊かさ」が57.7%と最も多く、次いで、「安心して暮らすことができる環境の良さ(災害や犯罪の少なさ)」の24.1%、「地域のつながりの強さ」の18.8%の順となっている。



市民 (N=596)

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
自然の豊かさ	57.7%	35.7%	2.1%	1.0%	3.5%
安心して暮らすことができる環境の良さ(災害や犯罪の少なさ)	24.1%	55.4%	12.2%	4.4%	4.0%
地域のつながりの強さ	18.8%	58.0%	14.5%	3.8%	4.9%
子どもを育てるための環境の良さ	7.2%	41.8%	33.6%	12.0%	5.3%
住宅の建てやすさ(土地がある、安いなど)	7.2%	39.9%	35.9%	11.0%	5.9%
高齢者が暮らし続けるための環境の良さ	4.6%	34.4%	40.7%	15.3%	4.9%
居住環境の良さ(上下水道、道路の整備など)	4.6%	34.8%	38.1%	18.0%	4.6%
子どもに教育を受けさせるための環境の良さ	4.3%	30.1%	42.5%	17.6%	5.4%
市外への移動時間などの地理的環境の良さ	3.3%	23.6%	40.4%	28.8%	4.0%
身近な場所での買い物の利便性の高さ	3.0%	25.9%	41.4%	26.4%	3.5%
医療を受けるための環境の良さ	2.6%	18.6%	43.8%	31.1%	3.8%
働ける場所の豊富さ	1.5%	7.9%	39.0%	47.6%	4.0%
公共交通機関や道路など交通の利便性の高さ	1.3%	14.0%	46.0%	34.4%	4.3%

高校生において「満足」と回答した割合は、「自然の豊かさ」が72.6%と最も多く、次いで、「安心して暮らすことができる環境の良さ」、「地域のつながりの強さ」の48.0%の順となっている。



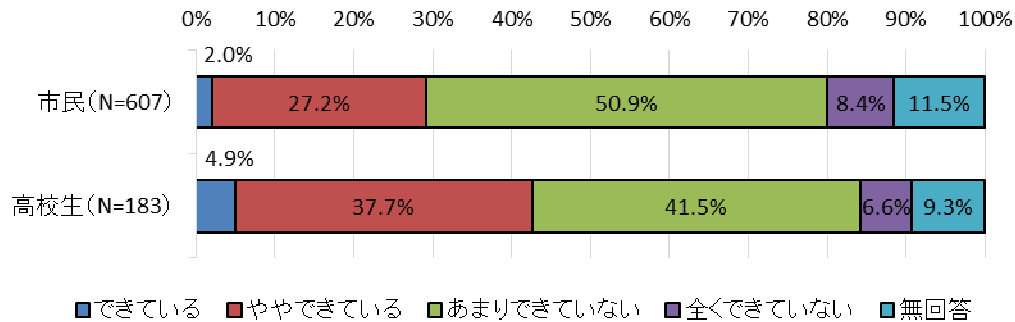
高校生 (N=179)

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
自然の豊かさ	72.6%	22.9%	2.8%	1.1%	0.6%
安心して暮らすことができる環境の良さ(災害や犯罪の少なさ)	48.0%	41.3%	8.4%	1.1%	1.1%
地域のつながりの強さ	48.0%	41.9%	7.8%	1.7%	0.6%
子どもを育てるための環境の良さ	25.1%	52.0%	16.2%	5.0%	1.7%
子どもに教育を受けさせるための環境の良さ	20.1%	48.0%	25.7%	4.5%	1.7%
高齢者が暮らし続けるための環境の良さ	17.3%	41.9%	33.5%	5.6%	1.7%
住宅の建てやすさ(土地がある、安いなど)	14.0%	49.7%	26.8%	6.7%	2.8%
居住環境の良さ(上下水道、道路の整備など)	14.0%	56.4%	23.5%	4.5%	1.7%
医療を受けるための環境の良さ	10.6%	44.1%	35.8%	8.4%	1.1%
市外への移動時間などの地理的環境の良さ	6.1%	31.3%	45.3%	16.2%	1.1%
身近な場所での買い物の利便性の高さ	6.1%	25.7%	42.5%	24.6%	1.1%
公共交通機関や道路など交通の利便性の高さ	4.5%	26.3%	43.6%	24.6%	1.1%
働ける場所の豊富さ	2.2%	18.4%	51.4%	25.7%	2.2%

（４）現在の平戸市は、「住みたい・住み続けたい」と実感できるまちづくりができていますか。（市民・高校生）

市民においては、「あまりできていない」が50.9%と最も多く、次いで、「ややできている」の27.2%の順となっており、「できている」「ややできている」を合わせた割合は29.2%にとどまっている。

高校生においては、「あまりできていない」が41.5%と最も多く、次いで、「ややできている」の37.7%の順となっており、「できている」「ややできている」を合わせた割合は42.6%となっている。



VI 自由記述について

1. 子育て支援の充実

(1) 市民の意見

性別	年齢	自由記述(子育て支援の充実について)
男性	50～54歳	分校の復活(通学に時間がかかる場合)またはスクールバスの周行(公共交通機関のない所は長距離を徒歩通学している。親の送迎で学校付近での車の通行障害を招くため)
女性	55～59歳	学校が土曜、日曜休みなのでどこの保育所でも子どもを預かってもらえるようにしてもらいたいです。
女性	45～49歳	子育てにかかる費用の負担、公的資金で担う。各地域に公園設備及び、整備、看板等案内を。入園前の親子が過ごす場、集う場の充実。児童館の設置。保育園、学校など教育機関教職員も含むグレードアップ。
男性	40～44歳	思い切って小学生以下の医療費無料や、高校就学無料など行くと県外、佐世保、伊万里などからの人口増加にもつながるのでは。
男性	40～44歳	中部地区に子どもたちが安心して遊べる公園が必要です。
男性	55～59歳	若い人が地元に残らず、出て行く時代です。佐世保に住んで平戸に働きに来る時代です。子育て支援も大事ですが、若者が住みたくなる市にしないと子どもは減るばかりです。医療費をタダにしても、子どものための医療機関が充実してないとだめなんです。お金で何とかしようとか甘いです。
男性	55～59歳	市内の高校に通学する交通費は全額支給してもいいのではないのでしょうか。学校に近い子どもとそうでないとでは差があります。
男性	40～44歳	子どもがのびのびと遊べる遊具のたくさんある公園を作ってほしい。
男性	40～44歳	育休や産休を取りやすい環境整備と金銭的な支援。(企業にも)土曜日日曜、また夜間でも預けやすい保育園をつくる。またそれを利用しやすいように手続きなどを代行してくれるシステムを作るべき(ネットや輸送技術)
女性	50～54歳	学童保育の場所、人材確保。※低学年の子どもを置いて共働きは不安
女性	25～29歳	小児科の見直し(夜間など)
男性	45～49歳	釣り場など自然に釣りができる安全なところを多くつくってみては?他県から来る人が多いですよ。
女性	30～34歳	児童が遊べる環境が不十分。野山は十分にあっても電柵や立ち入り禁止区域、整備されていない(草刈りがされていないなど)などの理由で遊べない。田平公園などあるが、子どもだけではいけない。もっと気軽に遊べるエリアを作れば、周辺地域からの転入者が増えるかも。
女性	35～39歳	保育所の値下げ、又は補助金の充実。
女性	40～44歳	子どもが安全に安心して遊びに行ける公園を住宅の近くに作る。児童館のような子どもが集える場所をつくる。

性別	年齢	自由記述(子育て支援の充実について)
男性	40～44歳	専門学校(農業、漁業、観光業)をつくり平戸の基盤産業を伸ばす。このことにより、雇用も増える。市内に残る子どもも増えるのではないのでしょうか。
女性	40～44歳	産婦人科、小児科の医院がない。病後児保育施設もないので親が近くに住んでいたり、同居(3世代)世帯しか2人、3人の子育てが出来ない現状ではないかと思います。頼れる人がいない親のためのサービス(子育てヘルパーなど)が欲しいです。
男性	35～39歳	20代が地域に残っていく施策が必要です。専門学校(例えば看護学校)を設立し、高校卒業後に地域から離れていかない施策が必要です。経済的負担の軽減が必要です。あと、お金が無いからと言ってネガティブな話が多すぎます。これを止める、あれを止める。こんなことで子どもが未来に希望を持つことができると思いますか！止めるのは仕方ないにしても、ポジティブな話も大切です。
女性	35～39歳	育児にかかる経済的負担を出来る限り減らす。子どもが増えない限り平戸市の発展、未来はない。
女性	30～34歳	子どもを安心・安全で安く預けられる所が欲しい。幼児までは保育園など充実しているが、小学校に入ると学童クラブもいっばいで、複数人子どもがいると経済的に負担が大きい。また、スポーツや習い事などの親の負担が大きいので定年された方などボランティアなど募れないのか?その方々に賃金として市から補助できないのですか?
男性	55～59歳	子育て経験者の中から相談員を置いて、市役所や公民館などで相談を受ける。申し込みはインターネットで出来るようにする。匿名希望の方にはネット上で返事をしてあげるなど。
女性	55～59歳	保育料の無償化へ
女性	40～44歳	小さい子どもが雨天時室内で遊べる公共の場を作ってほしい。(室内遊具を充実した)0～2歳児くらい、はいはいしても安心して過ごさせて遊べるような施設。
女性	30～34歳	公園(安全で衛生的な)が少ないので増やして欲しい。高いレベルの大学に進学が可能となるような教育レベルに引き上げてほしい。(教育関係者のレベルアップなど)職場の理解(産休育休、子どものイベントでの有給休暇など)がない。古い考えを持ったひとへの教育、啓発活動。
男性	35～39歳	医療費は上限800円と言わず0円にしてほしい。スポーツ少年団の遠征費がかなりかかるので補助金をもっと増やして欲しい。小中学校の教材費を無料にしてほしい。小中学校の先生のやる気をもっと見せてほしい。
女性	55～59歳	若い親世代の収入に対して保育料の負担が大きくなっている。
男性	50～54歳	保育園などの無償化。食育の充実。
女性	30～34歳	子育て支援の内容の充実。そのための勉強や研修の提供、他の子育て支援のサービスを見学し参考にさせてもらう。
男性	50～54歳	子育てに理解のある職場づくりの拡充

性別	年齢	自由記述(子育て支援の充実について)
女性	55～59歳	子育て世代への住居低額家賃サービス、または住宅資金の補助、保育園の低額化と保育内容の充実によって、他県または近隣地より若い人を定住させる。中高生の教育内容の明確化。学業またはスポーツ芸術で特色ある学校づくりをする。
女性	30～34歳	転勤で平戸市に来ましたが、産婦人科が無いことに驚きました。また、小児科も休診が多すぎます。したがって医療(小児)の充実が必要だと思います。(第二子を平戸で産む自信がありません)
男性	40～44歳	義務教育の改善。小中学校のレベルアップ(特に教員の質)
女性	50～54歳	子育てしている方々がネットや雑誌の情報よりも互いに語り合ったり、先輩方の声や相談できる場が楽しく持てると良いなと思う。保育サービスの充実(保育士の処遇、人材確保対策を)
女性	45～49歳	優秀な産婦人科医院を平戸市に迎える。家族で楽しめるファミレスが欲しい。
男性	35～39歳	どこかの村のように出産祝い金の充実。保育園の無料化→近隣子育て世帯が移住すると思う。
男性	40～44歳	小学校が終わってから学童保育に行く場所までバスで行ったりしないといけないので不便。小学校が終わって、その学校で学童の子どもを見てもらえれば、母親も仕事ができるし、移動による交通事故の心配もないのではないかな? そういう充実をはかってもらいたい。
女性	40～44歳	シフト制の仕事についていたら、土、日、祝日も仕事という方もおられると思う。日曜祝日も保育していただけるようになれば子育て支援にもつながるし、雇用にもプラスになると思う。
女性	20～24歳	産婦人科、医療機関の充実。平戸のママはみんな口をそろえて言うのが、”平戸は産婦人科がないから安心できない”。自分自身もそうだった。子育て支援の基盤となるような産婦人科などの医療施設があればなあと思う。
女性	55～59歳	地域の保育園においては地域との関わりをよくされています。子育てが安心して出来る地域のなかで若い親が参加しやすい行事について市より支援。個人主義も大切でしょうが、地域みんなの支え合いの中で子育てが出来れば、大人になっても平戸に帰ってくるのではないかな?
女性	35～39歳	医療費を高校生まで無償にしてほしい!
男性	55～59歳	子育てをするための資金確保のための雇用環境が整っていないために2人、3人と子どもをつくる不安があります。また少子化で子ども同士の横のつながりが少ないばかりでなく、どうしても各家庭で面倒を見るので、現代は子どもを1人にすることが多く、犯罪に巻き込まれる可能性が高くなります。厳しいかもしれませんが、公民館などを有効活用し、高齢者とのふれあい教育などの拡充をすることで、二世代の生きがいの相乗効果が見込めるのではないのでしょうか。
女性	50～54歳	ただ、ともに協議して行っていこうと考える活動の中に、横のつながりが未だにうまくつながっていないと思う場面がまだあるように感じます。

性別	年齢	自由記述(子育て支援の充実について)
男性	45～49歳	子育て家庭の減税や保育料、医療費の無償化など思い切った政策をやって若年層の定住、移住を増やす。
男性	55～59歳	アンケートやコンサル会社に依存しないで欲しい。
男性	40～44歳	道路の整備、医療の整備
女性	20～24歳	現在平戸市には産院がなくてみんな佐世保か松浦の病院に行くと言いました。私は外国人ですけどこの話を聞いて結構大変だと思いました。もし平戸市に産院ができたなら助かると思います。
男性	40～44歳	子どもを対象にしたサービスの充実よりも親の教育が必要。
男性	35～39歳	小児科の充実、産婦人科の設立。
女性	30～34歳	小さくて着なくなった服やベビー用品などのフリーマーケットを月に一回くらい開催する。個人で出すのは大変な方は、受付を設けて服や用品を集めて出したりする。同時に子どもが食べやすいお菓子を出店して(平戸のケーキやさんに協力してもらう)家庭から外に少しでもで楽しめる場所をつくる。
女性	40～44歳	今年度から子どもの医療費の助成が始まったことは大変ありがたい。やはり、医療費はかなりかかるのでこのまま続けてもらいたい。すべての事において平戸市の中心部だけでなく生月、度島、大島地区なども同じように活動してもらいたい。
男性	50～54歳	子育ての前に親を教育しなければならないように思う。学校の成績よりも将来仕事ができる、しなきゃいけないと思わせる教育、どんな仕事があってもどれくらいの給料で、そのためにどんな勉強が必要か、何のために学校で勉強するのか、根本的な教育があってもいいのではと思う。
女性	50～54歳	病児保育の充実が必要。インフルエンザなど休まなければならない病気だけど、容態が安定した児童を預かってもらえれば両親も安心できると思う。
女性	55～59歳	甘やかさないようにしっかりとした子育てをしていったほうが良いと思います。素直な子どもになってほしいと思います。
男性	40～44歳	学童保育を充実し、両親が安心して働ける地域づくり。
女性	30～34歳	私は4人出産しましたが、4人それぞれ産婦人科が違います。船からの通院、佐世保まで本当に大変でした。一人目はまだ平戸で出産できましたが、近くに出産できる病院が無いというのは平戸に住む夫婦にとっては不安もあるし、産みたくても大変だと思います。これも少子化のひとつの原因なのでは？少しでもこういう事を考えてくれたのでしょうか？平戸から産科が無くなって10年以上たっていますが…。
女性	30～34歳	現在、病児保育する施設が少なく、病気になった時に母親もしくは父親が仕事を休まなければならない状況があります。兄弟がいれば、一人が治ったと思ったら、またひとり感染症指定だと一週間以上休むことも多いです。病児保育をする施設の充実を望みます。また公園の整備。子ども達の遊びの場を地域内に。公園が少なすぎる。遊具も少ない。

性別	年齢	自由記述(子育て支援の充実について)
女性	40～44歳	以前より平戸市のアンケートに要望を記入していました。保育料が高いことです。収入で決まっていますが、その他の出費は家賃、保険などもあります。これだけ子どもの数が減少しているので見直しをしてほしいです。
女性	35～39歳	産婦人科を設置。保育園の保育料を安くする。佐世保市では「おぎんちゅプロジェクト」と題して男性のセンスアップ、スキルアップとして「男磨き」というものを行っています。婚活女性を呼んでもなかなか結びつかないのは男性に魅力が足りないからかも…。平戸市もそういった面も支援されてみては。魅力的な男性が増えたら人口増加につながると思います。
女性	40～44歳	親子で遊べる施設の充実
女性	50～54歳	アイデアはありませんが、私は島に赴任してこられる先生たちには少々不満があります。あんなにきれいな住宅を用意してもらっているのに、金曜日の夕方になるとそれはそれは慌てて帰られます。チャーター船に乗って帰られるのですが、あまりにも慌てて帰られるので車のスピードとかも出されますし、島の人たちは島内はゆっくりと走りますのでその曜日はすれ違うのが怖いくらいです。そんなんで子ども達にちゃんとした教育が出来ているのでしょうか？
男性	25～29歳	市の規模の割には小児科医は多い印象があるので、あとは子育て支援(保育料の減免、未就労の親がいても保育を受けられるなど)子育て特区のような施策を期待します。子育て世代が増えれば、小中学校の規模の維持にもつながると思います。ただし、このためには雇用環境も改善が必要だと思います。
女性	30～34歳	とにかく産婦人科がないのは子を産む母には不安材料。小児科も総合病院内にしかなく毎回受診に2h以上かかるため負担。救急の当番医(小児科)もいないので心もとない。救急車が佐世保まで行ってくれると助かる。
男性	55～59歳	子育てと仕事を両立するのは大変だと思うので、地域で子ども達と大人(高齢者)のふれあいの場を作り、核家族の子どもと顔見知りになり声掛けあいができたら親も少し安心できるのではないかと思う。子育てをしている人(父親か母親)が急用(子どもの病気)で職場を少しでもあけられる環境を作ってあげたい。
女性	40～44歳	雨の日でも遊べる施設があればいいと思う。
男性	55～59歳	保育士の労働条件など。就学前の子どもがいる母親の労働時間の短縮など。
男性	55～59歳	子どもの医療費、教育費(高卒まで)を無料化する。
女性	50～54歳	ファシリテーターの育成
女性	50～54歳	保育料が現在高く、子育て中の親も頭を悩ませています。大幅に見直しをする必要があると思う。子育て中は急な出費も多い。必需品であるオムツや缶ミルクベビー服など助成があると助かると思う。
男性	30～34歳	保育料の支援。新婚者への市営住宅の提供(家賃が高い)
女性	55～59歳	保育費が高額すぎる。年収に応じてじゃなくて一律だったらいいと思う。

性別	年齢	自由記述(子育て支援の充実について)
女性	45～49歳	私が子育てをしていたころは保育時間に迎えに行けない場合は近くの友人と連絡を取り合い、お互いの子どもを預かるというような形をとっていました。現在はほとんどの家庭で共働きが多いかと思います。保育時間(夜間保育など)を充実したらもっと働く女性にも余裕がでてくるんじゃないでしょうか(看護師をしていたので夜が困りました。)
女性	30～34歳	おさがりの洋服や開封したけど余って使ってないオムツ、おもちゃや離乳食の器具などなどのフリーマーケットの開催。出産するたびにパンフレットから平戸の特産品を1つプレゼントしてくれる。夜泣きに対応する支援、対策などの交流会。数時間でもいいので安心して預けられるサービス(無料～)
男性	30～34歳	なにかとお金がかかる(交通＝ガソリン代)(保育園＝保育料高い)
女性	30～34歳	佐世保市のアーケードにできたような、小さい子どもが集まれる施設が町の中に欲しい。子どもも安心して使える、きれいなトイレをもっと作ってほしい。
男性	55～59歳	産婦人科の設置
男性	55～59歳	病院が不便。産婦人科、整形外科の常駐を願いたい。
女性	30～34歳	母子・父子家庭が利用しやすい人を平戸市で雇用する。(お手伝いさん、夕ご飯を作ったり家事を手伝う。支援者であって親と子を支援する。親を育てていく。)
男性	55～59歳	保育料を安くし、子育てしやすい環境を作るべきである。
女性	35～39歳	障がいをもつ子どもを持つ親として平戸はかなり住みにくい。専門医不足、福祉施設の不足、相談機関の不足、周りの偏見。全く理解がなく、県外へ受診しないといけない状態。市自体が全く興味がないように思える。啓発活動をそういった親と共にたくさん行ってほしい。老人施設ばかりでなく、療育機関や専門者を積極的に誘致していくべきだと思う。このままでは引っ越しせざるをえない。他市との格差がありすぎて損している感じがして、イライラする。
女性	40～44歳	発達障がい児の早期発見、治療開始。情報の共有。保護者への指導、教育の充実。
女性	50～54歳	産婦人科がないので困ります。
男性	55～59歳	アイデアはたくさんあるが、島国根性というか特定の人々の意見しか通らない現状では、何の期待も持てないのが事実。この平戸市も一度北海道の夕張市みたいにならないと分らないと思う。
女性	40～44歳	産婦人科、小児科の充実を。
男性	50～54歳	各学校の空き教室を利用した、地域コミュニティルームの開設。
女性	35～39歳	子育てはまだ経験がなくて分かりませんが、30代半ばからの妊娠、出産について、近くの病院、不妊治療のできる場所、どんな手続きをすればいいのかよく分かりません。

性別	年齢	自由記述(子育て支援の充実について)
女性	40～44歳	今のままで満足です。出産後のケアは本当に救われました。初めての子育ては不安だらけです。自宅に戻ってからの保健師の自宅訪問はとても嬉しく、話をすることで救われ心が軽くなりました。続けてほしいと思います。図書館の読み聞かせはいつも土曜日です。月に1回でもいいので、日曜日にしてほしいと思います。みのり保育園付近の整備はできないのでしょうか？保育園(みのり・愛の国)の両送迎と観光客、中学生の通学でいつも混雑し危ないです。車の人は人の通りを待ちイライラ。そのイライラが大きな事故になりかねません。特に保育園児の散歩コース。車が通るたびに道の端でじっと待っている姿は不憫でなりません。もし何かあった時保育士にだけ責任があるというのもおかしな話です。市の責任問われますよ。あんなに人通りがあるのに、歩道と車道が分かれていないのはおかしいです。せめて歩道と車道の境目をつけるのは必要かと思います。
女性	35～39歳	雨の日でも遊べる場所を作ってほしい。ワクチン、予防接種等、働いていたら連れて行く時間がないため受けられない。仕事は日祝休みのため、平日に休みがもらえない。
女性	55～59歳	公立保育所、公立幼稚園をぜひ残してください。公立幼稚園は3歳児保育を実施してほしいと思います。また預かり保育を充実させることで、入園希望も増えると思います。保育所の良さ、幼稚園の良さ…それぞれ選択できるよう、色々な受け皿が必要なのではないのでしょうか。
女性	20～24歳	少子高齢化のため、高齢者が地域にはたくさんいます。子育ては今や共働きの中で行うのが一般的です。一人暮らしの高齢者の集まれる場と小さな保育施設などを組み合わせたものなど、今後新しく生まれてきても良いと思う。(デイケア+学童保育のような)
男性	45～49歳	家庭教育の見直し(挨拶、返事のできる子ども)学校教育の充実(塾への依存をなくす。子どもも先生も)教育に係る費用の軽減。学習教材等無駄が多い。(小・中)自立した子どもを育てる環境づくりには家庭でのしつけが重要だと思います。
男性	30～34歳	平戸に産婦人科を作ってほしい。
男性	55～59歳	何と言っても確かな収入のある仕事があるかないかは最も重要な要素であると思います。どの地域も企業誘致に取り組んでいますが、平戸も雇用を拡大するよう望みます。
女性	25～29歳	気軽に相談ができる環境・まちづくり。
男性	50～54歳	子育て支援も必要だが、給食費も強制的なことも必要。
女性	40～44歳	地形的に厳しいかもしれませんが、北・中・南部での格差(サービス等)がありすぎるので、平等にしてほしい。
男性	35～39歳	未婚者を減らすために出会いの場を多く→テレビとかでもやっています。結婚している人は割とたくさん産んでいますので。補助金、子育て応援費を出す。
男性	25～29歳	保育施設の充実と働く場所の充実、居住環境の充実は欠かせない。

性別	年齢	自由記述(子育て支援の充実について)
男性	50～54歳	出産など今は市外に行かないとできなくなりました。市民病院を平戸市街に建ててほしい。民間の病院では不満です。
女性	50～54歳	保育園、幼稚園の受け入れ、また時間帯を考えてほしい。
女性	55～59歳	現在平戸市に産科がひとつもないのは、問題だと思う。小児科(腕の良い)が必要。
女性	30～34歳	平戸市は観光やふるさと納税、まちおこしにばかり力を入れて、子育て支援や福祉、教育の充実が出来ていないと思います。この様なことも大切ですが、まずは次世代を担う子どもたちを安心して育てられるように環境等、様々なことを充実させてほしいです。
女性	30～34歳	とりあえずの800円を毎回払わなくていいようにしてほしい。(医療費)松浦市などは払わなくていいみたいです。
女性	35～39歳	子育て支援の情報提供や母親が集う場所があればと思う。ママたちが通うことができるカフェや飲食スペースを増やして欲しい。
女性	55～59歳	市に産婦人科の病院が無い。子どもの病院・小児科も。働くお父さん、お母さんの職場の理解もない。
男性	30～34歳	市内に小児救急に対応できる病院が無い。
女性	25～29歳	市内に産婦人科をつくる。佐世保や松浦までの往復運転は妊婦にはつらい。
女性	30～34歳	第三子以降は子育てに関する費用全面補助(保険料、医療費など)
女性	40～44歳	不妊治療をする人が増えているので、子育て以前に治療の援助に力を入れてほしい。
男性	40～44歳	子育て中のママたちが集まれるようなカフェみたいなものもあっていいと思う。悩み事も多いので子どもと遊べる場所、おしゃべりできる場所があると安心して育てられると思う。これがひとつの場所で実現できると助かります。
男性	55～59歳	子育て支援は随分充実しており評価できる。要は今の状態を継続できるか財源を含めて不安である。保育園(私立)学校(公立)における奇抜な保育、授業に対する補助制度を設けてはどうか。
女性	55～59歳	現在は育児手当などがあり育てやすいと思います。でも出産するにも平戸には産婦人科が無かったり、高校・大学の負担も大きいので、親御さんが安定した仕事につけるようにしてほしいです。若者が平戸市に残れるような支援が必要かと思います。
男性	55～59歳	少子高齢化が現実のものとなっている現在、高齢者が育児→教育→就職の過程で、例えば教室の内外で支援などに関わり参加することにより、結果的に優秀な人材を育て、ひいては子どもを授かりやすく育てやすい環境づくりが大切では？
女性	30～34歳	子どもの医療費教育費などの無料化、または負担軽減。また他県で行われているような出産祝い金などがあればいいと思う。(北海道福島町みたいな)
男性	45～49歳	フランスみたいにもっと支援を充実してほしい。

性別	年齢	自由記述(子育て支援の充実について)
女性	35～39歳	給食費の無料化、一時金をいただくよりも毎月いるものを無料にしてほしい。取り立てにも督促など手間や費用も掛かっているようなので。
女性	55～59歳	学校予算の増加。保護者負担の軽減。
男性	35～39歳	相談できる場所、対応の仕方が悪い。改善してほしい。
女性	30～34歳	例えば、病児保育が可能な施設があったり、小さい子どもと一緒に楽しめる施設があると子育て世帯には喜ばれると思います。
女性	55～59歳	働く両親のために学童保育等の利用がありますが、学校が終わっていざ学童へと思っても、町民センターや自分の出た保育園が遠いとそこまで行く足がなく断念せざるをえないので、改善をお願いしたいと思います。(学校での学童ができればいいです)
女性	55～59歳	3人目の子どもの保育園代を無料にしてほしい。(今は3人入園していなくてもはダメですが、2人目は小学生、中学生でも無料に)
女性	55～59歳	保育料を安くする。一時保育等の派遣職員登録(在宅含む)※初めて平戸に転勤してきた人の子ども(児童)が病気になった時等に利用できるように。(親族等頼れる人が身近にいない時など)
女性	40～44歳	子育て以前の問題で、平戸で安心して子どもが産める産院がない。障がいがある子どもでも安心して通える学童保育の充実。
男性	45～49歳	子どもがいるいないではお金のかかり方が半端なく違う。平戸独自の子どもへの厚遇策があると少子化への歯止めにもなるし、Iターン、Uターンを考え中の若い世代へ後押しできると思う。現在幼稚園、保育園では病気の時は親も仕事を休まないといけなくなりますが、病気の時に面倒を見てくれる施設があると働ける母が増え、労働が安心してできるので少子化の歯止めになると思います。
女性	40～44歳	6次産業の振興には、通信インフラの整備が不可欠です。ネット産業の充実をはかることが雇用の創出へとつながると思います。
女性	35～39歳	学童保育所と習い事を一体化したキッズスクール(習字やそろばん、ピアノなど)
男性	35～39歳	近くに産婦人科が必要(市内に)
女性	25～29歳	産婦人科の設置。幼稚園の解放(通園前の自由見学)
女性	55～59歳	医療費の全額負担。住宅の確保。
女性	50～54歳	保育所などに預けていても子どもが病気になったり、調子が悪くて今日は行かせられるかなという時に、働くお母さんや核家族で他に見てくれる人がいないということもあります。こんな時困った、どうしたらいいかなと思うのです。SOSセンターとか電話相談とか頼るところがあればいいです。
女性	50～54歳	高校、大学への進学時に自宅通学をしているような経済的な補助、援助があれば子どもと一緒に平戸を出ていく家族は少なくなると思います。通学費、下宿費などの負担を!
男性	20～24歳	休日や夜の保育等の支援(小学生)

性別	年齢	自由記述(子育て支援の充実について)
男性	25～29歳	予防接種、費用の補助があれば良い。
男性	50～54歳	日曜日にも予防接種ができれば助かる。
女性	35～39歳	産み育てやすい環境にするには、医療費免除、保育園・児童クラブの設置・運用、公園の整備・造成等
男性	20～24歳	子どもたちが利用できる場所(遊んだり、勉強したりする)をもっと増やしてほしいです。そのかわり利用する時には厳しく躰け・・・というか、挨拶や決まり事を守るなど大人がきちんと指導していただきたいです。
男性	50～54歳	保育料をもっと下げる→近隣で働く人が住むようになる。
男性	35～39歳	国の施策等なのかもしれませんが、パート、非常勤、契約社員のような立場の女性にとっては「子どもを産みたい、育てたい」と思える環境になっていないと思う。数か月毎にハローワークに出入りしなければいけないのは負担です。
男性	40～44歳	子育てで重要なのは医療費をいかに充実させていくかが行政の役割。中学または高校まで医療費を軽減または無料にしてみてもどうか。
男性	50～54歳	就業支援により経済的に余裕を持たせる。
女性	35～39歳	第2子から保育料を無料にしてほしい。
女性	55～59歳	産婦人科、小児科の設置。
男性	30～34歳	子どもの減少に伴い、クラブ活動が制限されつつあるなかで、クラブ活動の数はあまりなくならなく、子どもたちだけではなく親の負担も大きくなっている。地域との交流の場が増えた方がいいと思う。
男性	40～44歳	子育て世帯が集まる場の提供。2人目以降産まれた際の資金援助。
男性	35～39歳	外で遊べる場所
男性	20～24歳	幼稚園を増やすと同時に、老人ホームとかでも幼児を預けられるようにしたり、職場での育児スペースの確保を推進。共働きを考えている場合は、夫婦ともに子育て講習を行い、育児ができるか考えるきっかけにする。親の育児ストレスを減らす環境や社会づくりを進め、不幸になる子どもが少なくなればと思います。
女性	35～39歳	住民税を下げる。
男性	55～59歳	まずは病院の充実、教育の充実(子どもたちが遠くの高校へ行かないでもいいような内容、小中高一貫でもいいのでは。)
女性	40～44歳	最近では恵まれた生活のなかでも案外、朝食をとらずに登校したり、共働きのためカロリーはあっても栄養面が心配な場合がある。食材豊富な平戸市、簡単レシピやB級食材等をもっと有効活用した農水産加工品等があったらいいと思う。
男性	35～39歳	東京足立区のギャラクシティみたいな子どもが遊べる場所がほしい。近場で遊べる場所があれば助かるし、ママ友とかとの交流も出来ていいと思う。佐世保までわざわざ行くのはガソリンも時間もかかるので。

性別	年齢	自由記述(子育て支援の充実について)
女性	55～59歳	昔と比べて子どもがだんだん少なくなる現状。色々なニュース等見ますが、子どもが元気でいじめのない明るい環境、親子関係を大切にしてください。少ないがゆえに目の届く事が多くなっていると思います。一人一人を大切に。頭がいいとか悪いとかは二の次だと思います。優しく見守ることが大切かと思います。
男性	50～54歳	市民の所得が上がっていない一方で未だ社会は高学歴を重視しています。このことから大学進学における奨学資金の拡大、充実を図るとともに、市内就業の場合の半額免除などの助成制度の創設。
女性	45～49歳	少子化で小中学校の生徒数が減ってきているので、学校を超えた活動ができるような環境があるといいと思う。(例えば中学校の部活動が人数が減ることで、活動できる部活動の数が減って校区外の学校に行く子が出る)

(2) 高校生の意見

性別	自由記述(子育て支援の充実について)
女性	塾を作ってほしい。
女性	18歳までの児童手当の引き上げ。
女性	公園などが少ないと思う。テレビなどで流行っている人形などを町に飾る。子どもの目線で考える。
男性	スポーツに力を入れているのは所々見えるのですが、文化面または勉強面にもっと力を入れたらいいのでは。例えば平戸市から東大、京大、有名私立などへ毎年2ヶタほどの入学者を出すような目標を立ててみたら。その場合、市から一定のお金を出すとか。有名進学塾を受け入れるとか、ミニラサル、ミニ青雲みたいなミニ進学市を目指してみてもは。他市、他県からも平戸を目指して子どもたちが集まるのでは。スポーツだけ出来てもダメな時代ですから。
女性	公園を作る。
男性	乳児親子用プチエリア。公園ほどは広さを必要としない。ちょっと休んだり遊んだりできるスペースを生活空間の中に作る。柵、ソフトな地面、簡単な遊具&椅子がある。
男性	保育所を増やす。
男性	御祝い金を出す。
男性	公園を増やす。
女性	平戸に若者を呼び込む。
男性	保育士の雇用
男性	無償に出来るようなまちづくり。
男性	図書館をより充実させる。(学生が図書館で自習できる環境。本のより一層の充実)安心安全な公園等の遊び場。(崎方公園、大橋公園等は周りから見えないため不安)
女性	奨学金の充実。医療費負担を減らす。
女性	講演会を開く。市から子育て費用として子ども一人につき、いくらか支給する。
男性	今平戸市には3つの保育園がありますが、道が狭いことが不安です。もっと広くした方が保護者の接触事故がなくなると思います。
女性	平戸市内のベビーシッターを雇ってみてはいかがですか。急な用事の際にも便利だし、市内に住んでいる人ならと安心して頼れると思います。介護と保育を同じ場所で出来る施設を造ってみる。年配の方にはリハビリになるし、子どもには電気機器を使わない遊びができる。
女性	学校や保育園の設備を整える。
女性	保育園に行かない時に、近所の人たちの家で子どもの面倒を見てもらう。
女性	小さい頃はネットなど控えめがいいと思います。家族と一緒にご飯を食べる。たくさん遊ばせる。

性別	自由記述(子育て支援の充実について)
女性	保育施設は充実していると思います。また、講演会などの時も託児所が設けられる場合が多いので、そこも大丈夫だと思います。公園の遊具をもっと増やし、おもしろく、そしてかつ安全にしてはどうかと思います。どこの公園も似たような遊具ばかりとを感じるからです。
男性	小中学校での教育にもっと力を入れるべき。
男性	子育て支援のため、家族の中に子どもが三人いる場合、お金を支給してほしいです。
男性	保育園、幼稚園を増やす。
男性	子どもが3人以上産まれると市から支援金がもらえる。
女性	子育て支援の充実に関するアンケートは、子どもをもつ親にアンケートしてもらった方がいいアイデアが出ると思います。
男性	保育施設は充分足りていると思います。小中学校で選択肢が少ないことが懸念材料だと感じます。高等学校も、平戸市の中では鈍く光っている檜興館くらいしか、私の場合は進路の視野に入れませんでした。高いレベルの中学生が佐世保三校に目が行く前に、平戸市内の高等学校に目がいく位の高等学校を1校だけでも建設するべきだと思っています。高等学校の件ですが、単純に偏差値の高い高校を作るだけでなく、数年前まで廃校の噂があった松浦高校でさえ、商業科が増えただけで今まで佐世保商業に流れていた生徒も松浦高校に進みました。進学に有利でなくても、何か一つの付加価値をつけるだけでいいと思います。現在の平戸高校は総合学科なのに対して、やっていることは商業科のようです。さらに北松農業高校は農業に徹さず、若干の商業が入っているように感じます。この現状より、私は平戸高校に商業科を設立し、商業系を考えれば、今まで北農を考えていた生徒は少なからず平戸高校を選ぶはずで。さらに商業科で英語に力を入れ、「平戸の観光」のクオリティを上げるために平戸に商業系の雇用先を確保し、平戸高校→平戸の商業系企業とすると、平戸への定住化にもつながるのではないかと思います。
男性	子育てを支援する場所を増やしていく。子育て支援の場所を色々な場所に設置し、色々な人と触れ合わせる。
男性	2人以上の子どもがいる家族に対して、子ども手当てを行う。共働きの親をもつ子どもが安心して遊べる児童施設の整備。
女性	公園などの施設を増やす。
女性	子育て中の女性が働きやすい環境を作る。
女性	ママさん同士が語り合える場所を作る。
男性	平戸市に認定こども園の開設。
女性	キャラクターを招待して子どもと遊ぶ。
女性	月1回の自宅訪問。
女性	平戸ならではの歴史や食べ物について体験したりできればもっと良いと思う。
女性	公園をもっときれいにして遊具も増やして、楽しく遊べるようにする。

性別	自由記述(子育て支援の充実について)
女性	保育園などを増やす。
女性	小児夜間救急病院を作る。
女性	遊べる場所をたくさん作る。
女性	子育てで分からないことを相談できる施設をつくる。
女性	子どもが遊べる所を作る。公共機関を整備する。(バスの時間を増やすなど)
女性	子どもを一人産んだら〇万円、五人なら〇万円などのように、市内に住んでいる赤ちゃんを産んだ家族に現金をあげる。子育てはビックリするくらいお金がかかるので、貰ったら嬉しい。一人目とは差をつけて五人目はより金額を増やすと、頑張ろうと思うかもしれない。ということのを他県でしていて素敵だと思った。
女性	遊具や安全性の高い公園を増やす。
男性	少子化が進む中で、一人一人に合った対応などを積極的に進めて、社会人となるための基礎を作るための学校。障がいをもった生徒がよりよく過ごせる学校。(そのことでのいじめや差別がない) 障がいを持った生徒、普通の生徒がうまく過ごせる学校。
男性	世の中全体の問題ですが、仕事を辞めて子どもを作るかそうでないかで迷っている女性も多いみたいです。職場の雰囲気が悪いところだと「何、産休とってんだよ」と思われそうで怖くなり、そういうことになるので地域全体の暖かさも大事だと思います。
男性	3か月に一度補助金を出す。
女性	子どもが遊べる所を増やす。
女性	子どもたちが元気に遊べる遊具付きの公園などを作る。今ある公園は立地的に大変だと思う。
女性	赤ちゃんや幼い子どもを預ける場所や子どものおむつ替えなどがあるといい。
女性	アイデアというよりは要望なのですが、高校生をもつ家庭にも子育て支援をしてほしいです。高校の方がお金がかかり大変だからです。親の収入やその家庭に何人の高校生がいるかなど総合的に判断してもらい、子育て支援してほしいです。
女性	子どもを産むときなどの補助金を上げて子育てをしやすくしていかないといけないと思う。

2. 産業振興（農林業・水産業・商工業）

（1）市民の意見

性別	年齢	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
男性	50～54歳	期間限定で観光フェリーを賦活できないか松浦市とタイアップし各島を周遊する
女性	55～59歳	農業は米が安くてとても大変な時だと思います。平戸の米を地元の人に買ってもらえるようにどうにかできないでしょうか。米を使った特産品づくりを考えてみてはどうでしょうか。
女性	45～49歳	幼少期から郷土学を位置づけまずは平戸を良く知り、様々な掘り起こしの産業化(知は力)。農林、水産業コスト支援と底上げ。米や魚の値をもっと上げる。農林水産のすごさ、素晴らしさを世に出していく。とにかく雇用体制の確保を。
男性	40～44歳	ふるさと納税で全国的にも成功していると思うので、もっとふるさと納税をアピールしていきましょう。
男性	40～44歳	平戸にまた行きたいと思ってもらえるものが無いように思える。
男性	55～59歳	休耕地が多いので、まずは会社設立して従業員を雇い、農業をする。一人で農業を一からはじめるのは資金面なども大変なので会社員として農業を始めるのはどうでしょうか？技術はまだまだ若いお年寄りに手伝ってもらい、指導していただく。定年後の再就職も夢ではないのかと思います。
男性	55～59歳	米粉加工所や飼料米、WCSをもっと活用できるようにしてほしい。
男性	40～44歳	農業に関して個々ではなく法人化していく必要があるのでは？
男性	40～44歳	現在や近い将来を考えてもブランド化は下火になると思われる。通販などの環境を整備して新鮮ですぐにでも都会に届けられるシステムを作るべき。(ネットや輸送技術)
男性	50～54歳	私は農業をしています。農業をする人が減少しています。若い人が農業してくれる人がいれば、平戸の農業、水産、商工業が増えていくと思います。まずは、仕事がスムーズに行く事だと思う。
男性	55～59歳	市長はもう少し市政について真剣に考えてほしい。
男性	55～59歳	ズバリ花街の復活、これに限る。真面目な意見です。
女性	20～24歳	各産業の体験
男性	50～54歳	遊休農地の活用
男性	35～39歳	農業、漁業でも生活できていけることを知ってもらうことも大切かなと思います。
女性	30～34歳	もっといろいろな商品を出して欲しい。松浦海のふるさと館にあるブリ頭のカットした商品は使い勝手がよく県外の親戚にも好評です。平戸もこういう安くて目玉になるような商品をもっとだしてください！お土産品ではなく地産地消できるものを。

性別	年齢	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
男性	55～59歳	平戸市の農林水産業からの地域産物からの商品化。官民協力による商品開発。
男性	55～59歳	福岡をはじめ九州内の県庁所在地や広島、大阪、名古屋、東京、仙台、札幌にアンテナショップを出してPRする。長崎と平戸を分けて考える。差別化する。
女性	55～59歳	林業の技術者を若者の中に育てていく
男性	55～59歳	若者の就農支援に今までないような支援事業を展開してもらい若者の就農意欲を高めて就農者を増やす事。ヘルパーとか農援隊など高齢者の労力軽減を図ってもらえれば、販売高もあがっていくのでは？
女性	40～44歳	生月では白月市がひらかれています。魚など住民にも気軽にかえるようなそんな機会をもっと作ってほしい。
女性	45～49歳	水産業が平戸市は頑張っているのに対して、よそからの観光客の方がお土産を買う場所が無い。どこで買った方がいいのか迷われている。あるかもしれないけど、わかりにくい。よそのチェーン店(ダイレックス、コスモスなど)大型店は平戸には入れてほしくない。平戸市の商店街がどんどんつぶれている。市長さんは早く気付いてほしい。
女性	40～44歳	都心にあるような大型スーパーや百貨店などが出来てほしい。(ゆめタウンイオン)
女性	30～34歳	もっと未来をみて、発展させてほしい。将来的な発展に対し、消極的な企業が多い印象がある。
男性	35～39歳	平戸の名産を作り、若者をたくさん雇用してほしい
女性	55～59歳	農林水産業で平戸ブランドの確立が重要で雇用促進を期待する
男性	55～59歳	観光業は平戸本島の中心に偏っている。すべてに目を向けるべき。
男性	50～54歳	ふるさと納税による予算の有効な利用。
男性	20～24歳	特産物の発信
女性	30～34歳	農業に携わる人の確保。海のものだけでなく農家の人に声をかけ、ふるさと納税に匹敵するものをつくる
男性	50～54歳	本市ならではの多種多様なブランド力の強化
女性	55～59歳	商店街の空き店舗を1～2年若者に無料で貸し出す。
女性	30～34歳	市外から来たものから言わせていただくと、PRが足りないとおもいます。たくさんの魅力があると思うので方法の充実を。
男性	55～59歳	休耕地(貸出可)の公開と耕作者の公募
女性	50～54歳	ふるさと納税などで特産品が出されたり、とてもいいことだと思う。どんどん進めて欲しいと思う。
女性	45～49歳	観光業を充実させる。どの季節に来ても楽しめる体験や食事などを分かりやすく発信し、リピーターを増やす。(ワンデーバスツアーを企画しお得に平戸観光ができるようにする。月に一回等)福岡との航路を結び、人や物が行き来しやすくする。

性別	年齢	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
男性	40～44歳	まず、働きたくても生活できる額に足りる働ける場所がない。働ける場所があれば他県からも地元に戻ってくる人も多くなる。仕事が無く、生活できないので仕方なく他県へ行く。年老いた両親を置いて…。高齢化が進み地元は活気無くすたれていく。現在、この悪循環を一日も早く止めてほしい。
女性	55～59歳	松浦資料博物館にあった眺望亭は平戸を訪れる友人には私のお勧めの場所でした。また以前にあった平戸城亀岡神社までのお茶会は2年で終わりました。平戸らしい平戸の良さをアピールするような場やイベントが長続きできればいいのと思っています。
女性	30～34歳	町中がいつも工事をしているのに少しもいい道にならないのは何故でしょう。車にとって大変入りづらい道です。駐車場の話があったようですがどうなったのですか。以前と比べて元気のなくらい商店街になっています。
女性	50～54歳	平戸には自然(海)や魚介類や景色(平戸大橋、平戸城)いい素材は山ほどあります。それを上手に行かせてあげればいいと思います。海の見える場所で安価で魚介が買えてその場で食べれる場所などリピーターの客を増やす工夫。
女性	40～44歳	食料供給源(新鮮な野菜や魚など都市部へ提供)観光客を呼び込むことも大切だが、平戸にこなくても地方で平戸の新鮮な野菜や魚などが食べられるというのでもいいのではと思う。
女性	20～24歳	平戸ブランドの確立、周知させることが大事だと思う。”平戸といえど?”ときかれて”これ”という特徴が無いと思う。(佐世保なら、バーガーや軍港の歴史、レモンステーキ、造船業など)若者が平戸といえど?といわれて即答できるような何かブランドというか特徴が欲しい。
女性	50～54歳	駐車場と道路を広くしてゆったりしたらいきやすい(出かけづらいので)
女性	55～59歳	平戸新鮮市場、瀬戸市場の売上げが良くなっていることは、農林水産商工においてもいいことだと思う。平戸商店街において、仕事帰りに買いたいものがあっても6時で店が閉まっているため、買うことができない。客が減ったというまに商店街の閉店時間を遅くしてほしいと思う。大型店がいくつも進出してきているが、共倒れしないか心配。ふるさと納税でいっそう平戸産物が知られてきたことは有難い。それをこれから先もいろんな工夫を加えて、継続していけるように支援して欲しい。
男性	55～59歳	ふるさと納税では全国一位だが、未だ平戸市自体の知名度アップはいかがなものか。地元農水産物は自信を持っていいがそれに伴う観光客のアップを図ることで小売、観光業や地域住民の活性化や元気パワーアップが望める。現在は行動する人と見る側だけで市民自体の地元愛のモチベーションが低い。もっともっとリーダーシップをとっていく人材が欲しい。
女性	40～44歳	せっかくウチワエビなどがテレビなどで取りざたされるようになったのでこれを機に平戸の顔として売り出して欲しい。ゆるキャラとか作ってほしい。
男性	40～44歳	土壌の整備

性別	年齢	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
女性	20～24歳	今まで平戸市にいろいろなイベントがありました。回覧板が回ってきてないのでイベントがあることが分かりませんでした。できたらイベントのチラシが平戸市の人々のお宅のポストに入ればイベントのお客さんは増えると思います。それで、平戸市にはオランダの商品(チーズとかウインナーとか)の店があったらいいと思います。
男性	40～44歳	休耕地の有効活用→無償や格安でレンタル。その際に簡単に農業指導も受けられればいい。平戸市の商店街の路上駐車による通りにくさ(人も車も)は他所から来られた方には非常に見苦しいので徹底した取り締まりをおこないきれいな街づくりを行ってほしい。
女性	55～59歳	ブランド品の確立(長崎和牛じゃなくて平戸和牛に)
女性	50～54歳	概念、規制にとらわれず、試みなければならぬと思う。販路拡大が重要であり知名度が上がれば平戸ブランドとして固定されるのではと思う。
男性	55～59歳	平日の商店街は地元の人が日常品の買い物をする近隣型の商店街としての役割はもうあまりないのではないかとさえ思います。ツアーの観光客が町内散策というかたちで街歩きしてたのしんでもらえるような街づくりを作っていく必要があると思います。
女性	30～34歳	農林業、水産業、商工業→長期休暇(夏休み、冬休み)に体験や(工場)見学など有料で行う。ちょっとしたお土産など配る。農業ならしいたけの栽培工程をみたり実際に収穫をしてみる。水産業はあやか水産さんがしているようなもの。こどもに色々な興味をもたせたり、学習になる。
女性	55～59歳	何とか若い人が活躍し、後継者の育成ができればいいと思う
女性	35～39歳	醤油、味噌、かまぼこなど本来の作り方として「無添加」を売りにする。(添加物が多すぎて子ども達に食べさせたくない)大豆も、小麦も地元産にこだわる。
女性	50～54歳	島は今の所、巾着船と呼ばれる水産業で何とかなっていますが、最近は若いひと達があまり乗船しません。もう時間の問題かもしれません。これから10年先20年先はどうなるのかと思います。これに関わる産業は無いのかと。
男性	50～54歳	全国展開できる商品の開発。B級グルメの発明。とにかく産業が起きないと雇用が出来ない。雇用が無ければ住居が進まない。住まなければ、子育て支援をしても無駄。人口が増える事を考えるべき。
女性	30～34歳	新規就農者の受け入れ。育成。
男性	55～59歳	農家の畑など空いてる土地を無料で貸してもらえるアイデアとか花や野菜を育てる指導をしてもらえたらと思う。イベントは時折やってはいるが、まち全体の盛り上げに欠けると思う。市民参加をもっと募ってほしい。祭りに参加しやすい体制作りとか競舟をもっと派手な色に塗り替えて小学生や中学生の学校あげてのイベントにするとか楽しいと思う。

性別	年齢	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
女性	45～49歳	水産業は難しいと思われる。商工業は日曜日に商店街が休業でそのとき、観光客はつまらないのではないのでしょうか。地元の人(中南部の方が)仕方なく、市外に買い物に出るのはやむを得ないと思われます。大垣地区には大型ショッピング(ダイレックス)などができて便利になりましたが・・
男性	50～54歳	オーナーズ制度の取組みなど
男性	50～54歳	自分で育て作り、そしてその場で食べられる施設を提供。
女性	45～49歳	平戸はどうしても交通の便が悪い。平戸に遊びに来て下さいと言っても遠いからという声が多いです。早急に道路整備など充実させれば、観光客など増加するのでは。北部→中部→南部 平戸を回るのも時間がかかりますね。
女性	30～34歳	兼業農家なども含めそれぞれが経営を維持していけるよう融資制度を条件などをあまり厳しくせずに設ける。若者がもっと興味を抱けるよう学校の授業や地区の行事の一つとして実体験できるよう図る。
男性	55～59歳	今後農業は、家族労働が難しくなり、1人または1.5人程度になっていき、高齢化も進んでいくと思われるので、共同ではなく個人に対する農業機械の貸し出しまたは、購入補助の実施。共同でいけない理由は、オペレーターが地域の中心的な農業者(担い手)に負担がかかり、地域農業が進んでいかない。
男性	35～39歳	大型客船の入港や企業誘致
男性	55～59歳	①生月島に来島する観光バスの休憩所を作り、おさかな市場を移設。回転寿司店の誘致。将来は茨城県的那珂湊を目指す。場所は宮ノ下～冷凍倉庫 ②商品開発、一人用鍋の開発(1.アゴ出しうどん鍋 2.アゴ出し湯豆腐セット 3.生月ハギ鍋セットの開発)
女性	30～34歳	大工さんに平戸の木で作った椅子を作ってもらい、チェアマーケットを作る。(公開する。)漁師めしコンテスト。商売人の平戸市を売るプレゼン。海外から輸入する。長崎で一番大きな輸入店を作る。
男性	25～29歳	体験型で募集。(住まい・まわりの人間関係セットで準備)することで若い人を呼び込めないか。
男性	55～59歳	農業をする若い世代が減り、田畑は荒れ放題になるであろう。会社や法人、組織にするべき時代が来ている。
女性	40～44歳	商店街の電柱を地下に(歩道が狭すぎて傘をさして歩けない)。一方通行または歩行者天国にする。(死亡事故が起きたのに、違法駐車がなくなり危険！)
男性	50～54歳	日本文化の原点回帰!

性別	年齢	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
女性	40～44歳	ふるさと納税で多くの顧客リストを得ていると思います。そのリストへ他の商品(平戸の)のカatalogを送付。再度リピーターを拾い上げる戦略が必要だと思います。そのためには早い対応とサービスが必要です。そのために通販コールセンターを誘致し、そのノウハウにのっかり、物を作るのは平戸市民に限るとしてはどうでしょうか?もしかしたらうまくいけば移住者や他の企業の誘致もあると、雇用も生まれるのではないのでしょうか。
男性	55～59歳	ブロードバンド環境の整備は最低条件。
女性	20～24歳	小学生のとき、総合学習で水産業について学ぶ機会があった。その時のことは今でも覚えていて、他の市の同世代の子たちよりも自身の市の産業について知っていて考えることが出来ていると思う。地元について幼少のころから学ぶことも大切だと思う。新鮮さを活かしたレストラン(活き作り)は市街地にあっても良いと思う。
男性	45～49歳	観光産業の再生。海を活かした観光、北九十九島等。利用していない田畑の活用。水産資源の研究。このままでは魚はいなくなる(乱獲)
男性	35～39歳	ふるさと納税が成功したのはやはり水産業。その割に水産関係の学習環境が整っていない。水産高校(水産学科)の設置。ゆるキャラを作る。
男性	25～29歳	農産物、水産物資源を有効活用した産業振興に力を入れる。ふるさと納税で知名度が上がりつつある農・水産品を使ったオリジナル商品開発やレシピづくり。
男性	50～54歳	地元に対して農林水産加工品など知らない人が多い。PRで体験させてあげて、観光に来た人たちに説明できるようになるといい。
女性	50～54歳	農業、水産業は自然との闘いなので少し補助を強くしてほしい。
女性	55～59歳	旧平戸市(島)の真ん中にバイパスを作って、宮の浦までの移動時間を短縮し平戸の海産物、農作物をどんどん都会へ売り出してほしい。
女性	20～24歳	とにかく店を増やしてほしい。買い物に行くのにも遠い。
男性	50～54歳	平戸には歴史的な財産があります。たとえば、松浦資料博物館には3万点の所蔵品があるので博物館を作って全部展示するなど行う。ほかにも日本初の茶畑や弘法大使などの歴史や南部のお寺などの歴史的遺産の活用。
男性	45～49歳	天候に左右されないように冷蔵庫や倉庫などできちんと管理して安定した供給ができるような施設をつくる。市は事業者から家賃を頂く。
男性	55～59歳	田、畑のオーナー制度(都会よりきてもらう)年に2、3度。(種まき、収穫時)そのために市営の民宿などを充実させる。農業指導委員の育成。
男性	35～39歳	素敵なビーチがあるので糸島のサンセットビーチ・ふたみヶ浦のビーチや、しゃれた食べ物屋があればなと思う。
女性	30～34歳	地元の高校などとコラボした商品開発、生産

性別	年齢	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
男性	40～44歳	農産物、水産物、最高に自慢していいと思う。よそにはない加工品開発があってもいいと思う。1つ目玉があれば話題になる。平戸の商店街は景観を揃えているようだがこれはどこでもやっていること。せっかくオランダという強い味方があるのだから洋も取り入れた景観にしてもいいのでは？
男性	55～59歳	ブランド重視の施策が先行している感があり、農水産業の基盤づくりが将来を左右する大きな要因。この部分がおろそかになっているのでは。重要施策に位置付けるべき。
女性	55～59歳	ホテルに温泉がどこでもあるのですが、観光客だけの利用にすぎないように思います。市民の方々も利用しやすく、そして入浴後ゆっくり食事したり、楽しく買い物やちょっとした娯楽ができる場があったらいいかなと思います。農林業、水産業商工業もどちらもプラスになると思います。
男性	55～59歳	柔軟性が無い。これの最大の要因は一部を除いて大多数の関係者が(生産者など)が収入の不安定または収入不足による生活基盤の虚弱化に起因する所が大であるが、これらの影響で利他主義であるべきところ大半が利己主義の塊となっているような気がする。よってそれへの分野でリーダー格の人材の育成、輩出が必要であろう。平戸市の今後の発展の礎には有能で優秀な人材の育成が急務でありこの方面での行政の支援、アドバイスなどなど必要不可欠といっても過言ではないと思う。
女性	30～34歳	平戸市は海に囲まれているので海路がうまく使える産業、(例えば造船業など)が発達したらいいと思う。
男性	45～49歳	もっと魚やアワビなど育てることを充実してほしい。
女性	45～49歳	中部地区はイノシシ被害がすごいです。どうにかしてほしいです。タニシとも増えていて、補助金を出すとか。米を植えても収入がなく、タニシにもやられて、油粕も結構お金がかかります。
女性	35～39歳	ヘルシーやオシャレをテーマにして、イベントを開催してその中で平戸のオーガニックなものやオシャレにつながるものを販売してみてもいいのでは。オーガニック野菜や木材チップやヘルシーメニューなど。
女性	55～59歳	産業を生かす(特産物を使ったお土産づくりなど)
男性	35～39歳	安定的な収入を得られるような販売ルート。
女性	30～34歳	働く場所が少ない。若い人はどんどん外に出ていく。なので、農・水・商一体でうまく産業化できないものか。新しい特産品の開発、制作。それを県内外に広めて買ってもらう。また平戸に足を運んでもらうことで旅館や観光業にも良い影響が出ると思う。各々ではなくて目標をひとつにして、全体を進めることが大事だと思う。
女性	55～59歳	瀬戸市場の様に観光客が寄って、新鮮なものを買うことができ、自分たちも体験できる魚の開き造りや農業収穫等のツアーを作るのもいいことかなと。
男性	30～34歳	企業誘致
女性	55～59歳	地域の道の駅の充実

性別	年齢	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
女性	40～44歳	親から子どもへ。新規就農というより、親がやっていることを拡大させていく、続けていけるような支援が必要。
男性	30～34歳	街並みのなかに名物を販売する店舗を備える等(平戸の商店街は整備する必要有り)平戸の景観を生かしたカフェ等に平戸の素材を使った洋食を提供できるようにする。
男性	45～49歳	「Iターン、Uターンで就業する人、家族に5年〇〇で家を提供します」とか、Iターン、Uターンを考え中の人に訴えかける〇〇を策定する。〇〇は無償で、とか1万でとか市の算定基準で設け、ネットやメディアで公開し公募する。まずは基幹産業の充実と支援を市が重点的にしないと人も寄ってこない。
女性	40～44歳	若者が市街で働ける場がないため、就職により外に出ざるをえない。平戸市内での求人(高卒)と卒業人数とのバランスから考えて雇用を作り出してほしい。
女性	35～39歳	市外、県外より産業経営のノウハウを学ぶ機会を与える。若者の人材育成と担い手支援。
男性	35～39歳	高齢化対策。次世代の担い手の育成。
女性	55～59歳	特に水産業で加工品などの生産。個人経営にすると設備投資が大変です。もっと大規模で(平戸市経営など)経営し、雇用者を増やす努力をしていただきたい。水産業、農業でも女性の力はすごいと思います。
男性	50～54歳	水産業に関しては、大中型まき網の水揚げが多少なりともできる施設があれば。
女性	50～54歳	後継者不足なので、海外留学生や学生などメディアの力を借りて、労働体験や技術を学んでもらうなど、平戸の産業に興味、関心を持ってもらうなど。アスパラ、いちご、ひらめ、うちわえび、鯛など他にも色々ありますが、平戸のブランドと言えるような商品をもっと情報発信して行って、観光地としてもお土産の開発を考えるなどするとういと思います。
女性	35～39歳	平戸の自然、おいしいものを活かした、少し贅沢感を味わえるような宿泊、飲食店。モノやサービスが一流なら少し高くても来てみたいと思えるような売り出し方をすれば、必ず人は来てくれるようになると思う。
男性	20～24歳	特産品を生かした新商品の開発。他県への売り込み戦略。平戸特産品まつりを他県でしてみるのもいい。
女性	40～44歳	平戸ブランドをつくる。キャンプ場やアトラクション型公園など人を集めるものを作る。
男性	20～24歳	食など、豊富な食材等。素晴らしいので食べ方、作り方まで教えて頂けるともっと地元の方も外の方も平戸の物を欲しいと思うはずです。
女性	35～39歳	6次産業との連携・開発(若者にとって魅力ある職に！)
男性	35～39歳	水産業は特に頑張っている感じはする。
男性	50～54歳	高校入学や就職時に子どもたちが市外に出ないような取り組みを行う。

性別	年齢	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
男性	50～54歳	同じ県内の離島でも五島や吉岐島は色々工夫してメディアへの露出も平戸より多いと思うので、そこらを参考にしたらと思うのですが。
女性	55～59歳	ホテルは多いが、食事に魅力がない。魚料理を気軽に食べに行ける食事処(地方の方を自信持って連れて行けるような所)が欲しい。平戸市商店街は、街並みは素敵だが、あまりに早く暗くなりすぎ。外灯利用でもっと美しくした方がいい。
男性	30～34歳	第6次産業はもっと推進すべきだ。農業、漁業労働者にもっと優遇を。
女性	55～59歳	何かの事業を始めようと市に申し出ても杭をうたれる。許可がおりない。補助が出ない、という話を聞く。平戸市の活性化のためにとしていることが市の方からダメ出し。
男性	40～44歳	各産業のコラボ
女性	55～59歳	統一したぶれない内容を成し遂げる勇氣。浅く広くが目立っているように思う。
男性	40～44歳	商店街の接客が悪い。平戸市がふるさと納税や平戸のPRを行っても、平戸の商店のガイドブックを作っても、住宅改修費用の補助を行っても。そのうえ市に駐車場を作ってほしいと要望も出ているそうですが…。一部の所だけ税金使って商店街の人は自分の利益しか考えてないです。親和銀行の周囲は動物のフンがよく落ちています。汚れた崎方のお菓子屋さんもあり、観光できた方に「ここ、おいしいですか?」と聞かれ、店内が汚いので答えにつまりました。別のお菓子屋さんで二人暮らしの方に送りたいのと言ったら「もなか10個入れないと箱にいれられません」と言われ、仕方なく10個買いました。色んな物を食べたいので工夫して入れてほしいです。平戸中南部の独居もしくは二人暮らしの方はもっと大変です。接客研修してほしい。入店したら「いらっしゃいませ」は基本。
男性	20～24歳	長崎県には豊かな自然と観光資源(テーマパークや世界・文化遺産等)に恵まれているので、観光サービスや宿泊業と力を入れていき、それで得た収益で農林水産業にも力を入れていけばいいと思います。魚介や畜肉、野菜と果物等、積極的にブランド化に臨んでいき、県と市に興味を持ってもらい、観光と購買の相乗効果が狙えたらと思います。
女性	35～39歳	法人税を下げる
男性	55～59歳	平戸市内を対象にするとなんと地の利が悪いこと。でも近隣の国外についてはこんなに近場に位置しています。この地の利を生かしてほしい。
女性	40～44歳	食材豊富な平戸市、簡単レシピやB級食材等をもっと有効活用した農水産加工品等があったらいいと思う。
女性	40～44歳	例えば商品にならないトマトやイチゴなど捨てるのを見てきたが勿体ないので、ジャムやゼラートなど、今人気の食べ物にして売り出す。新しい図書館にスタバはいらないが、月ごとにカフェやお菓子屋さんを出展して、展開してみてはどうか?利用者も助かるし、店のコマーシャルにもなる。

性別	年齢	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
女性	55～59歳	平戸、大島、生月と平戸市めぐりの遊覧船はいかがですか？九十九島めぐりみたいなものですが、そこそこおいしい料理を食べてもらうとか。浮島の方も微妙ではありますが、変わりつつあります。今のままではいけないという感じですが。平戸市も動いてほしい。
男性	50～54歳	今進めているブランド化を続けていく必要はあるが、特定の業者だけでなく、その他の業者も参入させるPRが必要。色んな業種、業者のやる気を起こさせる必要がある。どうすれば良いかは分からないが・・・。
女性	45～49歳	農業は高齢化で70代の人たちが米や野菜を作っている所はめずらしくないのでどうにかしてほしい。共同経営等、どうしたらいいか知らない人が多いと思うので、勉強できる場とか助言してくれるなどサポートしてくれる支援があるといいと思う。

(2) 高校生の意見

性別	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
女性	自然を豊かにする。
男性	地球温暖化防止のため、市民の皆さまの節電への協力が必要なので家庭・事業所での取り組みの呼びかけ。
男性	商工業を増やす。
男性	海をきれいにする。
男性	漁船を増やし、街の活性化。
男性	大手企業の発展化。
男性	ネットショッピング(楽天など)での名産品の売り出し。
男性	農林業に関しての体験学習の実施(5~10歳の子ども向け)植林や、田植え等。
女性	小学生や中学生に体験させる。もっと平戸ブランドを大々的に宣伝する。地域を上げて農林業、水産業などに力を入れる。
男性	平戸では地産地消をしてもっと地域の活性化につながると思います。
女性	平戸市で作った野菜、獲った魚などで作った料理を他の市や県の方に試食してもらい、アンケートを取る。また、その料理をパンフレットなどにして販売する。
女性	中高生向けの産業ふれあいの場を増やす。ふるさと納税についての話題をもっと広める。「平戸といえば〇〇！」みたいな名産品を作り広める。
女性	もっともっとふるさと納税をおしていく。
女性	色んな事をPRしたりする。
女性	補助金などを出してほしい。
女性	ふるさと納税を頑張る。
女性	環境を良くする。
女性	農業者、漁業関係者が減ってきているなど感じます。今も特産物は作っているみたいですが、それにもう一工夫すれば、もっと良くなると思います。また、農業や漁業の良さを伝えると少しでも増えると思います。「ふるさと納税」についても知ってもらいたいです。
男性	平戸市が全面的協力をして、周りとの信頼性を少しでも深める。
男性	もっとしっかり商工業の発展に取り組もう。
男性	全国でのグルメ祭りに出場し、ブランド確立をする。
男性	若い人たちが働く職場が少なく、みんな市外へ行ってしまおうので考えてください。
女性	小中高校生が農林業、水産業、商工業を体験してみるなど、ふれあいの機会を作る。

性別	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
男性	農水産業はこれ以上なく良いところを発揮していると思いますが、もっと良い活かし方があるはずだと思っています。目を向けるならば商工業だと思っています。観光で売っているのに、外国人との交流も盛んではあるのに「英語」に対応できていない気がします。平戸は過疎が進んでいる割に、海外交流や外国人観光客が多くなります。外国人に重きを置いて、外国人で観光を盛り上げる策があるはずです。
女性	もっとアピールすべき。(広報など、全国に向けての認知度を高める)
男性	ふるさと納税をもっと利用する。
男性	農業において平戸に新たな品種の作物を育て、特産品とする。
女性	夏休みなど長期休暇を利用して、次世代の子どもたちを対象とした体験など。
女性	身近に平戸産の食品が買えるようになると思う。
女性	もっと情報を広域に発信する。
男性	農業の後継者問題について。農家の経費削減のため、市が農業器具を購入し、農家への貸し出しを行う。
女性	地域で体験できる産業を増やす。
女性	古い店舗などが多いので、学生など若い人が利用しやすい飲食店があったらいいと思います。農林水産に関わる店舗をもっと身近で利用しやすくすべきだと思います。
男性	やらんば平戸応援寄付金(ふるさと納税)による平戸市の産業振興は、他市に比べて発展しているのではないかと考える。地産地消は基本だが、平戸ブランドの周知が与えるものは大きいのではないだろうか。
女性	県外も平戸市内もまだまだ知らない人がたくさんいると思うので、もっと知れるようにすると思う。
女性	有名なものを県外にアピールする。
女性	平戸牛とかいいと思う。
女性	加工品を作り、商品化し売り出す。
女性	カッコいい！というイメージをつける。きつい、儲からない、休めないなど悪いイメージを持っている人がいたら困るので、イメージを変える。商品を安くたくさん売ると多くの人に買ってもらえると思うが、少し高くてもいいから、安全ということをアピールし、そこでしか買えない、その人しか作れないみたいなブランド感を出す。
男性	平戸のブランド品の知名度を上げるため、作物などを活かしたオリジナルの料理などでブランド品の名を九州や国内に発信していく。
男性	新しい技術を取り入れていく。
女性	観光客が来る時に合わせてイベントを行う。PRのCMを作る。

性別	自由記述(産業振興(農林業・水産業・商工業)について)
男性	自然が豊かなので(農林の方は)大切に資源を利用して次の世代に引き継ぐこと。水産は温暖化の影響が出てくることもある。それをどうするか。次の世代がいなくなる前に伝統を継いでくれる若者を探す。(都市へのパンフレットや関連施設への提示)
男性	観光名所をイメージした新しいお菓子など。
男性	平戸市の売りとなっているもの(ごぼうもち、カスドース、かまぼこ)などをもっと押して、それを作っている企業に輸出して全国に広める。
女性	全く管理されていない山などがあるので、管理をして木などは工芸品や建物に使用する。海の流れを変えなければ水産業は大丈夫だと思います。
女性	若い人の商工施設。
女性	環境整備をした方がいいと思う。草が生えまくりや木の枝などがたれていて見た目も悪いし危ないと思う。

3. 雇用促進

(1) 市民の意見

性別	年齢	自由記述(雇用促進について)
男性	50～54歳	企業誘致、そのためには道路や船舶など交通網の整備が重要
女性	55～59歳	平戸市の雇用は若者でもパート、臨時が多いのでなんとか一日中正社員で働ける企業を誘致してもらいたい。職業安定所に行かなくても平戸市役所でも求人票などを見られるように貼っておくことは出来ないでしょうか。
女性	45～49歳	観光に伴う地元ならではの土産商品がもっとたくさんいる。(国の助成などうけられないのか?)IT、ネット販売の支援体制と対応する農業体制の整備(人員、場所、管理など)漁業、生きた魚介を味わえるのは地元ならではの、やはり人員、体制、など大きく構え支援連携体制を。
男性	40～44歳	やっと光インターネットが中心部より始まるニュースは喜ばしい話ですが、都会は当たり前、当然のサービスです。あとは西九州道とインターネットで企業も来てくれるのではないだろうか。
男性	40～44歳	今の産業の在り方に限界。今後どうする方向に行くのか明確に方向性を。
男性	55～59歳	まずは平戸市に働く場所が無い。働く環境が悪い。(有休が無い、退職金、保険が無い、給料が安い、雇用主のモラルの低さなど)これでは雇用促進などできない。今は都会では福祉施設が不足しているそうです。自然環境豊かな平戸市に福祉施設、介護施設の誘致など老人などを対象として起業してみるのはどうでしょうか?
男性	50～54歳	若者が帰りたくても仕事が無いので雇用できる大型スーパーなどを取り込んでほしい。
男性	40～44歳	企業誘致
男性	40～44歳	インターネットなどの高速通信の整備と事業者誘致や支援。大型客船が入場できる港と周辺環境道路などのインフラ整備(中国からの観光客の爆買いを呼び込む)迷惑施設を誘致する。(刑務所、米軍基地、各排出物処理施設など)
男性	55～59歳	雇用促進が一番の問題であり、市長の動きが見えない。
女性	25～29歳	若者が働ける場所
女性	20～24歳	レンタルショップ等の企業誘致
女性	30～34歳	スクールバスの運用をもっと自由に。スクールバスの運用を増やし、統廃合した学校の登下校以外にも自由に運用できるようにする。部活動や子ども会、学童、保育所など、子どもたちのために。保護者の負担が減り、ドライバーの方も安定した雇用が期待できるのでは。60代で定年退職してもまだまだ元気なおじさんおばさんが楽しみながら働ける場所を。
男性	45～49歳	中小企業の工場を取り入れる。
女性	30～34歳	農業水産業を充実させ商品開発をお願いします。

性別	年齢	自由記述(雇用促進について)
男性	55～59歳	太陽光発電や自動車の部品メーカーなど企業の誘致
女性	40～44歳	賃金が安すぎるので最低賃金を上げる事
女性	30～34歳	雇用する側に雇用促進に積極的になれるような働きかけが必要。働きたくても働き口、福利厚生が充実していなければ、若者や子育て世代の就労が難しい。え、長く勤め続けることはできない。
男性	35～39歳	平戸の名産を作り若者をたくさん雇用して欲しい。
女性	55～59歳	自然を生かした産業の開発。農産物のブランド化
男性	50～54歳	インターネット環境の早急な充実化→企業誘致の後押しになる。市内現存企業への助成(新規事業創業勉強会→助成)の充実
女性	30～34歳	若い人たちの新しいアイデアを参考に色々なことに挑戦してみる。若い人たちと年上の方が親睦を深め助け合い、情報交換できるような場を設け、話し合う。
男性	50～54歳	本市の森林面積は約5割を占めているため、林業に関する雇用の創出
女性	30～34歳	企業誘致。大手の工場。
男性	40～44歳	減税。
女性	50～54歳	働きたい人を雇用したい側がうまくつながると良いと思う。
女性	45～49歳	観光業の充実。福岡→佐世保への間に1泊平戸で滞在してもらえるように福岡や佐世保市と協力してツアーを開発する。
男性	40～44歳	この前、佐々に新しい製造会社ができるとの事で説明会へ行ってきました。様々な県内外から多くの方々が来ていました。みなさんやはり、求めているのは同じようです。会社(製造など)が平戸に建ててくれて雇用してくれれば、平戸にも若いひとが集まり、人々も増え、活性化すると思う。
女性	30～34歳	疲弊したホテルや漁業や商店を応援したらどうですか。
女性	50～54歳	一流ホテルで働きたいと希望する人も多いと聞きます。平戸のホテルのレベルアップ。スタッフの教育、食事など。
女性	20～24歳	平戸を出てしまった若者にセミナーを開催。私も大学進学の為、平戸を出たが、平戸の企業説明会のようなものがあれば、参加してみたかったと思う。(あったのかもしれませんが)18～25くらいの平戸出身者にDMを送って参加者募集したり。
女性	50～54歳	若い人の働ける環境のため企業誘致
女性	35～39歳	製造、生産の仕事、内職の仕事など男女が出来る事
男性	55～59歳	企業誘致(交通便が他地区に比べて悪条件)をもっと活性化。それと同時に地場産業の拡充による求人増。現状卒業→進学・就職(県外)で地元には愛着があっても本人も両親とも平戸にUターンする決心が出来ないのが現実。このままではいつまでも人口減少は止まらず、地区によってはなくなる場所がここ数十年のうちに出てくる。また企業なども最低賃金のアップなどを含め職場環境の改善が必要。
男性	40～44歳	6次産業によるブランド化をはかり雇用を創出する。

性別	年齢	自由記述(雇用促進について)
女性	55～59歳	新たな産業を生み出す
女性	40～44歳	子育て中の母親で働きたいと思っている人は多くいると思うがそれが出来ないのは託児所などの設備が無いからだと思う。託児所があれば、そこで働ける保育士さんも職に就けるしそこに預けることで働けるお母さんも増えるのではと思う。当たり前のことだけどその当たり前のことができてない。
男性	50～54歳	仕事が増えれば雇用も増える。
女性	50～54歳	市内の未就職者に中高生みたいな職場体験をさせ、自分がやりたい仕事、やれる仕事などを体験してもらうのはどうだろうか？雇用主も就職者も互いに人柄などわかるかもしれない。金額(給与)を考えるだけでなく仕事の実験を体験するのもよいと思う。
男性	55～59歳	需要のない所に求人があるとは思えませんので平戸の場合は観光客が平戸でお金を使ってくれるような形での外貨化獲得の方法を考えるべきだと思います。
女性	35～39歳	退職した方々の雇用促進をお願いします。プライドが高く、雇用も難しいかとは思いますが。独居または高齢者だけの世帯への訪問活動など。
女性	30～34歳	島から働きに行きたいと思っても船の時間など天候も関係しますが、それを理由に面接を受けても断られることが多かった。島暮らししているだけでかなり損してると思った。
女性	30～34歳	働きたいと思う人が働けるようにする。年齢関係なく。資格取得のための講座を増やす。平戸市内の求人を各市役所などにはりだす。江迎まで行けない人も見ることができる。
女性	50～54歳	高校卒業して就職する子どもたちの働ける職種を増やして地元でも働けるようにしてほしい。
女性	40～44歳	若い方が求めるのはまず給料が高いことだと思う。それには平戸市の企業が発展していかない事にはどうにもならない。発展し続けるには平戸市民が平戸市のお店、企業を利用してもらうことが必要だと思う。市民全体で理解を深める必要がある。
女性	50～54歳	仕事をするには船から通勤することになりますが平戸市の求人も島の人あまり好まれません。フェリーの時間があるからです。また交通費も高額になるからです。島でもできる仕事とか島ブランドとかを市で応援してもらってインターネット販売とかできる方法とか広告とかもできたらと思います。
男性	55～59歳	海産物、魚がおいしいので食べられる場所の充実をしたり、休憩所の充実とか考えられる。一人で観光に来て楽しめるように、観光案内所をわかりやすいところに設置したらいいと思います、
男性	55～59歳	光ファイバーを利用した企業誘致。地震が少ないのでクラウドのサーバーなどに向いている。

性別	年齢	自由記述(雇用促進について)
女性	45～49歳	若者が市外、県外に就職するは地元で安心して働ける場所が無いからだと思います。実際私も地元で子どもの就職先を考えておりますが、なかなかみつからなくてニートの状態です。
女性	50～54歳	若者が働く職場が30年前と比べるとかなり減ってしまっている。平戸市の主産業である農業漁業観光業さらにそれらに関連した6次産業の雇用の場が増えなければいけない。雇用する側の人材育成が必要となってくる。他県から平戸市へ移住してくる人の中に雇用主となれる人材をみつけだせないだろうか。
男性	50～54歳	都市部につながる道路網の整備
女性	55～59歳	定年過ぎても働ける場が必要。
男性	55～59歳	まずは若者で他県より平戸市に移住したい人を見つける事。次いで並行して働ける場所の確保企業誘致を積極的に進めて豊かさをアピールできるようにする。なにしろこの平戸市には仕事が少ない。このままではと心配しています。卒業していく学生たちを平戸から一人でも出さないように従業員5～10名程度の会社を誘致して欲しいです。
女性	55～59歳	車の免許がなくて働ける場所が少ないので車の免許がなくても働ける場所が少しでも多くあればいいのにとと思います。
男性	50～54歳	海や山を活用したアドベンチャー体験施設と宿泊施設を併設したテーマパークをつくる。
女性	45～49歳	雇用安定は大きな目標だと思います。私の子どもも平戸は雇用が少ない安定しない(公務員は別)ということで高校から自宅外での生活になりました。私自身平戸には帰らないでいいとも言いました。子ども3人も市外に居ます。給与面でも少なすぎます。工業団地みたいに企業を誘致してみてもどうでしょうか
女性	30～34歳	働きたいけど働けない人たちの就職相談。適性診断。カウンセリング。就職後しばらくのフォロー付など。適宜無料で開催する支援。障がい者の雇用支援の充実。
男性	30～34歳	大企業誘致
男性	55～59歳	企業誘致を積極的に行う。平戸南部海上近くに、自衛隊または米軍の基地の誘致は異常でしょうか。
男性	55～59歳	漁村留学、山村留学の実施。インターン者の民泊受け入れ。産業振興のアイデアに準ずる雇用。
女性	30～34歳	外国人の労働者に来てもらって、高齢化する農業者に指導してもらおう。(労働者→農業を学べる、市より5万円。農業者→市より月5万円)
男性	25～29歳	企業誘致する。税制面を優遇して中規模くらいの工場あるいは施設等を作らないと雇用の場がうまれない。

性別	年齢	自由記述(雇用促進について)
女性	35～39歳	賃金が安すぎる。最低賃金をもう少し引き上げるべき。働く際、土地柄もあり肩身が狭い思いもしたことがある。働きに行くのに駐車場を借りないといけないう職場もあり、非常に不便。
男性	50～54歳	働きたい人を登録し、紹介するシステムが雇用につながるのでは。
女性	40～44歳	資格保持者を優先に退職者等への仕事をあつ旋する。もちろん無理のない程度に楽しくできる仕事を考える。例えば学校や保育園に関わる仕事、子どもたちと触れ合う機会を設けて気持ちを和ませる、とか。
女性	40～44歳	若者が働く産業が少ない。そのため地元離れが進みその結果、人口減。しかも男女の出会いがないため、人口が増えない。子どもの出生率も減ると思う。住むところがあつてこそ、働ける場所があつてこそ、いろんな産業が栄える。若者が働きたくなる魅力ある企業の誘致が必要だと思う。通販業界やそのための倉庫など。通販業界の発送の拠点を作る。台風の影響や地震等も少ないので強みになると思います。
男性	55～59歳	ブロードバンド環境の整備は最低条件。特に企業誘致に必要。
女性	20～24歳	まず若者の働く場所がない。(働きたいと思える場所がない)更に他に比べ賃金も安く、サービスや医療レベルも低い。現在ある企業・施設のレベル(業績)を上げることにより、若者に興味を持たせ雇用につながると思う。
男性	45～49歳	民間企業の広告費、行政負担(業種限定)企業が潤えば、雇用が増える。企業誘致のメリットを行政含め、積極的に支援。両端地の地域を活かした産業の創生(海外との交流拠点)地域を問わない産業の創出(自然環境を生かす)
男性	55～59歳	どの地域も企業誘致に取り組んでいますが、平戸も雇用を拡大するよう望みます。
女性	25～29歳	子どもを持つ母親が安心して働くことができるように、もっと市民の意見を聞き、取り入れるべき。
男性	50～54歳	ターミナルで喫煙できるよう、YOKAROの後にクーラー換気扇つけて、清掃員を雇う。
女性	40～44歳	中・南部に働く場所を多くしてほしいです。
男性	35～39歳	観光をサポートする人材バンク(登録制)「ながさきさるく」的な。伝統文化をもっと体験させることのできる施設等を作る。
男性	25～29歳	起業者支援と場所の提供、増える空き家の有効活用。
男性	50～54歳	大型施設及び観光施設が(ハウステンボスのような)受け入れられる企業、観光のものを造ってほしい。
女性	50～54歳	受け入れ側がしっかりして儲けないと雇えないので、企業側が頑張ってもらいたい。
女性	50～54歳	年齢に関係なく働ける能力と体力のある人の雇用。

性別	年齢	自由記述(雇用促進について)
女性	55～59歳	平戸市の安心安全な町を生かして、福祉系の大学または専門学校を誘致し、並行して老人のためのホームを数多く建て、卒業後はそこで働いてもらう。(土地がある中南部を生かす)そのためには道路(バイパスが必要)
男性	55～59歳	海の活用。エネルギーが眠っているように思われる。風力→太陽光→電力→水素生産
男性	50～54歳	田平町への工業団地の誘致(平戸大橋や生月大橋があるので企業がリスクを嫌がるので)田平町に誘致するなど
女性	50～54歳	日雇いの応募を公開して働くところがすぐに探せると嬉しいです。(日雇いが無いとなると別ですが・・・)派遣の仕事が田舎にはないのであったらとてもいいなーいつも思います。
女性	35～39歳	働く場を増やして欲しい。
女性	25～29歳	一般の人がよく利用する企業を誘致する。(イオンやダイソーなど)働く場もできるし、買い物するところが増えて住みやすくなる)
男性	35～39歳	病院スタッフの寮を市民病院周辺に整備。
男性	35～39歳	お店を増やす。特に商店街通りが寂れすぎてると思うので活気づくようにするべきだと思います。
女性	40～44歳	新しい商業施設などが入ろうとしているときに反対運動をする方が多いので反対するだけじゃなく長い目で見て応援するようにしたほうがいいと思う。若者たちが出て行くのも充実してないから。
男性	40～44歳	空いている土地の利用。田平はスーパーが少ないし薬局も少ない。大型ばかりだと商店街の方も大変。
男性	55～59歳	若者が定住してこそ子育て支援が語れるもの。即効性のある企業誘致、時間はかかるけど開発型の産業育成を急ぐべし。そのためには起業家たちに無利子融資、一部補助(これまでにない高額)を設けて支援をしてはどうか。
女性	55～59歳	自然に恵まれた中で農業、水産業などで生活しているのですが、子どもたちを高校に進学させる前に体験させたり、何か働ける喜びや興味、工場があれば故郷に帰省すると思います。定年した方も若者に教える場もでき活気のある平戸になるのではと思います。
男性	55～59歳	市外・県外、外国に打って出ないと何も始まらないのは当たり前。しかしそれに伴い内に呼び戻す(平戸市)ことがより重要。例えば、平戸に来ていただけるすべての人に満足を提供できるような雇用の創出が必要では?このことが市民からも理解協力が得られ、結果的に平戸市の発展に繋がるのではないかと思う。
女性	30～34歳	大きな工場とかを積極的に受け入れて欲しい。
男性	45～49歳	企業の誘致も進めてほしい。
女性	45～49歳	まず平戸は最低賃金の引き上げ。私は清掃業ですが、1日8時間労働していますが給料が安い。少ない給料から引かれるお金が多すぎる。若い人は平戸で働こうとは思わないはず。

性別	年齢	自由記述(雇用促進について)
女性	55～59歳	若者が働ける環境を作ってほしい。
男性	35～39歳	大企業誘致等の雇用場所の確保。
女性	30～34歳	気候も温暖で地震も少ない。色んな企業を誘致できないものか。仕事があれば人は集まる。人が集まれば各産業に対して需要も生まれて、さらに雇用につながる。若い人が出て行かずにすむ。そして出て行っても戻って来て働ける場所を作ってほしい。
女性	55～59歳	Uターンして帰ってきても若い人たちの働く場所が少なすぎるように思います。正社員で結婚しても安心して収入の一定がみられるような会社が多くなるといいなと思います。アパート等ができると住むところが安定し、安心して働けると思います。
男性	30～34歳	企業誘致。ふるさと納税で得た財源を雇用創出に充てたり、地域振興券交付のようなかたちで住民に還元してほしい。歴史や浪漫、誇りだけでは人口流出に歯止めはかかりません。
女性	55～59歳	四国のどこの県かは分かりませんが、葉っぱを取り、旅館や料亭に搬入し、老人が高収入を得ていました。もみじ、イチヨウ葉などでした。老人にも雇用がほしいですね。
女性	55～59歳	多くの雇用がある企業誘致。(働くところがないので市外に住む。あるいは帰ってこられないと思う。)
女性	40～44歳	ノー残業の定着。職場に保育施設を作る。
男性	45～49歳	平戸・田平・生月の商店街には空テナントが目立ってまいりました。「ふるさと納税」で得た財源を有効に活用し、事業を新たに起こす、起こしたいという起業家を募って、例えば軌道に乗るまで家賃や税金一部免除等、起業家の定住を促せられるような措置をとられたら…。そのことはネットやメディアをフルに活用して産業を発展させる努力をしてほしい。
女性	35～39歳	耕作放棄地を活用し、農業塾を開く。無償で貸し、農業の技術を養える場の提供。
男性	35～39歳	正社員の手取り給与の増加。女性軽視(給与差別等)の職場環境の撤廃。賃貸住宅の家賃を下げる。(手取りが十数万で家賃5万とかだと生活が成り立たない)
女性	55～59歳	非正規を減らす。
女性	55～59歳	公務員退職者(特に)再就職で高齢まで働いているような気がします。公務員の方は特に年金生活が安定しているのだから、若い方や就職を探している方たちのためにももう少し考えてほしいと思う。そうしないと大企業がないのだから、いつまでたっても雇用の充実はないと思う。

性別	年齢	自由記述(雇用促進について)
女性	50～54歳	定年退職後の再就労ということが難しいように思います。農業や漁業はある程度の年齢まで体力が続く限りは働けるとは思いますが。若い人が都会に出て行ってしまっている状況の今はこの60代～70代前半の年齢層の人たちの知恵と技術をまだまだ活かしてもらい、あらゆる分野で人材育成していただきたい。
男性	20～24歳	育児休暇の徹底とパート、アルバイトの時給の値上げを充実させるための事業者への支援。
女性	40～44歳	企業の誘致。
男性	25～29歳	働く場所が少ない。大企業がない。会社を作るべき。
男性	20～24歳	優秀な人材が外へ出てしまって、中々戻れない現状があります。例えば幼稚園、小学校から医療などに関わるような高い教育(理系に力を入れた)を市のプロジェクトとして10年20年をかけて、教育者も医療や介護に関する総合的な場所を作って、子どもから年寄りまで安心して過ごせるまちになるといいと思います。
男性	55～59歳	若者が働ける企業誘致。
女性	35～39歳	新事業への支援
女性	55～59歳	地域の特産物を作り出すための指導員を置いて、専門的に指導していく。農業にはその地にあった作物を研究し育てるための指導者を、漁業にはその漁場での漁法の指導者をというような専門家をおいて勉強させて、農・漁業を充実させていくことが大切だと考えます。
男性	35～39歳	特に男性の雇用促進を。そして男性の収入が増えれば結婚して家族を養うことにつながり人口増加、市の発展へと必ずつながると思う。
男性	40～44歳	若者を定着させる仕事が欲しい。地区行事だけでなく消防団にも協力できる人がいないとそのうちなくなります。
男性	50～54歳	子どもたちの就職時に能力の高い人材が市外に出ないような大企業を誘致する。
女性	55～59歳	田平町の改良にもっと力を入れてほしい。働く場所が少ない。道の駅を改善。勿体ない。商品を充実させたりできないものか。
女性	55～59歳	若い者が働ける場所。誘致や企業を取り入れるための道路の整備も必要かと思う。自動車道の促進、利便性を図ってみても。
男性	40～44歳	企業誘致
女性	40～44歳	海があつて魚もたくさん獲れるのもう少し魚を食べられる食堂を開いてほしい。平戸市ばかりに力を入れるのではなくて、他の地域でもしてほしい。
女性	55～59歳	働いている人のイキイキ度が伝わる催しの充実。
男性	35～39歳	福祉に特化した雇用環境。市外、県外からの応募があるようなホテルのようなちょっと割高な福祉施設。
女性	45～49歳	ジャパネットたかたさんのコールセンターなど大手企業の誘致、協力。
女性	35～39歳	社会保険料を下げる。

性別	年齢	自由記述(雇用促進について)
女性	40～44歳	食材豊富な平戸市、簡単レシピやB級食材等をもっと有効活用した農水産加工品等があったらいいと思う。
女性	40～44歳	(産業振興に記載したことにより)若者の働く場とする。
女性	55～59歳	平戸市に大きなデパート、イオンとか作れないのでしょうか？昔から少しも変わることなくさびれていく一方。洒落たこともしてほしいですね。若者がいなくなるのが分かります。お金もかかりますが、平戸ってとってもいいところだと思います。このままさびれるのはもったいない環境ですよ。よそから帰ってきて変わらないのにビックリ。PRが足りないのでは？
男性	50～54歳	雇用促進をするには、企業誘致と一次産品を加工する製造業の促進しかないと思います。企業誘致しても雇用者のニーズと合わないこともあるかもしれないが、工業製品の製造業であれば雇用に結び付くと考えます。
女性	20～24歳	リハビリの雇用
女性	45～49歳	子どもを育てていい教育を受けさせても、働く場がないので学校を卒業しても平戸に残れない。平戸は農林水産業と素晴らしい資源があるのに、活かしきれていないと思うので、生産→加工→販売まで平戸市全体できると雇用も増えると思う。

(2) 高校生の意見

性別	自由記述(雇用促進について)
女性	助産師になりたいが病院は少なく、産婦人科もないのでいずれは平戸を離れることになっているので、医療機関の充実をしてほしい。
女性	イベント関係の雇用
男性	障害者雇用について。特別支援学校生徒の作品展や、障がい者雇用パネル展、マンガで分かる障がい者雇用コーナーや補助具体験コーナーなどの場を作る。
男性	働くところを増やす。
男性	大型企業の参入。
男性	会社の情報をもっと分かりやすく伝える。
女性	農業などの大きな会社を立ち上げる。(平戸ブランド会社とか)平戸を宣伝する仕事を、若い職のない人にやってもらう。新しく店を立ち上げる。
男性	時給などお金に関してはいいと思いますが、働く人があまりいないと思うので働く人をもっと増やした方がいいと思う。
女性	今佐世保の学校に通っているのですが、平戸の求人が全くとっていいほどありません。友達にも平戸に就職してみたいという人も多いので、市外や県外にも求人を出してみたいかですか。(学校は佐世保商業です。)
女性	若い人が働きやすくするために、大きな企業とかを呼んだらいいと思う。
女性	ふるさと納税で潤ったお金を平戸の企業などに渡して、給料を少し上げる。
男性	その人の能力に合った仕事を進める、与える。
男性	大型企業を誘致する。
男性	農業・漁業だけでなく、様々な職場を増やす。
男性	雇用先がとにかくないと思います。私は鹿町工業の3年ですが、平戸からの求人というものをほとんど見たことがありません。まず、企業を平戸に増やすことから始めないと、平戸の雇用状況は変わらないと思います。観光することに魅力があっても、雇用と共に平戸に住むなど、私は絶対に嫌だなと思います。中国や韓国が近いので、他国との経営で成り立っている企業等を誘致し、工業用地を広げて成功すれば問題は解決すると思います。企業誘致の話を確認させるためには田平だけでなく、更なる大きな港を作らなければならないと思います。莫大な資金と土地が必要ですが、時間をかけて行うべきだと思います。
女性	もっと大型のショッピングセンターを作るべき。
男性	雇用できるように何か考える。
男性	中野地区のメガソーラーのような再生可能エネルギーの建設を推進し、土木業者を集める。

性別	自由記述(雇用促進について)
女性	まず平戸でできる仕事を発信して、良いところを引き出すのが良いと思う。とてもいい町なのに勿体ない気がする。国際的なことはもっと増やした方がいい。
女性	「働きたい」と思える環境を整える。
男性	平戸市への企業誘致、第一次産業での平戸ブランド化を行う。
女性	働く場所を増やす。
男性	本県の賃金は47都道府県の中でも低いというのが現実だ。(最低賃金)本市でも財政的な問題を抱える企業等もあるかもしれないが、賃上げは労働者にとっても働くことに対する意識の向上につながるのではないだろうか。さすれば、労働力は増加し本市への影響も大きいと考える。
女性	コールセンターなどを作る。
女性	若い人の働ける場所を増やす。子育てのしやすい環境づくり。
男性	ハローワークを建設
女性	働く場所を作ったらいい。
女性	CM や宣伝などをして注目を集める。
女性	働く場所を増やす。ブラック企業があるので、調査をしてなくす。せめて最低賃金はほしい。給料を上げる。企業のイメージを上げてあの会社に行きたいと思わせるようにする。
男性	お店を増やす。
女性	一人が働く時間を短くし、多くの人で交代しながら働く。
男性	少しずつ都市部にある大手企業を平戸へ。(平戸の雇用促進につながる)
男性	平戸市に人が集まらなるとダメな気がします。
女性	大手の企業を呼ぶ。
女性	若い人たちが働ける場所が増える事。
女性	後継者のいない自営業など(農業や水産等)をしている人のところに都会から人を呼んだらいいと思う。そのぶん支援は手厚くし、地域の方々にも協力してもらおう。

4. 定住・移住促進

(1) 市民の意見

性別	年齢	自由記述(定住・移住促進について)
男性	50～54歳	雇用があれば人口は自然と増加する。
女性	50～54歳	アイデアがよくわかりませんがまず仕事が無いので若者がいませんし、若者がいないと人口が増えません。
女性	30～34歳	プラスチックのごみの分別が出来るように処理方法(施設)を考えたほうが良いと思います。ゴミに対しての意識が他の地域に比べて低い。家の周りでゴミを燃やしている人が南部は多い。考えられない。道脇、道路下へのゴミの不法投棄ポイ捨ても多い。
女性	55～59歳	平戸市はお年寄りの一人暮らしはなかなか大変だと思います。交通の便は悪いし、自然が多いので雑草の刈り取りもしないといけないし、料金安くて頼めるようなところを作ってほしいです。
女性	45～49歳	人が人として暮らすことのできる宝の島と感ずます。人の温かさ、大地、海、自然。平戸を含む全国少子高齢化に伴い、医療福祉人材育成(資格取得から雇用まで)機関を構える。平戸高校をもっとその機関に位置付けられないのか。であれば、私の子どもも二人とも平戸高校に行かせていたと思う。
男性	40～44歳	古民家の再生により農業をやりたい人はたくさんいます。休耕地を安く売ってもらい、農業人を都会より呼んでみては。とにかくインターネットが早く広まらないと、企業は平戸に興味を示してくれません。どの企業でもインターネット・光通信は重要です。古い考えはやめてください。確かに景観も需要ですが、景観よりも経済です。地方創生でふるさと納税は成功していますが、大企業を平戸インター近くに持ってくることは必須です。企業が無さすぎる。日本全国で西日本にシフトする考えの企業は多いです。
男性	40～44歳	平戸のメリットを感じられない。今のままでは難しいので、福祉生活環境の充実が欲しい。
男性	55～59歳	メディアでも、移住した方のギャップがあり、元の土地へ帰られる話も聞きます。平戸でも農業で移住された方が、異なった土地へ引っ越しされた方がいます。何が定住に結びつかないのかを知ることから始めなきゃいけないと思います。たとえばのんびり暮らしたくて田舎にきたのに地域の行事の手伝いに参加させられる。ずかずかと生活空間に入り込んでくるなど。
男性	40～44歳	Iターン、Uターン者への格安提供
男性	45～49歳	とにかくネット。ネットさえつながれば必ず人は来ます。光通信を絶対に整備しないと取り残される。ベスト電器でネットを自由に選べないと危険です。
男性	40～44歳	ガソリン代等の補助制度。保育や教育などの完全無料化制度。
女性	20～24歳	今の時代、ネットは不可欠。光ファイバー地域拡大ならび平戸市の市内・各店舗情報のネット配信など外に向けてPRしてほしいかなと思います。

性別	年齢	自由記述(定住・移住促進について)
女性	30～34歳	趣味を充実させられる場所であることをアピールする。田舎の一軒家たち周囲気にせず音楽に没頭できる。広い田畑で園芸や野菜づくり、木工、手芸、ハンドメイドをゆっくり楽しめるなど、若い世代(子育て世代)も仕事をしながら充実した生活を送れる。すでにそういった目的で平戸を楽しんでいる方も多い。もっと取り上げて良いと思う。
女性	40～44歳	古民家等、使用されていない家を改修し、市内はもとより、県外からも移住したい人に安く提供する。新婚夫婦が住みやすい安くて安心して暮らせる集合住宅を造る。
男性	40～44歳	空き家を利用し、安価で住居を提供する。また、平戸は天然発電(ソーラー、風力)が充実してきているので、住居の電気料金を優遇する。
女性	40～44歳	町民センターや公民館で気軽に参加できるサークル、講習会があったら、地元の人と触れ合う機会が増えると思います。私は県外出身者ですが3月まで住んでいた県内他市はこの点が充実していたためか、転勤族にも人気だったと思います。
女性	30～34歳	まず、空き家を上手に利用してください。釣り客など仮家が安く使えるなら需要はあるようですよ。
男性	55～59歳	自動車CMに使われているように看板などを禁止して歴史、自然を大切に定住移住、住みたくなる地域。自然美を保ち、「美しい平戸」を残して欲しい。
男性	55～59歳	空き家を市が買い取り、リフォームして安く貸し出す。移住者へ10年・20年などの条件付きで税金を優遇したり、一次産業の見習いとして面倒をみる。
女性	30～34歳	賃貸の料金が他の市町村よりたかいたため、市外に子育て世代が流失する危険性がある。市営住宅のような公的な住宅で民間の賃貸より少し安い程度のものがあるといい。また、働き口の充実が無ければ、人は集まらないと思う。
男性	35～39歳	おじさん、おばさん(団塊の世代)口うるさいためみんな若者が平戸を離れている。それは仕方がないと思うので、活気ある企業が平戸にあれば若者は平戸を離れないと思う。
女性	55～59歳	在れた田畑、山林を有効活用して、きれいな平戸市をつくり、イメージアップを図る。
男性	50～54歳	東日本の生活環境劣化に対応した移住受け入れ体制の整備、アピール(アピールは慎重に)
男性	20～24歳	婚活、出会いの促進で若者の定住を呼びかけ
女性	30～34歳	平戸市の住民で平戸市に住む(住み続ける)という条件の人に家を建てる時に坪の単価を安くする、何かしら免税するなど、家を建てて長く移住してもらえようようなメリットを。
男性	50～54歳	子育て、福祉、健康づくり対策を主たる地域において均等なサービスの充実
女性	30～34歳	福祉医療の充実が無いと定住は無理です。
男性	40～44歳	平戸～松浦までの道路の整備。西九州道の接続までのスピードアップ。(時間短縮)平戸～佐世保間の特急バスを増やしてほしい。

性別	年齢	自由記述(定住・移住促進について)
男性	55～59歳	空き家の補修費の7割補助
女性	45～49歳	若い人を定住させるには、魅力ある街であることが大切だと思います。子育ての環境を充実させることにより、若い家族が移住したくなる街づくりを目指したらどうでしょうか。武雄市のように学力を上げる斬新な取り組みをしたり、海外と積極的に交換留学させる制度を取り入れたり、放課後教室で何かを特化して上達させる取組みなど。生月は自然豊かな美しい島なので、物づくりをする芸術家が移住してきたくなるような環境を整え、呼び込んではどうでしょうか。
男性	35～39歳	人が集まれば色々必要になってくる。まずは人を集める施策を！子育て世帯を呼び込めばいいと思う。
女性	30～34歳	外部からは良く見える土地ですから、条件良い住宅などを町に近い所に作って引き込めば、関心のある人は思います。
女性	50～54歳	人口を増やすにはやっぱり大きな企業を連れてくる。安定した収入が見込まれれば、大学で外に出た子どももふるさとに戻ってくるのでは？
女性	20～24歳	きれいで設備の整ったアパート、マンションの建設。（“海が見えるマンション”・“風景がきれいなマンション”、子育て支援施設が併設されていたり病院に近い。）平戸に移住したら特典を付けたりして移住者を増やす。一戸建てを建てる人に補助金を出すとか、かわいいマンションをデザイン（平戸ならではのマンション）
女性	50～54歳	老後楽しめる所をつくる。工芸とか手作り教室とか。
女性	55～59歳	移住者の住宅を求めやすくする。
男性	55～59歳	買物、医療、介護等難民にならぬような市・民間との連携システムの充実を図りつつ、人々が自らの手で集うサークルなどの開催及び、場所の提供と市民のサポート体制の充実。衣食住、介への交通アクセス。壮老年がいきいきとした小売りやスポーツ大会、子どもとのふれあいかいなどの催しなどをできる機会と場所の充実を図る。介護施設の拡充。老人の就業＝シルバー人材センターではダメ。本当に生きがいを持てる売り場職場提供。まだ言いたいことがたくさんありますが、機会がありましたら連絡します。
女性	50～54歳	自然をうまく利用して定住できる何かがあればいいと思うのですがいいアイデアが浮かびません。
女性	40～44歳	空き家のリフォームなどをして貸し出す。
男性	40～44歳	平戸のブランド化による産業の充実化が図れば、人口流出は抑えられると思います。
女性	55～59歳	自然の豊かさをアピールする
女性	50～54歳	平戸近郊都市町に就労している人に平戸市在住なら通勤補助(チケット)を支給、補助するとかして市内定住から通勤者になってもらうのもよいかもしれない。
男性	55～59歳	定住、移住する人に補助金などを出している所もあるようですが、外に出て行く人をひきとめる方にお金を使う方が優先だと思います。

性別	年齢	自由記述(定住・移住促進について)
女性	30～34歳	市営住宅がぼろすぎ。市民のための住居場所くらいもう少し整備して欲しい。
女性	30～34歳	今現在、平戸市にいる人を定住させるには子育て世帯の住宅取得をしやすくする。売地や中古住宅など情報を定期的に発信。子どもが育てやすい環境であれば、親は中々離れようとはしないから。公共料金、特に水道代の見直し。田平に住んでいるが、すみはじめたところからすると高い。ガス代も高い。
女性	40～44歳	住むところ(土地、家賃)がとても高いでしょう。いい環境にあっても実際生活しようと思うと、平戸市の収入では考える所がある。安心して働ける場所があり、そして住むところを求めるのではないかと思う。
女性	35～39歳	有名チェーン店(100円ショップ、ファミリーレストラン、コーヒー店など)の誘致。観光客にとって平戸は、自然豊かで魚がおいしくてと思えるが、他市より移り住んできた人にとっては、欲しいものがすぐ手に入らないのでストレスになる。地理的にも都心部までいくのに時間がかかりすぎるので可能であるなら、上記の企業を誘致してほしい。そうすれば、若者や都会から来た人も定住しやすくなると思う。今のままでは「こんなところに一生住み続けるのか・・・」という不安がある。
女性	50～54歳	平戸市、平戸市というけれど私がすんでいるのは島なので、子どもが結婚してもお嫁さんが島暮らしは嫌だという家庭が多いです。食料を買うにも船で渡らなければいけないし、島には仕事などないしどうすれば若者に魅力ある島になるのか。環境から変えないと島で買う食料品など高く買えません。運賃台を少しカットするとかできないでしょうか。こんなふうに言っている私でさえ、親がいなければこんなに暮らしにくい島から出て行きたいと思ってしまいます。平戸市といっても、島は全然違いますから。子ども達を高校にやるのも老人に対する福祉も島は大変です。10日ほど前には父が動けなくなり、車でフェリーに乗せて病院まで行きました。父は85歳になるのですが、いつも車のフェリー代がかかってしまいます。島の福祉のあり方を考えてもらいたいです。島も平戸市です。
女性	50～54歳	平戸市以外から結婚または移住する人たちへ祝金を出す。
男性	25～29歳	子育て特区。高齢者移住の受け入れ。(介護施設の充実、終末期医療施設。医師看護師などの増加)
女性	30～34歳	雑誌「チルチンぴと」と連携し、市内の工務店を認定してもらう。県内には認定工務店が無いので需要があると思う。健康・環境に意識の高い人々を呼び寄せ、定住してもらう。耕作放棄地上、市民農園を作り、市外の人にも利用してもらう。週末農業。土曜に来て一泊して月曜から仕事。宿泊できる素敵なログハウスを併設する。映画「あなたへ」のロケ地を身に観光客の方が来るのですが、薄香道からの入り口が分かりにくいので、中野の方まで来てしまう人を何度か案内しました。薄香道の入り口のT字路にわかりやすい看板を立ててはどうでしょう。

性別	年齢	自由記述(定住・移住促進について)
男性	55～59歳	とにかく付き合いでの支出が多いので、香典の定額とかお返しの取り止めとか、移住のきっかけになっているお金の付き合いをどうにか解消できないものか。お寺ごとの支出が大きい。生月独自のお祭りをもっと住民参加型にできないかなとか楽しいもの出来ないかなと思うばかり。
男性	55～59歳	空き家を改装し、Iターン、Uターンの人々に格安で貸す。特に校外の畑付き農家など。
女性	45～49歳	空き家が目立ちます。家主と相談のうえで改築して家を賃貸してはどうでしょうか。
男性	50～54歳	快適な生活環境の充実のため、自然を生かしたマリレジャー等の若者が楽しめるような取り組み。老人(高齢者)の住みやすい環境づくり。
女性	55～59歳	安心して生活できるように望みたい。
女性	55～59歳	光熱費や水道代などが少しでも安ければ生活しやすいと思う。
女性	25～29歳	TVなどでお見合いなどを積極的に応募してほしい。
女性	45～49歳	私も結婚してこちらに来ました。車での移動時間が多く、実家に帰るのも大変でした。いずれは市外に出て暮らしてみたいと思っています。他県からの移住者Uターンなどもあると思うので住める住宅など安くで提供したらどうでしょうか。
女性	30～34歳	定住している人の住民税を安くする。移住してきた人には最初の一年とか商品券を渡す。
男性	30～34歳	若者にとって魅力がない町なので、娯楽を増やすことや生活にお金がかかりすぎる。保育費や子どもの医療費など他の市では若者流出のためにいろいろやっているのに平戸は何もない。医療費(子ども)無料、保育料安く、Uターン者に向手当つけるなど
女性	55～59歳	もう少し住民税等、税金を安くしてほしい。移住する原因のひとつだと思う。他市に比べて高い。ふるさと納税のメリットは市民にあるのか？
男性	35～39歳	働くところがあれば定住・移住すると思う。
男性	55～59歳	交流人口を増やし、魅力ある平戸市を作る。地震が少ない県としてアピールする。
女性	30～34歳	空き家をリフォームしてペンションとする。(仏様のフォローが重要、空き家提供者のフォロー)
男性	25～29歳	空き家等をリフォームして分譲する。
男性	55～59歳	若い世代、特に田平町では北地区に移住が集中している。東地区の住宅を整備すべきと考える。
女性	35～39歳	子どもに手厚いサービスや施設、子どもが安心して遊べる場所(駐車場などでよく遊んでいるため)の確保。賃金が安いのに、賃貸住宅の家賃が高い。駐車場を借りるのも高額。何か一つでも住んで利点になるようなものを考えないといけないと思う。路上駐車が多く、町中がゴチャゴチャしているので、取り締まりをした方がいいと思う。

性別	年齢	自由記述(定住・移住促進について)
女性	40～44歳	巡回バスの充実。公共交通機関、高齢者割、定額制。
男性	50～54歳	PRを積極的に行う(看板、情報誌、TV、ラジオ)
女性	40～44歳	企業誘致(若年層が働ける場所の確保)
男性	50～54歳	Uターン、Iターン者だけでなく現住者に対する支援。
女性	40～44歳	市営住宅(平戸市北部)の老朽化が進み、最近では家族で住めるような住宅がない。若い世帯が住めるような場所を作るといいと思います。公園が近くにある住宅だとお可。古民家が多く残っていると思います。それを都会へネットなどで発信し、売る人、買う人の仲介を市ができるといいなと思います。購入後のリフォーム等の紹介もしてあげるとか。売りたいが売り方が分からない、買いたい情報が少ない人は多いと思います。今もHPもありますが、物件の写真が少なく住むときのイメージが付きにくい。近辺の様子とかも載せるべきです。それか無理ならストリートビューのサイトを添付とかがいいと思います。
女性	35～39歳	空き家が多いのに、売家、賃家じゃないのはもったいない。土地代が高すぎる。
男性	55～59歳	ブロードバンド環境の整備は最低条件。(この環境がないため、市外からの移住を止めた人がいます)
女性	20～24歳	田舎暮らしに興味のある方もたくさんいらっしゃいます。また地域には空き家や荒れた農地がいくつもあります。平戸の産業である漁業や農業の新たな担い手として空き家を提供するなど定住や移住の促進につながると思う。
男性	45～49歳	使用していない田畑の貸し出し、また耕作支援。住民優遇→日常生活、税金、医療、教育に係る負担軽減。(賃金は少ないのに、物価は他県とそう変わらない)
男性	50～54歳	税金が高い。
男性	55～59歳	自然災害が少ない点をもっとアピールするべきだと思います。
男性	35～39歳	地域の行事の精選(多すぎて負担)。教育の充実(子どもをしっかり鍛えて後々平戸に貢献できるように育てる)。定住特典を与える。
男性	25～29歳	空き家の有効活用は必要だと思います。移住された方が、働く場所を決めるまでの支援、情報提供も行うと、外から来る人も安心して移住、定住を考えていただけると思います。
男性	50～54歳	農業、漁業が満足ある豊富な財産のある市です。だから県外からの移住を楽しみのある収穫を目指して自然と和んで、平戸市民を増やしていったほうがいい。
女性	55～59歳	市内に産婦人科がないので、子どもを産み育てる環境でないため、若い人が故郷を離れて行っている。ぜひ産婦人科を設置してほしいです。
男性	55～59歳	グリーンヒルズトンネル駐車場空き地を再開発し、販売促進。(2区画分を使い、エネルギー付住宅にするとか)
女性	20～24歳	田平地区に住んでいるが、山内免や大久保の方ばかり住宅が増えてきている。もう少し他の地区にも増やすべき。

性別	年齢	自由記述(定住・移住促進について)
男性	50～54歳	車社会ですが高齢者のためのふれあいバスを(小型バス)を作り、交通に利便性を持たせる。新しいIT企業にも来ていただきたい。(企業家を育成する。)
女性	50～54歳	全国でも空き家問題が多くなってきました。でも家を探しているひとは結構いると思います。アパートは嫌だけど、一軒家なら住みたいと考えている人は結構います。(私の周りにもいます)空き家でボロボロになるよりも安い金額で貸していただけると家も借りる方もいいと思います。どうか定住のためにいい方法を考えてほしいです。私が今借りている所は一軒家で3万円です。本当に助かっています。探すのに大変でした。(他に条件がいいところがあれば見てみたいと思うのですがわかりません。)
女性	35～39歳	市外からの定住者には(条件付きで)お金をあげたりするのはどうか?若者が住みたくなるようなデザイナーズアパートや一軒家など作ってはどうか?芸術家に(期限をつけて)住んでもらうのはどうか?(観光にもなる)
男性	55～59歳	空き家の利用。空き家が多くあるが利用していない。
女性	25～29歳	西九州道を平戸までつなげる。新しく市営住宅作る。平戸は家賃も高いし、昭和建は住みたいと思わない。買い物する所や娯楽施設をつくる。市外、県外から来た人に必ず「自然はあるけど不便なところだね」と言われる。
男性	35～39歳	空き家、古民家の情報
男性	35～39歳	他の都市でも行われているような田舎暮らしにあこがれるようなまちづくりをするべきだと思う。
男性	40～44歳	空き家の活用。高速道路のおかげ(せいで)田平、平戸はただの通過点!みんな福岡に流れている。何にもない所より便利な何でもそろっている場所へ行きたがる。ハウステンボスまでとは言わないが友達家族が行きたくなるようなテーマパークみたいなものがあればいいかな。駐車場は無料!
男性	55～59歳	住居が問題であるとすれば、空き家バンクの開設。内容の充実。貸主の信用保証、家賃の一部補助、他の特典とセット。耕作放棄地耕作権、漁業権(独立立ち支援保証)商店街空き店舗移住権など。
女性	55～59歳	平戸市は若者が減って、高齢者も不安がいっぱいになっています。(過疎化)私たちもいずれは子ども達が残っていないと老後が心配になります。段々と頼りになる人もいなくなり、足腰が弱くなるので、利用しやすい車、公共の場、安心して移住できる場についてなど、相談できる場所があったらと思います。
男性	55～59歳	男女を問わずに年齢を問わず各層から、支持、協力、理解は得られる施策などが必要と思う。
女性	30～34歳	おためしターン。期間限定で家も貸し出し。シェアハウスとかもあればカップルができて移住して来たり。
女性	20～24歳	転勤で平戸市に転居してきたが、どうしても物価が安く便利な佐世保市内に出かけることが多い。商店街も需要だが、物価が下がればなと感じる。しかし、市民の人柄は他の地域よりもとてもいいので子育てにはいい環境なのはと感じる。

性別	年齢	自由記述(定住・移住促進について)
男性	45～49歳	健康ランドみたいなゆっくりできる施設を充実させてほしい。平戸が良くなるように頑張ってください。
女性	35～39歳	オーガニックな生活をしながら、子育てなどをしたい人は増えていると思う。それを仕事として生活できるようにオーガニックな平戸市にしていけばいいと思う。
女性	30～34歳	まずは仕事を持っている人から移住してもらおう。農業や漁業をやりたいと思う人も。
女性	55～59歳	田舎暮らしを望む方もいると思いますので、現在空き家になっている所等を整備して安く住んでもらえるようにする。そうすれば移住してもいいかなと考える人もいるのではないのでしょうか？区の方の協力も重要だとは思いますが。
女性	55～59歳	長崎県住宅が空いています。平戸市が借りて、一般市民に貸してもらえないのか。各地区には移住してきた人にすすめて入ってもらうように指導していただきたい。地区に入っていない人が目立つようになりました。
女性	55～59歳	その他気づいたこと。平戸大橋入口(田平側)の草が生い茂っている。「観光地平戸」をPRするにあたって一番に整備してほしい。
女性	40～44歳	平戸に住んだら医療、学業はどうなるというシミュレーションをつくる。シミュレーションが充実していなければ平戸には住めない。
女性	50～54歳	空き家や古民家を安く提供して住宅を手に入れやすくする。
男性	45～49歳	定住や移住を促すに足りる企業が少ない。企業誘致が進まないのなら、市の臨時雇用には市内の在住者を限定して雇う等の措置が望ましい。空き屋、空き土地を調査し、家主と相談の上、平戸市のサイトのなかでもっとアピールして魅力を伝えるべき。(ふるさと納税で注目度は一番ある)5年以上(移住者が)住めば祝い金金一封(一万円とか)ふるさと小包プレゼントとか。
女性	35～39歳	1ターンで移住してきた方の表彰制度(〇年間定住した場合、市民表彰するなど)
男性	35～39歳	働ける場所の確保。安くて新しい賃貸マンション。買い物したくなる店の充実。
女性	55～59歳	空き家の活用(リフォーム)⇒宣伝
女性	50～54歳	空き家が多くなったので、リフォームして住めるようにして格安な料金で提供するなど。古民家を改造して人を呼ぶような商売をすとか。平戸もお見合いツアーなど企画して将来平戸の地へお嫁さんに来てくれる人を募集しては？情報番組に依頼すとか、思い切ったことをしてみてもは？
女性	50～54歳	看護専門学校等の専門学校を平戸市内に。子どもたちが故郷にとどまってくれるのでは。
男性	20～24歳	テレビを見たのですが、子ども一人当たり産むと御祝い金と助成金支給とかすると、若い移住者が来るかも。
女性	40～44歳	医療が充実していれば高齢になっても安心だが、今のままでは病院に行くことすら何時間もかけ佐世保あたりまでいかないといけな。

性別	年齢	自由記述(定住・移住促進について)
男性	20～24歳	健康管理も含めた(タニタのように食からの数字を使って健康)市民の健康を個人でも気楽にできて、利用できる場所があって町全体が健康で年をとっても戻って来て、安心できる町づくりをしていただけたら。まずは外へ出た人に戻ってきてもらうのも人口増に役立ちそうですが。
男性	55～59歳	平戸に定住移住には若者が働ける職場を作ることが第一ではないでしょうか。まず平戸の若者の声を行政が聞く事。人口減少は若者の流出。行政は企業誘致第一に考える必要有り。
女性	35～39歳	現定住者からの情報発信。魅力ある平戸をアピールすることにより、平戸への興味、関心が沸くのでは？
男性	35～39歳	市外の街の方が、どうしても魅力的です。どこに出かけるにも遠い。大病した時が心配。子どもが大きくなって進学したい学校があるだろうかなど不安はたくさんです。
男性	40～44歳	空き家情報など市と業者が共有できる。
男性	50～54歳	働ける場所を増やす。
女性	35～39歳	市のごみ袋代が高い。
女性	55～59歳	田平町は、土地は安いが通信の面がダメ。南地区は特に ADSL もつながっていない。水道の整備も完全でない場所がある。平戸⇄江迎間に薬屋のひとつもない。通勤している方は多いので、ドラックストアのひとつもほしい。
男性	30～34歳	空き家バンク等の規模を拡大して入りやすい状態を作る。
男性	40～44歳	定住・移住者への援助(住宅、資金 etc.)
女性	40～44歳	住んでいる周りにスーパーやコンビニがあるといいですね。あと平戸大橋まで九州自動車道ができたなら観光にもつながって、観光客も増えると思います。
男性	40～44歳	農・漁業が自由にできる支援。定年して農業、漁業ができるように1年間指導をするなど。北農や漁協組合の方が行う。支援、土地の有効利用。税金を安くして貸し出す。
男性	20～24歳	平戸市は他と比べて、災害には無縁だし緑地や水場も多そうなので、夏場も過ごしやすい。ちょっと娯楽施設が足りなく感じるけど、ネットがあれば退屈しないし、スーパーやコンビニも点在していて便利なのでそれを知ってもらえたらと思います。観光客向けのパンフとかでアピールしたり、このアンケート結果とか一部共有して市と市民連係して市が良くなればいいと思います。
女性	35～39歳	固定資産税減額または0円
男性	40～44歳	子育て世帯を呼び込む施策の充実。例:小学校卒業まで医療費無料、保育料無料
女性	40～44歳	通学路でもある歩道の草、実際に歩いてみると陥没しているところもあります。

性別	年齢	自由記述(定住・移住促進について)
女性	55～59歳	現在、確かに一人住まいも多く空き家も多いのが現状です。都会暮らしにつかかれた方に安く家を貸してあげたりされたいと思います。そのためにも仕事が必要になります。リゾート平戸って海に囲まれているのにそれを生かさないのでしょうか？城・教会・平戸大橋、色んなポイントがあるのもったいないですね。
男性	50～54歳	定住するには雇用がないと続かない。移住は素晴らしい自然環境を活かした三次産業に結びつく可能性があると思います。自然環境を積極的にPRすることで、移住につながればいいのですが。
女性	45～49歳	子どもを育てるのに平戸市は住みにくい。佐世保から同居のために引っ越してきたが、病院に行くだけでも半日以上かかり、働いているお母さんは休みも取れないので苦労した。高校に通学させるときも、バスの数が少ないので自家用車で送迎をしていた。産科、小児科が近くにあるといいし、バスも学生用があるといいなと思った。とにかく子育てする環境を整備すると、若い人たちが定住するのではないかと思います。(とにかくお金がかかる)

(2) 高校生の意見

性別	自由記述(定住・移住促進について)
女性	交通機関を整備し、市外への移動を便利にする。
女性	住みやすくするため、ショッピングモールを作ってほしい。
女性	Iターン者の補助の充実。
女性	街灯をもっと置く。ゲームセンターがほしい。
女性	平戸のHPを誰でも見やすくする。
男性	高齢者向けの住宅の改修や、エコ住宅改修、リフォームに対する助成(目的)より住みやすい住宅への改修を支援することで、より長く平戸市に住んでもらう。
男性	潰れた店を壊し温泉を作る。
男性	空き家を有効活用する。
男性	もっと長所をアピールする。
男性	ゴミなどを拾うボランティア活動を推進する。
男性	周りにショッピングモールなどの便利な場所を作る。
男性	農業従事希望者のために休耕田の活用。手の入っていない土地の整備。保育・託児施設の充実。
女性	空き家(地)の利用。
女性	家をもっと作る。子連れの家族優先で住める家を作る。
男性	住宅が多いのですが、中のトイレなどの整備が整っていないと思うから、もう少し整えた方がいいと思う。

性別	自由記述(定住・移住促進について)
女性	「平戸市」といえば「カストース」、長崎といえば「ちゃんぽん」「カステラ」「田舎」というイメージを覆すようなTVCMを作ったりする。他の市や県の人々が思っているイメージを聞いたり、アンケートなどを取ってからする。
女性	県外の学校では在学中にそこでしかとることのできない資格を取るために、その学校へ県外から行くという人もいます。そのような専門学校みたいな場を作ってみるのはどうですか。公報を市外の不動産や大きな駅に置かせてもらう。
男性	都会にもあるようなチェーン店(スタバなど)がほしいです。通学に時間がかかりすぎるので、自由に通学手段を選べると思います。
女性	今のままでも安心して暮らせるので環境はとて素晴らしいと思います。移住はキレイで住みやすいところがいいと思います。
女性	マンションをもう少し増やしてほしい。(小さいアパートとかでも)
女性	平戸は何といっても地域の人があたたかいので、それを伝えてみてはどうかと思います。差し入れはもちろん声をかけてくださったり、お話をされたりするので、そこを全面的に出していけばいいと思います。また新しく来た人に近所の人を紹介してあげたり、文化や買い物などについても教えてあげたりすると「いい所だな」と思ってもらえると思います。
男性	何か、定住していただけたらというサービスを作る。
男性	急に移住するときは、お金の問題があるため、もし相手が移住するようなことがあれば安く貸すのがいいと思います。
男性	家を増やす。働く場所を増やす。
男性	移住した人に土地や助成金を市から出す。
女性	草がたくさん生えているところを草刈りした方が良い。公共の場所など。
男性	平戸以外の方が第一に言うのが、橋があることが行きづらさの象徴のようです。公共交通手段として西肥バスを使って橋を渡る人が多いですが、それでも平戸には行きづらさもようです。西肥バスの本数を増やしてもらうこと等、改善策は数を増やすほかないと思います。定住・移住促進したいなら盆地がないので、開拓すればいいと思います。それか戸建を移住目的だけの人専用で建ててみてはどうかと思います。脱サラして農家を始めるのに平戸ほどやりやすいところはないと思います。
女性	交通機関の充実
男性	平戸市をアピールする。ゆるキャラとか色々工夫して。
女性	アクセスをもっと便利にする。バスが少なすぎるので便を増やす。
女性	住みやすく便利な町を作る。
男性	ファミレス、ファーストフード店など少し都会化を目指す。景観を崩さない程度で。

性別	自由記述(定住・移住促進について)
男性	まずは平戸市木引田町から宮の町までの道路をきれいにする。つぎはぎのような感じで見た目が悪い。観光客に「平戸に住みたい」とお思わせるための第一歩。
女性	大型商業施設を増やす。
女性	交通の便を良くする。医療機関を発達させる。
男性	観光客がもう一度訪れたいと感じるようなまちづくりは絶対必要だと考える。現市民に対しても働くところがない、賃金が安いからと都市への移住が減るように本市を挙げて「暮らしやすい平戸市」を作り上げることは重要だと思う。
女性	活気ある町にする。お祭り豊富。
女性	高校など学科を増やすことができればいいと思う。
女性	収入によって公共住宅に入れる入れないをなくす。
女性	費用を安くする。
女性	誰もが住みやすいまちになるようにする。
男性	土地を安くする。
女性	誰もが気軽に行ける場所を作った方がいい。子どもも大人も老人も遊べるところ。
女性	他の市に無いような特典や注目されるようなことをする。
女性	若者が住みやすいようにお店を増やす。ファミレスなどを作る。
女性	親が子に家を買ってあげる。子どもはもうそこに住むしかない。みんな働けるところが多く、交通の利便性が高く、買い物の利便性の高い栄えたところに行くので、平戸を元気にする。若者はみんな給料の高い働ける場所がたくさんあるところに移住してしまうと思う。若い人が多いところは治安が悪くなりそうだけど、町が栄えるイメージがある。
男性	住宅地が高地にあったりして、大変だったりするので、海近くの低地などにも住宅地を増やす。
男性	高層マンションを作る。
女性	働ける場所を増やす。種類の違う店を作る。(洋服屋など)
男性	犯罪が少なく、安全安心なまち。地域の人同士のつながりで安全確認を行える環境づくり。
男性	きれいなまちにしよう景色を残したまま、住居や道路を増やして自然がいっぱいで住みやすい街をアピールする。ここで働きたいと思えるような職場。
男性	子育てやいろんな面での保障を充実させ、住みやすい町だということを全国に広める。
女性	誰もが安心して住めるまちづくり。
女性	住むところを増やす。安定して暮らせるところ。
女性	移住者の移住理由を聞く。農業・水産業がやりたいという人には場所を提供してあげるという対策をとる。定住・移住者にその理由を聞く。
女性	税金が高いから安くして家賃を下げる。交通道路の整備。便利に使いやすく。

